

婦人関係調査資料No. 38

勤労者家庭の消費生活水準に関する
意識調査

—昭和39年調査結果報告書—

1965年

労働省婦人少年局

はしがき

労働省婦人少年局では、かねて労働者家族福祉の見地から、労働者家族問題の所在と福祉対策についての研究をすすめています。その一つとして労働者家族の消費生活水準についての基本調査を1962年から5か年におたり計画、実施しています。

この調査の目的は、労働者家族の消費生活において生活の基本的部分がどのように充定されているかを明らかにするとともに、労働者家族の主婦が消費生活に関してどの程度の水準を最低必要なものとして意識しているかを把握しようとしたものであります。第3年次にあたる今回(1964年)

調査は、文化・教養の問題に重点を置いて、調査対象者を家庭管理の中心者である妻とともに労働者である夫自身も含めて実施しました。

この調査の結果が労働者家族福祉問題に関心をもたれる方々の御参考になれば幸いと考えます。

この調査の実施にあたって各調査対象事業所並びに対象者の方々の多大の御協力を得ましたことを深く感謝し、ここに厚く御礼申し上げます。

1965年11月

1965.11.19

労働省婦人少年局

目 次

調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査対象	1
3. 調査対象者の抽出方法	1
4. 調査の方法	2
5. 調査時期	2
6. 調査項目	2
調査結果要約	3
調査結果	10
Ⅰ. 調査世帯の概要	10
1. 夫の職種	10
2. 家族構成	10
3. 夫と妻の年齢別分布	11
4. 世帯収入	11
(1) 平均世帯収入と収入階級別分布	11
(2) 収入源泉	13
(3) 妻の就業	15
(4) 家計充足感	16
イ 不充足感が強い収入階級層	17
ロ 充足感が強い収入階級層	19
5. お手つだいの有無	19
6. 住居	20
(1) 住宅の種類	20
(2) 部屋数	21
7. 地域別分布と夫の通勤時間	23
(1) 事業所々在地別世帯分布	23

(2) 夫の通勤時間	23
Ⅱ 教養娯楽費	23
(1) 家計と教養娯楽費	23
(2) 教養娯楽費支出階級別世帯分布	24
(3) 今後の見込み	26
Ⅲ 余暇	28
1. 余暇時間(妻)	28
(1) 保有状況	28
(2) 充足状況	28
2. 余暇活動	34
(1) おもにすること	34
(2) やりたいと思いつながら十分できないこと	38
(3) 余暇活動を妨げるもの	42
(4) 余暇がふえたらやりたいこと(妻)	45
3. 文化教養の各項について	47
(1) テレビを見る時間	47
(2) 新聞購読率	50
(3) 雑誌購読率	50
(4) 読書(雑誌以外)	51
イ 読んだ本の冊数	51
ロ 読んだ本の有無	53
ハ 読んだ本の入手方法	54
ニ 職業関係書籍の職場の備付けの有無	55
(5) 旅行	58
(6) 団体活動	62
イ 団体加入状況	62
ロ 団体活動に使う時間	67
(7) 家族の外出	70
イ 住宅種類別外出の状況	70
ロ 住宅についての妻の意識	71
(8) 家での交際	73

(9) 家庭の年中行事	75
Ⅳ 文化・教養・レクリエーションのための社会施設	77
イ 社会施設利用状況	77
ロ もつと利用したい社会施設	77
Ⅴ 年次有給休暇と残業(夫)	82
1. 年次有給休暇	82
(1) もっている日数	82
(2) 取得状況	83
(3) 年休をとつた理由	84
(4) 年休をとらなかつた理由	86
(5) 年休のとり方	87
(6) いちばん長く休んだとき	88
(7) いちばん長く休んだ日数	91
(8) 希望する年休のとり方	93
2. 残業についての意識	95
Ⅵ 住居の主要設備、耐久消費財及び教養娯楽関係消費財	97
1. 水道及び電気モーター式井戸の設備状況	98
2. 炊事用ガス、石油コンロ、電熱器の設備状況	99
3. 暖房用ガス・石油・電気ストーブ及び電気こたつの設備状況	99
4. 耐久消費財の保有状況	99
5. 教養娯楽関係消費財の保有状況	101
Ⅶ 家庭及び消費生活各面における文化・教養面の充足感	102
1. 家庭についての充足感	102
2. 家庭のいこいを妨げるもの	103
3. 家の外のはこり、騒音等の原因及び公害に抗議の有無(妻)	106
(1) 家の外のはこり騒音等の原因	106
(2) 公害に抗議の有無	107
4. 消費生活各面における文化・教養面の充足感(妻)	107
昭和39年勤労者家庭の消費生活水準に関する意識調査調査票	111

統計表目次

第1表 夫の職種	10
第2表 職種別、夫の年令別家族人数及び親との同居の有無	10
第3表 夫と妻の年令別分布	11
第4表 職種別、規模別、夫の年令別、家族人数別、地域別平均世帯収入及び世帯収入階級別分布	14
第5表 規模別、職種別、地域別夫の給料以外の収入、夫の副業及び妻の職業の有無	14
第6表 規模別、職種別、子どもの状態別、地域別妻の職業の有無及びその内訳	15
第7表 世帯収入階級別、家族人数別家計充足状況	17
第8表 家族人数及び世帯収入階級別、家計充足状況	18
第9表 世帯収入階級別、妻の職業別、乳幼児有無別、職種別お手つだいを雇っているか否か	20
第10表 地域別、世帯収入階級別、職種別住宅の種類	21
第11表 地域別、職種別、世帯収入階級別、家族人数別部屋数	22
第12表 職種別、家族人数別、地域別1ヶ月あたり平均教養娯楽費及び世帯収入中に占める割合	24
第13表 世帯収入階級別、職種別、地域別、家族人数別1ヶ月あたり教養娯楽費階級別世帯分布	25
第14表 世帯収入階級別、職種別、地域別、家族人数別文化費についての今後の見込み	26
第15表 年令別、子どもの状態別、妻の職業別、世帯収入階級別、職種別、妻の余暇保有状況及び平均余暇時間	29
第16表 年令別、子どもの状態別、妻の職業別、世帯収入階級別、妻の余暇についての充足感及びもつとほしい平均余暇時間	30
第17表 職種別、世帯収入階級別、年令別、妻の職業別、夫と妻の余暇活動（おもにすること）	35
第18表 職種別、世帯収入階級別、年令別、妻の職業別、夫と妻の余暇活動（やりたいと思いつながら十分できないこと）	39
第19表 職種別、世帯収入階級別、規模別、年令別夫の余暇活動を妨げる原因	43
第20表 職種別、世帯収入階級別、妻の職業別、年令別、妻の余暇活動を妨げる原因	44
第21表 職種別、世帯収入階級別、年令別、妻の職業別、	

余暇がふえたらやりたいこと（妻）	46
第22表 職種別、世帯収入階級別、年令別、妻の職業別夫と妻のテレビを見る時間	48
第23表 職種別、世帯収入階級別新聞購読状況	50
第24表 職種別、世帯収入階級別雑誌購読状況	51
第25表 職種別、世帯収入階級別、年令別、妻の職業別夫と妻の読書状況	52
第26表 職種別、世帯収入階級別、年令別、妻の職業別、夫と妻の読んだ本の種類	54
第27表 職種別、世帯収入階級別、夫と妻の読んだ本の入手方法	57
第28表 職種別、規模別、職業関係の本の職場に備えつけの有無（夫）	58
第29表 職種別、世帯収入階級別、年令別夫と妻の泊りがけ旅行の有無、回数、一緒に行った人及び泊数	59
第30表 職種別、規模別、年令別、世帯収入階級別夫の団体加入状況	64
第31表 職種別、規模別、年令別、世帯収入階級別、妻の団体加入状況	65
第32表 夫の職種別・年令別、妻の年令別・世帯収入階級別・職業別、夫と妻が団体活動に使う時間（1ヶ月あたり）	68
第33表 住宅の種類別家族の外出状況	71
第34表 住宅の種類別、職種別、年令別、妻の職業別、妻の住宅に対する希望	72
第35表 職種別、年令別夫と妻の家に友だちを招くことの有無及び好き嫌い	74
第36表 職種別、妻の年令別、地域別、世帯収入階級別家庭の年中行事	76
第37表 職種別、年令別、地域別、世帯収入階級別、夫と妻の社会施設利用状況（過去1年間に利用したもの）	78
第38表 職種別、年令別、地域別、世帯収入階級別夫と妻の社会施設利用希望状況（もつと利用したいもの）	80
第39表 規模別、職種別、世帯収入階級別、年令別、地域別、年次有給休暇の持日数（就業規則上の）	82
第40表 規模別、職種別、世帯収入階級別、年令別、地域別、年次有給休暇の取得状況	83
第41表 規模別、職種別、世帯収入階級別、年令別、地域別年休をとつた理由	85
第42表 規模別、職種別、世帯収入階級別、年令別、地域別年休を全部とらなかつた理由	86
第43表 規模別、職種別、世帯収入階級別、年令別、地域別年次有給休暇のとり方（年次有給休暇をほとんど全部とつたものについて）	88
第44表 規模別、職種別、年令別、地域別いちばん長く休んだ時期及び事業所の就業状況	89
第45表 規模別、職種別、年令別、地域別いちばん長く休んだ日数及び事業所の就業状況	92

第46表 規模別、職種別、世帯収入階級別、年令別、地域別年次有給休暇の希望するとり方	94
第47表 規模別、職種別、世帯収入階級別、年令別、地域別、残業についての意識	95
第48表 職種別、住居の主要設備及び耐久消費財、教養娯楽関係消費財の保有状況	97
第49表 職種別、世帯収入階級別、年令別、夫と妻の家庭についての満足感	102
第50表 職種別、地域別、住宅の種類別、世帯収入階級別、親との同居有無別家庭のいこいを妨げるもの	104
第51表 地域別家の外のはこり、騒音等の原因	107
第52表 妻の年令別、公害について抗議、相談の経験の有無及びその結果改善の程度	108
第53表 職種別消費生活各面についての妻の満足感	109
第54表 世帯収入階級別消費生活についての妻の満足感	109

調査の概要

1 調査の目的

経済の発展とともに勤労者家庭の生活水準は一般に高まっているが、生活水準が実質的に向上するためには、消費生活の内容が家族生活の主要な機能を十分に発揮できるように配慮されることが必要である。

この調査は勤労者家庭の消費生活において生活の基本的部分がどのように充足されているかを、あらかじめするとともに、勤労者家庭の主婦が消費生活に関してどの程度の水準を最低必要なものとして意識しているかを把握し、消費生活向上施策の基礎資料とするため昭和37年以降毎年行なうものであるが、本年は文化・教養の問題に重点をおいている。

2 調査対象

鉱業、建設業、製造業、卸売業、小売業、金融業、保険業、不動産業、運輸通信業、電気・ガス・水道業、サービス業（一部）に属し、常時30人以上の労働者を雇用する民営、官営および公営の事業所に働く男子労働者およびその妻とする。（昨年度までの本調査は家庭管理の中心者である主婦のみを対象としてきたが、本年度の調査は文化・教養の問題に重点をおいているため対象者を勤労者家庭の夫と妻の双方とした）

3 調査対象者の抽出方法

(1) 抽出

事業所の抽出は昭和38年事業所統計調査の事業所名簿にもとずき、事業所規模別男子常用労働者数に対応するように規模別サンプル世帯数および事業所数を決め、等間隔サンプリングにより抽出。

世帯の抽出は事業所備付の労働者名簿から規模別1事業所割当数の有配偶の常用男子労働者を等間隔サンプリングにより抽出した（社長、重役等の会社役員は除外）

規模別1事業所当りサンプル数は大規模（500人以上）20人、中規模（100～499人）15人、小規模（30～99人）10人とする。

(2) 規模別対象世帯数

あらかじめサンプル世帯数を3000世帯とし、これを昭和38年12月毎月勤労統計による規模別常用男子労働者数に基づき算出すると、規模別サンプル世帯数は大規模（500人以上）960世帯（32%）、中規模（100～499人）1110世帯（37%）、小規模（30～99人）930世帯（31.0%）となり、これを規模別1事業所当りサンプル数で除すと、規模

別事業所数は大規模48, 中規模93, 小規模93となるが, 小規模事業所においては有配偶男子労働者数が所定サンプル数に満たない場合がありうるので, あらかじめその率を試算し(0.25), これを事業所数に乗じて以下のとおりとした。

調査対象者は常用男子労働者3,230人及びその妻3,230人回収数は各々2,792人であった。

規模別対象者数は次のとおりである。

大規模(500人以上)	20人×48事業所=960人 (936人 33.5%)	3,230人 (2,792人 100%)
中規模(100~499人)	15人×74事業所=1,110人 (969人 34.7%)	
小規模(30~99人)	10人×116事業所=1,160人 (887人 31.8%)	

* カッコ内は回収数と, その規模別比率

なお同年同月の毎月勤労統計調査による常用男子労働者の構成は大規模31.4%, 中規模36.6%, 小規模32.1%であり, 本調査はやや中規模の比率が低くなっているが, これは, 対象となつた中規模事業所中に事業所の廃止及び規模縮小があつたためである。なお本調査の対象の既婚男子労働者世帯に限つてあるので, 前記常用男子労働者の構成と直接比較することはできない。

4 調査の方法

対象者自身の記入による。

5 調査時期

昭和39年5月

6 調査項目

家族構成, 就業状況, 家形, 教養娯楽費, 余暇活動, 年次有給休暇, 残業, 家庭及び消費生活各方面についての充足感等

調査結果要約

調査結果にあらわれたいくつかの特徴

- 1 妻の家計についての充足感は前年調査に比べ, 充足感をもつものが幾分ふえ, 不充足感をもつものがへつた。
- 2 文化費は平均5,397円で家計の13%をしめ, 今後文化費の増加を見込む妻は4割弱である。
- 3 文化教養面の消費水準は一般に職員層, 高所得層ほど高い。
- 4 読書, 旅行, 交際, 社会施設利用等の余暇活動は若年層ほど活発である。
- 5 文化教養のための社会施設利用率は低所得層, 生産労働者が低い。
- 6 妻は夫にくらべ余暇活動の市がせまく, 年令が高まるにつれて一層せまくなる傾向がつよい。
- 7 年次有給休暇(夫)を全部利用しないものが多い。
- 8 年次有給休暇は, 細かく分けてとる傾向が非常に強く, まとめてとることを希望するものは比較的少い。
- 9 教養娯楽面についての満足感をもつ妻は $\frac{1}{4}$ で, 他の消費生活面に比べて少ない。

I 調査世帯の概要

(1) 家族構成

調査世帯の平均家族人数は4.2人で昭和35年国勢調査4.5人にくらべ小家族の特徴をもつ。

職種別には生産労働者世帯が若干多い。(生産労働者世帯4.4人, 職員等世帯4.1人)

夫と妻の年令別分布をみると, 夫の年令30代のものが44%でもつとも多く, ついで40代23%, 20代17%, 50代以上15%となつている。妻の年令はこれより若く, 30代ついで20代が多い。全国平均にくらべて勤労者夫婦はかなり若い世代のものが多。(昭和35年国勢調査有配偶男子50代以上33%, 20代13.1%)

(2) 妻の就業

妻のうち雇用労働についているもの18.2%であり, その他パートタイムに働くもの2.4%, 自営業につくもの5.7%, 内職をするもの1.4%と4割近い妻が働いて収入を得ている。家事に専業する妻は55.7%であつた。

(3) 家計と教養娯楽費

1ヶ月の世帯総収入(可処分所得ただしボーナスは含まない)は2~5万円層が7割近く占

め、平均世帯収入は41,537円であるが、職種別にみると生産労働者世帯37,083円、職員等世帯45,181円とかなり差がみられる。

家計についての妻の充足感は十分と感ずるもの80%,なんとかまにあっている53.0%,不足が33.6%で前年8月調査(前年度調査結果十分69%, とうにか52.0%, 不足40.1%)に比べ、充足感をもつものが幾分ふえ、不充足感をもつものがへつている。

教養娯楽費平均月額5,397円で家計中13%を占め、職員等世帯、7大都市の教養娯楽費の支出が大きい傾向がみられる。

	平均月額	家計中の支出割合
職 種		
生産労働者	4,677円	12.6%
職員等	6,023円	13.3%
地 域		
7大都市	6,378円	13.4%
その他	4,819円	12.7%

今後教養娯楽費を増やす見込の妻は36.9%, へらす見込みの妻は6.5%である。

II 余暇活動

(1) おもにすること

余暇におもにすることとしては調査表に掲げた30項目中、夫はテレビをみる(78%)新聞を読む(74%)を最高として、休息、見るスポーツ、読書、晩しやく、ラジオ、雑談、日曜大工、ご・しょうぎ・マージャン類、動植物の世話、映画観劇、自分の勉強、写真、つり等、妻はやはりテレビの75%, 新聞の59%, 手芸・裁縫・編物類47%を最高として、休息、雑談、読書、ラジオ、デパート等での買物の順に頻度が高い。

趣味や娯楽は年齢、職種、所得階級層により若干の差がみられるが、一般に夫・妻とも職員層・高所得層ほどほとんどの項目について頻度が高くなっており、余暇活動の巾の広いことがうかがわれる。妻は夫に比べて趣味や娯楽の巾がかなりせまく、年齢が高まるにつれて一層せまくなる傾向が著しい。

(2) やりたいと思ひながら十分にできないこと

夫、妻とも旅行、読書、自分の勉強、映画観劇等、休息を求めるものが多く、その他夫は写真、つり、スポーツを求めるものが多いのに対して妻は手芸・裁縫・編物類、料理研究、デパート等での買物、お花お茶をもとめるものが多い。とくに若年層の欲求度の高いが目立っている。

やりたいことが十分にできない理由としては夫、妻とも「暇がない」が $\frac{1}{2}$ 、「費用がかかる」が $\frac{1}{3}$ である。

III 文化・教養の各項について

(1) テレビを見る時間

テレビを見る時間は1日平均夫2時間13分、妻2時間34分で、無職の妻の2時間55分がもっとも長く、収入別には低所得層がやや長い。

(2) 新聞購読率

月ぎめで新聞を購読している世帯は93.3%で前年調査91.2%より増加している。収入3万円未満は購読率がめだつて低下し(収入3~4万円95.7%, 2~3万円89.7%, 2万円未満75.3%), 職種別には生産労働者世帯の購読率90.8%に対して職員等世帯は95.7%と高く、2種以上とるものも多い。

(3) 雑誌購読率

定期的に雑誌を購読している世帯は62.2%で婦人雑誌31.3%がもっとも多く、子ども雑誌22.6%, 週刊誌13.8%がこれにつぎ、総合誌、趣味誌は5%前後である。どの種類の雑誌も高所得層ほど高率を示す。

(4) 読書(雑誌以外)

この1年間に雑誌以外の本を1冊でも読んだことのある夫は79.8%, 妻66.7%で、その読書量を本の冊数でみると、年間5冊以下というものが本を読んだ夫の $\frac{1}{2}$ 、妻は $\frac{2}{3}$ である。妻は夫より、生産労働者世帯は職員等世帯より本を読むものが少なく、読書量の点でもかなり劣っている。また夫・妻とも年をとるにしたがつて読書しなくなるが、とくに妻にその傾向が強い。

読書の傾向としては、夫「職業関係」約5割がもっとも多く、「小説・随筆等」4割、「趣味」3割、「社会科学」1.5割がこれにつぎ、「自然科学」「家事・育児」は5%前後である。妻の方は「家事・育児」4割、「小説・随筆等」3割、「趣味」2.5割が読書する割合の多いもので「職業関係」「社会科学」「自然科学」は5~3%でいである。

職業関係書籍は職場に備えつけてあると答えた夫は53.0%で大規模事業所ほど多い。備えつけの有無を知らないものは9.3%である。

(5) 旅行

過去1年間に泊りがけの旅行(社用、公用を除く)に行つたものは夫69.8%, 妻は49.9%で、職員層、高所得層に多い。年齢別には夫は若い層、妻は20代、50代以上がやや多い。

旅行の形態としては旅行に行つた夫と妻の $\frac{1}{2}$ が家族旅行で $\frac{1}{3}$ が団体旅行である。旅行に行つた回数としては大体年間1~2回、宿泊した日数は一番長いときで1~2泊というものが大部分である。

(6) 団体活動

団体加入率は夫71.9%, 妻64.6%で夫は労働組合、町内会、妻は婦人団体、町内会、PTAが

が多い。

趣味や勉強会に加入しているのは夫10.4%、妻7.5%で、職員層、高所得層、若年層に多い。

加入率は趣味や勉強の会を除いて生産労働者世帯が夫、妻とも高く、夫は低所得層（とくに労働組合が多い）、妻は高所得層に高い傾向がみられる。年令別には団体の種類によるが、加入率としては40代が高い。

団体加入者中団体活動のためなにかの時間を使っているものは夫、妻とも約半数で、1ヶ月5時間以上使うものがその半数である。

(7) 家での交際

1年間に家庭に夫又は妻の友人を招いたことのあるものは77.1%で大部分はたまにまねく程度である。年令としては若い世代の方が多い。

家での交際を好むものは夫の方に多く（夫5割妻4割）、妻はいくぶん躊躇の念をもつものが多い。交際の頻度別にみればちよいちよい招く世帯では夫、妻とも交際好きのものが多く、たまにまねく世帯ではやや態度保留にかたむき、招くことのない世帯では大部分が否定的な態度を示めている。

(8) 年中行事

家庭で祝や行事をする一般的な年中行事としては、正月（93.4%）、家族の誕生日（74.1%）、クリスマス（62.4%）おぼん（56.9%）、5月節句（43.3%）、結婚記念日（41.7%）、3月節句（39.6%）、彼岸（38.6%）、七夕（26.5%）、月見（21.5%）の順に多い。（但し、子供一男・女一の有無に關係ある行事もそのまま並べた）

職種、年令、地域によつてかなり異なる傾向がみられ、一般におぼん、彼岸等の伝統的な行事は年輩層、生産労働者、7大都市以外の地域にするものが多く、誕生日、結婚記念日、クリスマス等は若年層、職員等、7大都市の方に多い。

(9) 文化、教養、レクリエーションのための社会施設利用状況

文化、教養、レクリエーションのための社会施設の利用は、公園、動植物園などの緑地利用がもつとも多く、過去1年間の公園利用率は夫、妻とも6割弱、動植物園利用率は4割弱となっている。これについて比較的多いのは講演・講習会、展覧会、集会場及び夫のスポーツ施設利用である。

妻は夫より、生産労働者世帯は夫妻とも職員等世帯より利用率が低く、低所得層は概して利用が少ない。年令別には中年の妻が講演・講習会、集会場、展覧会の利用率が高いほか、一般に夫、妻とも若年層の利用が多い。地域別には妻の講演・講習会を除き7大都市が大巾に高い率を示している。

社会施設をもつと利用したい希望は各施設につき大体1～2割であるが職員層、若年層、7大

都市に希望するものが多い。

IV 年次有給休暇及び残業についての意識（夫）

(1) 取得状況

年次有給休暇を持日数全部利用しないものが多く、昭和38年の持日数をほとんど全部とつたものは28.7%であつた。一部とつたものは42.9%のうち半分以上が14.5%、約半分が11.6%、半分以上が16.7%、であり、年休はほとんどとらぬつたというものが18.6%である。一般に大企業、生産労働者、若年層、低所得層の取得率が高く、7大都市その他の地域別には大差がみられない。

(2) 年休のとり方

年休を細かく分けてとる傾向が非常に強い。年休をほとんど全部とつたものについて何回にわけてとつたかをみると、1～2回（10.8%）、3～4回（15.0%）、5～10回（32.9%）、10回以上（37.9%）となっている。

自分の病気以外のことで勤労者がもつとも長く休んだ日数は平均4.7日（但し年休以外の一般休日、祝祭日をも含む）で、職種別には生産労働者（平均5.1日）の方が職員等（平均4.3日）よりも長い傾向がみられる。休んだ時期としては正月をあげたものが50.4%と多く、ついで夏期10.2%、おぼん5.0%、5月はじめのゴールデンウィーク3.8%でそれ以外の時期は18.5%となっている。このうち正月はほとんどが事業所のいつせい休業の時期にあたっており、おぼん、五月の連休も事業所のいつせい休業にあたっているものが多い。続けて1週間またはそれ以上休んだことのあるものは12.0%、うち2週間以上休んだことのあるものは1.3%である。1週間以上休んだことのあるものは生産労働者（14.6%）が職員等（2.7%）より多く若年層のほうが年配層より多い。（20代16.9%、50代以上10.8%）

希望する年休のとり方として、あるていどまとめてとることを希望するものは34.9%で少しずつとることを希望するもののほうが多い。まとめる期間は大体1週間位を希望するものが大部分である。あるていど年休をまとめてとることを希望するものは生産労働者の23.0%に対して職員等は45.3%と多く、年令は若いほど、所得は高いほどめだつて多い傾向を示す。（20代41.0%、50代以上22.5%、収入2万円未満20.8%、7万円以上47.1%）

(3) 年休をとつた理由、とらなかつた理由

年休をとつた理由はレクリエーション（21.9%）や休息（24.4%）以外に、用事（43.3%）、自分の病気（33.0%）、妻の病気・出産（15.2%）等の理由で年休をとることの方が多い（理由は複数のものであるので計は100%をこえる）。レクリエーションのために年休をとつたものは大企業、職員層、高所得層、若年層、7大都市の方に多い。

年休を全部とらなかった理由としては、直接的な職場の条件として「忙がしくてとれなかった」36.7%、「とらない人が多いからとりにくい」4.8%をあげるもののほかに「とくに理由はない」38.2%「とりたいと思わない」10.4%というものが多い。忙がしくて年休のとれなかったものは小企業、職員層、高所得層ほど多い。

(4) 残業についての意識

残業についての意識をみると「残業はなるべくない方がよい」と答えたものは37.3%、これに対して「収入が増えるから残業は多い方がよい」と答えたもの16.3%、「ほどほどにある位がよい」と答えたもの25.5%をあわせて41.8%が何れもかの残業を希望している。「どちらともいえない」というものが10.5%ある。ほどほどの希望としては1ヶ月に6～10日位をあげているものが多い。残業を希望するものは生産労働者、低所得層ほど多い。(多い方がよい)の生産労働者25.4%、職員等7.8%、収入2万円未満35.1%7万円以上5.3%)

V 耐久消費財

今回調査項目中もつとも高い保有率を示めたのはテレビ(約9.5割)でついでラジオ(約8.5割)、電気こたつ、電気洗濯機、電気(ガス)釜(7割以上)、自転車、カメラ、電気(ガス)冷蔵庫(6割前後)が保有率の高いものとしてあげられる。

テレビを除いて職種別により大きな格差があらわれている。

(例)	生産労働者	職員等
ラジオ	78.6%	89.4%
電気こたつ	67.6	79.2
電気洗濯機	66.7	78.8
電気(ガス)釜	65.4	77.4
カメラ	48.6	71.3
電気(ガス)冷蔵庫	45.6	68.3

文化・教養関係耐久消費財としては、テレビ、ラジオ等の他は、楽器類、夫と妻の本箱の保有率など概して低率である。楽器のうちでもつとも保有率の高いのはオルガンの11.1%である。夫と妻との本箱を比べると、妻は夫の約 $\frac{1}{2}$ に過ぎず(妻2.3%、夫44.3%)、生産労働者世帯の方がかなり劣る傾向がみられる。未保有世帯がぜひほしいと希望する品目としては、テレビ、冷蔵庫洗濯機、カメラ等が多い。

VI 家庭についての充足感及び文化教養面の充足感

(1) 家庭についての充足感

いこいの場としての家庭について、勤労者夫婦の充足感をみると、夫妻とも約 $\frac{3}{4}$ が一応の満足感を示し、約2割が満足感を保留又は否定している。妻は夫にくらべやや充足度の低い傾向がうかがわれ、(非常に満足夫19.0%、妻18.0%、だいたい満足夫56.3%、妻55.8%、どちらともいえない夫11.5%、妻10.9%、やや不満夫6.8%、妻7.9%、非常に不満夫、妻各々3%)収入別には低所得層ほどめだつて充足度は低下する。(満足感を保留または否定する妻、収入3～4万円22.3%、2～3万円26.8%、～2万円29.9%)

家庭のいこいを妨げる原因として住宅の狭さ(夫20%、妻18%)、騒音(夫17%、妻19%)、ほこり(夫11.9%、妻17%)をあげるものが多く、人間関係の苦勞をあげるものは夫5%、妻7%で、親と同居している世帯がいちじるしく高率を示している。

(2) 文化・教養面の妻の充足感

衣・食・住消費生活各方面について妻の充足感をみると、食生活については「栄養」面からも「おいしいものを食べる」面からも一応過半数が満足感を表わしており、衣生活についても「ふだん着」の面では過半数が満足しているが「よそいき着」の面で満足感を表すものは約4割である。住生活については「広さや設備」面で約4割「美化」面で約3割が満足感を表わしているが、その反面強い不満感をもつものがとくに「広さ設備」面に多く、消費生活各方面のうち、もつとも多いのが注目される。

教養・娯楽の面については満足感を示すものが $\frac{1}{4}$ で他の消費生活面に比べて少ない。

調 査 結 果

I 調査世帯の概要

1 夫の職種

夫の職種を生産労働者と職員等（事務、管理、技術労働者などを含む）に分けると、その構成は次表のとおりである。

第 1 表 夫の職種

	計	生産労働者	職員等	不 明
実 数	2,792	1,244	1,491	24
%	100	44.6	53.4	2.0

毎月勤労統計調査（昭和39年5月）によれば常用男子労働者の職種別構成は生産労働者45.7%、管理・事務・技術労働者は54.3%である。

2 家族構成

平均家族人数は4.2人であり、全国平均4.47人（昭35年国勢調査）よりも小家族であり、昭39年家計調査（総理府統計局）による勤労者世帯の全国平均4.16人とほぼ一致する。

家族人数別の世帯分布をみると、最も多いのは4人家族、次いで3人家族、5人家族の順で多くなっており、全世帯の約7割が3～5人家族の中に含まれる。

第 2 表 職種別、夫の年令別家族人数及び親との同居の有無

		総 数		家 族 人 数							
		実数	%	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人以上	不明
計		2,792	100	12.7%	21.6%	27.8%	18.6%	9.9%	5.2%	3.6%	0.6%
職 種	生産労働者	1,244	100	10.0	20.2	28.5	18.7	11.3	5.9	4.6	0.8
	職員等	1,491	100	15.0	22.8	27.4	18.3	8.6	4.7	2.8	0.4
夫の年令	20代	485	100	37.3	33.6	14.0	5.2	4.3	2.5	2.5	0.6
	30代	1,236	100	10.6	22.8	33.8	16.7	8.0	3.8	3.4	0.9
	40代	630	100	2.7	13.8	31.1	27.6	14.4	7.8	2.1	0.5
	50代以上	409	100	6.1	15.9	20.5	25.2	14.9	9.0	8.2	0.2

（第 2 表つづき）

		親 と 同 居			平均家族人数
		している	していない	不明	
計		26.5%	68.3%	5.2%	4.2人
職 種	生産労働者	25.5	67.7	6.8	4.4
	職員等	27.0	69.3	3.7	4.1
夫の年令	20代	22.7	73.8	3.5	3.2
	30代	32.2	64.4	3.4	4.1
	40代	22.1	72.9	5.0	4.7
	50代以上	20.8	66.5	12.7	4.9

職種別平均家族数は職員等世帯4.1人、生産労働者世帯4.4人で職員等世帯の方が若干少なく、人数別分布をみても職員等世帯の方がいくぶん少人数の方へかたよっている。

夫の年令別平均家族数は20代の3.2人から50代以上の4.9人まで年令が高まるにつれて漸次増加し、各年令階級に

おけるもつとも分布の多い人数は20代で2～3人、30代で4人、40代及び50代以上で4～5人となっている。

親と同居の有無をみると、親と同居しているものは26.5%、していないもの68.3%で、同居しているものは夫の30代が32.2%で他の年代よりもかなり高くなっている。

職種別には、生産労働者の不明がやや多くはつきりした傾向がつかめなかった。

3 夫と妻の年令別分布

対象世帯の夫の年令は30代、40代が多く、妻は20代、30代が多い。

第 3 表 夫と妻の年令別分布

	計	20代	30代	40代	50代以上	不 明
夫	100.0%	17.4%	44.3%	22.6%	14.6%	1.1%
妻	100	34.1	38.0	21.2	6.0	0.6

昭和35年国勢調査によれば有配偶人口の年令別構成比は、男子は20代13.1%、30代30.9%、40代22.6%、50代以上33.4%、女子は20代23.3%、30代31.3%、40代21.9%、50代以上23.1%であるから、本調査対象の勤労者夫婦は全国平均よりもかなり若い。

4 世帯収入

(1) 平均世帯収入と収入階級別分布

1ヶ月の平均世帯収入（家族全部の合計で給料、自営業収入、内職収入、不動産収入等を含み、税金、社会保険料等を差しひいた可処分所得をいう—ただし、ボーナスは含まない—）は41,537円で、職種別には生産労働者世帯37,083円、職員等世帯45,184円となっている。しかしこれを世帯収入階級別の世帯分布でみると分布密度のピークはやや下に偏つて3～4万円の収入階級が、約3割をしめてもつとも多く、これをはさんで2～3万円および4～5万円が各約2割、5～6万円、6万円以上が各約1割という分布になっている。世帯収入が2万円に満たない世帯は2.8%である。

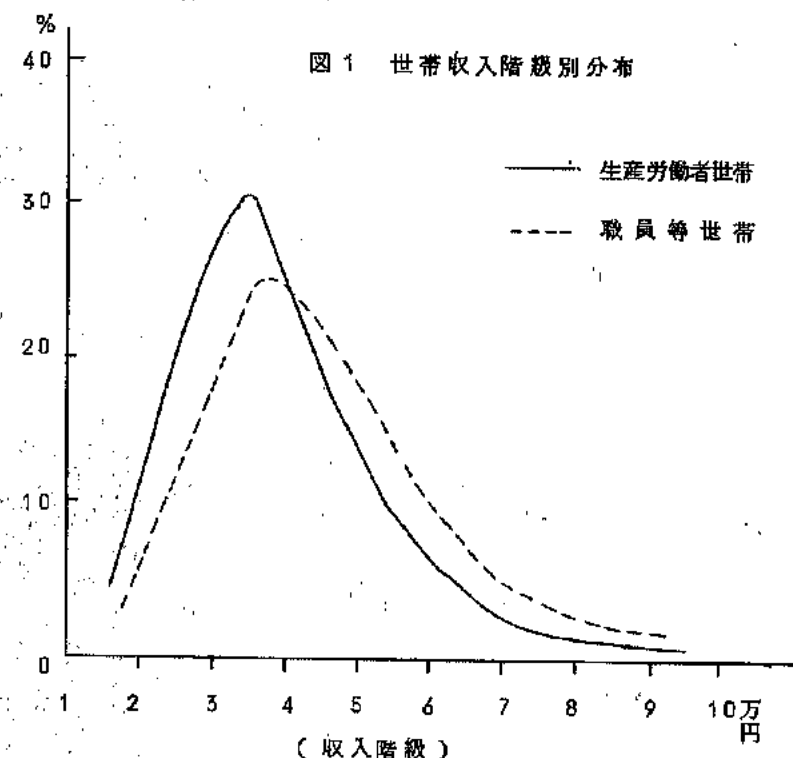
第4表 職種別、規模別、夫の年令別、家族人数別、地域別平均世帯収入及び世帯収入階級別分布

		平均世帯 収 入	総 数		世 帯 収 入 階 級			
			実 数	%	2万円未満	2～3	3～4	4～5
計		円			%	%	%	%
職 種	生産労働者	37,083	1,244	100	4.3	21.1	31.9	14.2
	職 員 等	45,181	1,491	100	1.4	13.8	25.8	21.8
規 模	30～99人	41,383	936	100	4.1	17.0	27.2	17.8
	100～499人	43,849	969	100	3.0	16.0	27.3	20.5
	500人以上	39,275	887	100	1.1	18.4	31.2	19.1
夫の年令	20代	37,182	485	100	5.6	22.1	36.0	15.7
	30代	39,103	1,236	100	2.3	19.6	30.3	21.2
	40代	45,094	630	100	1.7	11.7	24.0	21.0
	50代以上	48,678	409	100	2.2	12.3	21.7	14.6
家族人数	2人	38,641	354	100	2.3	14.7	33.9	25.7
	3人	36,797	602	100	3.2	23.9	32.6	18.8
	4人	41,122	776	100	2.8	18.8	28.6	18.9
	5人	44,795	518	100	1.5	14.1	24.9	20.3
	6人	44,430	277	100	2.9	13.4	26.4	15.9
	7人	49,132	146	100	4.1	6.8	24.0	11.6
	8人以上	50,956	101	100	5.0	7.9	17.8	16.8
地 域	7大都市	47,618	1,039	100	0.1	8.1	24.6	25.6
	そ の 他	37,931	1,753	100	4.3	22.4	30.8	15.3

		世 帯 収 入 階 級						
		5～6	6～7	7～8	8～9	9～10	10万円以上	不 明
計		%	%	%	%	%	%	%
職 種	生産労働者	9.2	3.1	1.3	1.2	0.2	0.6	10.9
	職 員 等	12.3	7.2	3.1	2.7	0.7	3.2	8.0
規 模	30～99人	10.9	4.4	2.1	2.0	0.3	2.0	12.2
	100～499人	10.7	5.7	2.6	1.3	0.5	2.2	10.2
	500人以上	10.9	5.6	1.9	2.7	0.9	2.0	6.7
夫の年令	20代	5.6	2.1	0.8	0.4	0.2	1.0	10.0
	30代	8.9	4.3	1.7	1.0	0.1	2.3	8.3
	40代	15.6	7.9	3.2	2.7	0.5	1.7	10.0
	50代以上	15.8	8.1	3.9	6.2	2.2	3.2	9.8
家族人数	2人	9.0	3.4	2.0	0.3	—	0.8	7.9
	3人	7.8	3.3	1.0	1.7	0.3	0.8	6.6
	4人	9.0	5.0	2.3	1.7	0.4	1.3	11.2
	5人	15.4	5.8	2.7	3.3	0.6	2.3	9.1
	6人	12.3	9.4	2.2	2.2	1.0	4.3	10.0
	7人	15.1	5.5	6.2	2.7	2.7	4.1	17.2
地 域	7大都市	14.5	7.6	3.5	3.2	0.5	2.8	9.5
	そ の 他	8.7	3.8	1.5	1.3	0.6	1.6	9.7

注 地域は、夫の勤務する事業所々在在。

図1にみられるように職種によって分布の態様が若干異なり、生産労働者世帯は低い収入階級へ偏って集中度の高い曲線を示しているのに対して、職員等世帯は生産労働者世帯に比べてやや巾の広い分布状態を示している。



夫の年令との関連で平均世帯収入をみると、20代37,182円、30代39,103円、40代45,094円、50代以上48,678円と一般的には年令の高い層の収入が多くなっている。

これを家族数別にみると2人家族の38,641円が3人家族の36,797円を上まわっているほかは（これは後述するように子供のいない夫婦の共働き率が高いことを示すものといえよう）8人以上の50,956円まで、家族数の多いほど平均収入も多くなっている。

収入階級別分布によつてみると、年令の若い層および小家族ほど3～4万円をピークとして集中度の高い巾のせまい分布を示しているのに対して、高年令層、大家族ほど一般に分布の巾が広がっている。このことは同時に標準家族～大家族に及んでも3万円未満の低い収入階級に入る世帯が2割～1割あることを示している。

事業所々在地別平均世帯収入は7大都市がその他の地域を約1万円ほど上まわっており、分布も所得の多い層へ偏っている。

(2) 収入の源泉

夫の給料を唯一の収入源泉とする世帯は46.5%、夫の給料以外に収入のある世帯は44.0%である。回答不明の数がやや多いので正確さを欠くが、 $\frac{1}{2}$ 強が夫の給料だけに頼っているとみてよからう。夫の給料以外の収入のある世帯のうち、夫に副業のあるもの10.5%（副業のないもの83.8%）、妻が雇用、パートタイム、内職、自営業等何らかの職業をもっているいわゆる共働き世帯が37.6%ある。（妻が無職のもの55.7%）

第5表 規模別、職種別、地域別夫の給料以外の収入、夫の副業及び妻の職業の有無

		総 数		夫の給料以外の収入		
		実 数	%	あ り	な し	不 明
計		2,792	100	44.0	46.5	9.5
規 模	30～99人	936	100	45.6	44.0	10.4
	100～499人	969	100	43.3	46.5	10.2
	500人以上	887	100	43.1	49.2	7.8
職 種	生産労働者	1,244	100	45.2	43.7	11.1
	職 員 等	1,491	100	43.1	49.3	7.6
地 域	7大都市	1,039	100	40.7	49.6	9.7
	そ の 他	1,753	100	46.0	44.8	9.4

		夫の副業			妻の職業		
		あ り	な し	不 明	あ り	な し	不 明
計		10.5	83.8	5.7	37.6	55.7	6.7
規 模	30～99人	14.3	79.8	5.9	36.3	55.3	8.4
	100～499人	8.9	85.1	6.0	37.8	56.0	6.2
	500人以上	8.2	86.5	5.3	38.5	56.0	5.5
職 種	生産労働者	10.8	82.3	6.9	44.1	47.1	8.8
	職 員 等	10.3	86.1	3.6	31.9	63.1	5.0
地 域	7大都市	4.4	90.8	4.8	34.4	59.7	5.9
	そ の 他	14.1	79.6	6.3	39.4	53.4	7.2

注）妻の職業ありとは、雇用、パートタイム、内職、自営業等何らかの収入の伴う職業についているものを総称する。

夫の給料以外の収入のある世帯は小企業、生産労働者、「7大都市以外の地域」に多く、夫の給料だけを収入源泉とする世帯は大企業、職員等、7大都市に多い。

副業をもつ夫は全体の約1割であるが、小企業、7大都市以外の地域で目立っており、職種

別には生産労働者がやや上まわりを示している。

妻の職業も夫の副業と同様に、生産労働者「7大都市以外の地域」で有職の妻の割合が高くなっているほか、子供の状態別に異なる特徴がみられる。

各階層別にみた妻の就業傾向は次項に述べる通りである。

(3) 妻の就業

何らかの収入の伴う職業を全くもっていない無職の妻は、職員等、7大都市、乳幼児のある世帯に多く、収入を得て働く有職の妻は生産労働者、その他の地域、乳幼児のいない世帯に多い。

第6表 規模別、職種別、子どもの状態別、地域別妻の職業の有無及びそのうちわけ

		総 数		妻の職業のうちわけ				
		実 数	%	雇 用	パート タイム	内 職		
						小 計	～2時間	2～4
計		2,792	100	18.2	2.4	11.3	0.1	2.3
規 模	30～99人	936	100	18.2	2.0	9.2	0.1	1.3
	100～499人	969	100	17.6	2.6	11.0	—	3.0
	500人以上	887	100	18.7	2.7	13.8	0.3	2.6
職 種	生産労働者	1,244	100	19.0	2.6	14.8	0.1	2.7
	職 員 等	1,491	100	17.3	2.3	8.2	0.2	1.7
子 どもの 状 態	乳幼児あり	1,164	100	10.6	2.1	11.2	0.1	3.4
	小 計	1,008	100	20.8	2.8	10.9	—	1.3
	小中学生あり	591	100	17.6	2.2	14.0	—	1.7
	小中学生なし	382	100	25.7	3.1	6.3	0.3	0.8
	不 明	620	100	28.1	2.6	12.3	0.5	1.8
地 域	7大都市	1,039	100	16.4	3.5	11.7	0.2	2.6
	そ の 他	1,753	100	19.2	1.8	11.0	0.1	2.1

		妻の職業のうちわけ				自営業	無職	不明	
		内 職							
		4～6	6～8	8時間以上	不明				
計		%	%	%	%	%	%	%	
規模		4.5	2.0	1.7	0.7	5.7	55.7	6.7	
	30～99人	4.2	1.6	1.3	0.7	6.9	55.3	8.4	
	100～499人	4.1	2.2	1.4	0.3	6.6	56.0	6.2	
	500人以上	5.3	2.1	2.4	1.0	3.3	56.0	5.5	
職種	生産労働者	5.7	2.7	2.6	1.0	7.1	47.1	8.8	
	職員等	3.7	1.3	0.9	0.4	4.1	63.1	5.0	
子どもの状態	乳幼児あり	4.2	1.4	1.3	0.8	4.9	66.6	4.6	
	乳幼児なし	小計	4.9	2.2	2.0	0.5	7.3	51.7	6.5
		小中学生あり	6.5	2.4	2.7	0.7	9.0	49.8	7.4
		小中学生なし	2.6	1.8	0.8	0.3	4.7	55.0	5.2
	不明	4.5	2.7	1.9	0.8	4.4	41.5	11.1	
地域	7大都市	4.2	2.4	1.8	0.5	2.8	59.7	5.9	
	その他	4.7	1.7	1.6	0.8	7.4	53.4	7.2	

有職の妻は全体の約4割に及ぶが、その約半数は雇用(18.2%)であり、ついで内職(11.3%)、自営業(5.7%)、パートタイム(2.4%)となつている。

雇用は生産労働者、7大都市以外の地域にやや多い。子供の状態による差はとくに明らかで、子供のいない人、あるいはあつても中学卒以上の手のかからなくなつた人の場合は25.7%と雇用率が高く、小中学生の子供のある人は17.6%、乳幼児のある人は10.6%と雇用労働につく人は少なくなつている。

内職は生産労働者に多く、地域別には大きな差はみられない。子どもの状態別には雇用の場合とは反対に義務教育中の子どもや乳幼児をかかえている妻が在宅しながら家計を助けて働くというものが多い。内職の時間数としては4～6時間が最も多く、過半数は2時間以上6時間未満に含まれるが、6～8時間以上と長時間にわたるものも $\frac{1}{3}$ ほどみられる。

農業、商業、工業等の自営業について働く妻は生産労働者、義務教育中の子どものある世帯、7大都市以外の地域で多い。

パートタイムは数としては少ないが、地域的には7大都市が多いほかほぼ雇用と同傾向を示す。

以上のことから、生産労働者世帯の妻は、雇用、内職、自営業等全般にわたって就業率が高く、妻の収入が家計に寄与する割合の高いことがうかがわれ、子どもの状態別には、小中学生をもつ層では雇用、内職、自営ともかなり高い就業率を示し、又手のかかる子どものいない場合は雇用労働につくものが目立つて多く、内職は比較的少ないのに対して、乳幼児のいる場合も就業率が低いといえ各々1割の妻が、雇用、内職についていることがわかる。

(4) 家計充足感

現在の世帯の総収入で家計が十分にまかなえるかどうか妻の家計に対する充足感を調べたところ、全体としてはなんとかまにあつていると感ずるものが多く53.0%、不足がちと感ずるものは33.6%、十分と感ずるものが8.0%である。前年度の本調査結果(38年8月実施)は十分6.9%、なんとかまにあつている52.0%、不足がち40.1%にくらべると、充足感をもつものが幾分ふえ、不充足感をもつものがへつている。家計充足状況を世帯収入別、家族人数別にみると第7表のとおりである。

収入が低い層では不充足感をもつものが多く、収入が高まるにつれて充足感をもつものが徐々に増加する。収入2万円未満の層では約8割が、2～3万円では過半数の5割強が不充足感をもつているが、3万円以上の収入階層では「何とかまにあつている」が過半数をしめるようになる。3万円未満では充足感(十分と感ずるもの)をもつものはほとんどないが、収入が増加するにつれて充足感をもつものの割合が高まり、5～6万円層では1.5割、6～7万円層では2割、

第7表 世帯収入階級別、家族人数別家計充足状況

		計		十 分	なんとか まにあつてゐる	不足がち	不 明
		実 数	%				
計		2,792	100	8.0%	53.0%	33.6%	5.4%
世帯 収入 階級	～2万円	77	100	—	22.1	77.9	—
	2～3	477	100	1.1	42.2	53.2	3.5
	3～4	796	100	4.3	51.3	40.1	3.9
	4～5	535	100	7.0	66.2	22.6	4.2
	5～6	303	100	15.5	60.5	22.0	2.0
	6～7	146	100	20.9	62.8	16.2	0.1
	7万円以上	191	100	31.2	55.2	11.4	2.2
	不 明	267	100	2.6	42.0	25.7	29.7
家 族 人 数	2 人	354	100	17.2	58.8	19.8	4.2
	3 人	602	100	10.1	53.7	32.2	4.0
	4 人	776	100	5.4	51.7	35.6	7.3
	5 人	518	100	6.2	52.1	37.6	4.1
	6 人	277	100	6.5	46.6	40.8	6.1
	7 人	146	100	2.0	56.2	31.5	10.3
	8人以上	101	100	5.0	54.5	37.6	3.0

7万円以上では3割が十分といつている。

家族人数の少ない世帯の方が概して充足感をもつものが多く、不充足感をもつものは家族人数の多い世帯のほうに多い傾向がみられる。夫婦2人だけの世帯では不足がちと答えたものは他の人数層にくらべて非常に少なく(2割)、充足感をもつものが約2割にのぼるが、3人以上と人数が多い層では不充足感をもつ世帯が3～4割に増加し、充足感をもつものは3人家族で1割、4人以上家族で0.5割に過ぎない。

家族人数別に充足感、不充足感の強い収入階級層をみると以下のとおりである。

1. 不充足感が強い収入階層

充足感には主観的な個人差があると思われるが、世帯の過半数が不充足感をもつようにな

第8表 家族人数及び世帯収入階級別家計充足状況

	計	～2万円未満	2～2.5万円	2.5～3万円	3～3.5万円	3.5～4万円
十分	計	8.0%	—%	1.7%	0.7%	4.2%
	2人	17.2	—	4.5	3.3	14.3
	3人	10.1	—	1.9	1.1	6.6
	4人	5.4	—	1.7	—	0.8
	5人	6.2	—	—	—	—
	6人以上	5.0	—	—	—	1.3
なんとか	計	53.0	22.1	37.9	44.8	49.8
	2人	58.8	37.5	68.2	56.7	58.6
	3人	53.7	26.3	49.1	47.3	42.5
	4人	51.7	13.6	20.7	43.2	52.4
	5人	52.1	25.0	36.4	31.4	37.2
	6人以上	50.8	21.1	23.8	47.1	60.3
不足がち	計	33.6	77.9	55.9	51.5	43.8
	2人	19.8	62.5	27.3	36.7	27.1
	3人	32.2	73.7	45.3	47.3	48.1
	4人	35.6	86.4	74.1	54.5	41.1
	5人	37.6	75.0	63.6	64.7	61.5
	6人以上	37.6	78.9	57.1	52.9	38.4
計	計	100(2,792)	100(77)	100(177)	100(299)	100(454)
	2人	100(354)	100(8)	100(22)	100(30)	100(70)
	3人	100(602)	100(19)	100(53)	100(91)	100(106)
	4人	100(776)	100(22)	100(58)	100(88)	100(124)
	5人	100(518)	100(8)	100(22)	100(51)	100(78)
	6人以上	100(524)	100(19)	100(21)	100(34)	100(75)

	4～4.5万円	4.5～5万円	5～5.5万円	5.5～6万円	6～7万円	7万円以上
十分	計	6.9%	7.1%	15.6%	15.1%	20.9%
	2人	18.2	5.6	57.9	53.8	75.0
	3人	7.4	23.3	31.4	16.7	15.0
	4人	3.6	3.3	12.1	15.4	17.1
	5人	4.9	—	10.0	—	20.3
	6人以上	2.0	3.5	1.8	—	13.3
なんとか	計	67.7	64.0	58.4	67.1	62.8
	2人	69.1	69.4	36.8	46.2	25.0
	3人	77.9	51.2	42.9	66.7	75.0
	4人	69.0	75.4	65.5	53.8	73.2
	5人	72.1	58.1	63.3	90.0	60.0
	6人以上	44.0	60.7	63.2	64.3	60.0
不足がち	計	21.6	24.2	23.8	16.4	16.2
	2人	12.7	11.1	5.3	—	—
	3人	14.7	18.6	25.7	16.7	10.0
	4人	16.7	21.3	20.7	23.1	9.6
	5人	18.0	39.5	25.0	10.0	20.0
	6人以上	54.0	32.1	29.8	35.7	26.7
計	計	100(319)	100(211)	100(231)	100(73)	100(148)
	2人	100(55)	100(36)	100(19)	100(13)	100(12)
	3人	100(68)	100(43)	100(35)	100(12)	100(20)
	4人	100(84)	100(61)	100(58)	100(13)	100(41)
	5人	100(61)	100(43)	100(60)	100(20)	100(30)
	6人以上	100(50)	100(28)	100(57)	100(14)	100(45)

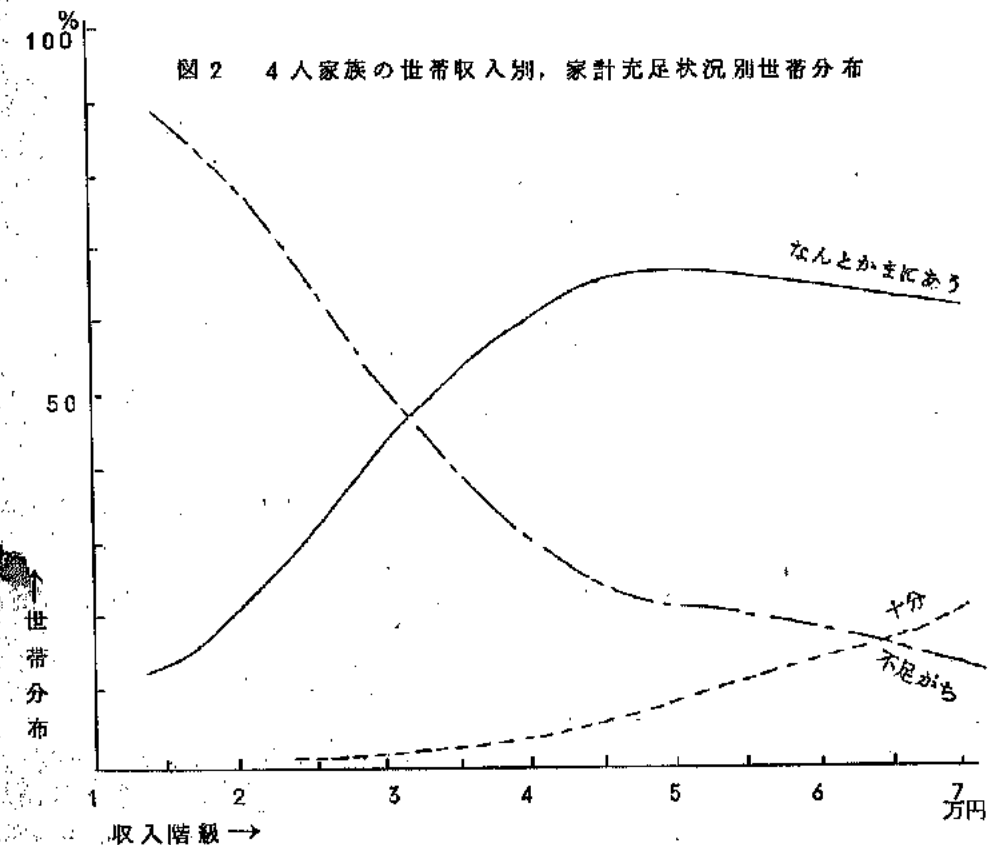
注) ()内は実数を表わす

るのは、2～3人家族で20,000円、4人家族で30,000円、5人家族で40,000円、6人以上家族45,000円でいどとなっており、この金額を下まわるところでは不充足世帯の比率は著しく高い。

ロ 充足感が強い収入階層

十分と感ずるものが過半数になる層ではサンプルが非常に少なくなるので、明確な数字をあげがたいが、2人家族で50,000円、3人家族で70,000円以上の収入階層になると過半数をこえる世帯が充足感をあらわすようになるが、4人以上の多人数家族では、収入70,000円以上の高所得層においても充足感をもつ世帯は2～3.5割でいどにとどまる。

標準世帯に近い4人家族の場合をとりあげてみると、家計に対する充足感、不充足感をもつ世帯は下図のような曲線を描いて分布している。



5 お手つだいの有無

この項目については不明の回答が1.3%ととくに多いので正確ではないが、お手つだいを属していると答えた世帯は全体の1.1%（住みこみ0.6%、かよい0.6%）で非常に少いとみられる。

妻が自営業に就いている世帯（住みこみ3.8%，かよひ1.9%），世帯収入7万円以上の層（住みこみ2.6%，かよひ2.1%）がやや高率を示している。

乳幼児有無別や職種別には，それほどの差は認められない。

第9表 世帯収入階級別，妻の職業別，乳幼児有無別，職種別お手つだいを雇っているか否か

		総 数		住み込みの 人 がい	かよひの 人 がい	やとつて い ない	不 明
		実 数	%				
計		2,792	100	0.6 %	0.5 %	85.9 %	13.0 %
世帯収入階級	～2万円	77	100	—	1.3	75.3	23.4
	2～3	477	100	—	0.2	84.3	15.5
	3～4	796	100	0.1	0.4	89.7	9.8
	4～5	534	100	1.3	0.2	88.0	10.5
	5～6	304	100	0.7	0.7	89.1	9.5
	6～7	148	100	—	0.7	85.8	13.5
	7～8	189	100	2.6	2.1	83.6	11.7
妻の職業	雇 用	507	100	0.8	1.0	87.0	11.2
	パートタイマー	68	100	—	—	82.4	17.6
	内 職	315	100	0.3	0.6	80.0	19.1
	自 営 業	158	100	3.8	1.9	77.2	17.1
乳幼児	あ る	1,164	100	0.3	0.6	89.8	9.3
	な い	1,008	100	1.0	0.3	90.0	8.7
地域	生産労働者	1,244	100	0.4	0.5	83.4	15.7
	職 員 等	1,491	100	0.7	0.5	88.4	10.4

6 住 居

(1) 住宅の種類

住宅のたてかたの種類のうち，一番多いのは1戸建て51.8%，ついで2戸建て以上21.8%，木造アパート10.4%，鉄筋アパート7.6%，その他5.3%の順となつてゐる。昭和38年住宅統計調査（総理府統計局—ただし当調査は世帯数ではなく，住宅数を表わす）によれば全国平均は1戸建て72.0%，長屋建て15.1%，木造アパート9.6%，非木造アパート2.9%，その他0.4%で，全国平均に比較すると，勤労者家庭の住宅は1戸建ての割合がかなり低く，2戸建て以上やアパート形態の住宅の割合が高いことが推察される。

地域別にみると，7大都市ではその他の地域に比べて1戸建てや2戸建て以上の割合が低く

第10表 地域別，世帯収入階級別，職種別住宅の種類

		総 数		1戸建て	2戸建て 以 上	鉄 筋 アパ	木 造 アパ	その他	不 明
		実 数	%						
計		2,792	100	51.8 %	21.8 %	7.6 %	10.4 %	5.3 %	3.1 %
地域	7大都市	1,039	100	44.2	18.3	12.5	18.7	4.2	2.1
	そ の 他	1,753	100	56.3	23.9	4.7	5.5	5.9	3.7
世帯収入階級	～2万円	77	100	44.2	32.5	2.6	3.9	10.4	6.4
	2～3	477	100	43.6	31.2	5.9	9.2	7.3	2.8
	3～4	796	100	49.6	23.1	7.8	12.7	5.5	1.3
	4～5	534	100	48.7	18.2	10.1	14.6	5.8	2.6
	5～6	304	100	60.5	19.7	6.9	8.2	3.6	1.1
	6～7	148	100	53.4	27.7	12.2	4.7	—	2.0
	7万円以上	189	100	67.1	9.5	10.6	10.6	1.1	1.1
職種	生産労働者	1,244	100	48.6	27.7	4.0	9.7	6.4	3.6
	職 員 等	1,491	100	54.2	17.1	10.7	11.0	4.6	2.4

て，木造アパートや鉄筋アパートの割合がめだつて高い。

収入別にみると高所得層ほど1戸建て住宅が多く，低所得層では2戸建て以上の長屋形態が多くなつてゐる。木造アパートはだまかにいつて収入3～5万円層で，鉄筋アパートは収入4万円より上の所得階層に多い傾向がみられる。

職種別にみると1戸建て，鉄筋アパートは職員層のほうが高く，2戸建て以上の長屋形態は生産労働者層にほうが高い。木造アパートは大差がみられなかつた。

(2) 部屋数

住宅の部屋数は3室が最も多い26.9%，ついで2室22.7%，4室16.8%，5室9.2%の順となつてゐる。6室以上の広い住宅は11.6%，1室だけというものが8.1%ある。38年住宅統計調査（総理府統計局）の全国世帯平均と比較すると，次表に示すとおりで，本調査結果は2～3室の割合が高く，こじんまりした家に住むものが多い。ただし住宅統計調査の全国平均には単身で一世帯をなしているものが含まれるから，直接には比較できない。

住宅の部屋数別世帯分布—全国平均との比較—

	計	1 室	2 室	3 室	4 室	5 室	6 室以上
昭38総理府住宅統計調査—全国平均	100.0%	12.0	20.3	20.4	18.9	12.3	16.0
本調査—勤労者世帯平均	100.0%	8.1	22.7	26.9	16.8	9.2	11.6

とくに1室の場合は単身者を多くふくむと考えられるのに対して、本調査は家族世帯であることに注意しなければならない。

事業所々在地別にみると七大都市の方が部屋数の少ないものが多く、1室ずまいというものが14.3%と七大都市以外の地域の3倍の高率を示めし、住宅事情のきびしさを表わす。7大都市以外地域では部屋数の多いものが増加して、5室以上の部屋数のある世帯が約 $\frac{1}{4}$ に達し、広い住宅の割合が高まっている。

職種別には生産労働者世帯が、収入別には低所得層ほど概して部屋数が少なく、職員等世帯、高所得層ほど部屋数が多い。

家族人数別には、人数に比例して部屋数も多くなる傾向がみられるが、各家族人数で最も分布の多い室数は、2人家族で2室、3人家族で2～3室、4人家族で3室、5人家族で3～4室、大家族になると分布の巾が広くなり、6人以上の家族では3～6室以上にちらばっている。1室ずまいというものは2人家族で23.1%と最も多く、人数が増加するにつれて減少しているが、3人家族で14%、4人家族で4%、5人家族で3%ずつみられ、それ以上の大家族になつても1室ずまいが少数ながら見うけられる。

第11表 地域別、職種別、世帯収入階級別、家族人数別部屋数

		総 数		1 室	2 室	3 室	4 室	5 室	6 室 以上	不明
		実 数	%							
計		2,792	100	8.1%	22.7%	26.9%	16.8%	9.2%	11.6%	4.7%
地 域	7 大 都 市	1,039	100	14.3	24.7	26.7	15.0	7.5	7.5	4.3
	そ の 他	1,753	100	4.4	21.5	27.0	17.8	10.2	14.0	5.1
職 種	生 産 勞 働 者	1,244	100	8.4	26.4	24.1	17.5	8.3	9.2	6.1
	職 員 等	1,491	100	8.0	19.7	29.3	16.2	10.0	13.3	3.5
世帯収入階級	～ 2 万 円	77	100	11.7	28.6	28.6	13.0	3.9	6.5	7.7
	2 ～ 3	477	100	8.6	38.2	24.3	10.7	6.9	6.5	4.8
	3 ～ 4	796	100	10.2	23.7	30.5	16.1	8.4	8.5	2.5
	4 ～ 5	534	100	9.6	21.2	29.2	17.0	7.1	10.9	5.0
	5 ～ 6	304	100	4.9	13.5	24.7	22.0	15.5	15.8	3.9
	6 ～ 7	148	100	2.0	10.8	29.1	24.3	9.5	20.3	4.0
	7 万円以上	189	100	1.6	3.7	23.3	19.6	18.5	31.2	2.1
家 族 人 数	2 人	354	100	23.1	33.6	25.2	6.2	2.8	2.8	6.3
	3 人	602	100	14.0	31.2	29.4	12.8	4.2	4.2	4.2
	4 人	776	100	4.4	23.3	31.8	18.4	9.3	9.2	3.6
	5 人	518	100	3.1	16.4	23.4	23.4	12.9	15.4	5.4
	6 人	277	100	1.1	13.0	26.7	18.8	12.9	22.4	5.1
	7 人	146	100	0.7	7.5	17.1	26.0	19.9	27.4	1.4
	8 人以上	101	100	3.0	3.0	16.8	14.9	17.8	34.7	9.8

7 地域別分布と夫の通勤時間

(1) 事業所々在地別世帯分布

夫の勤務する事業所の所在地が7大都市にある世帯は37.2%、7大都市以外の地域にある世帯は62.8%である。昭和35年国勢調査によると親族世帯の地域別分布は6大都市18.8%（7大都市から福岡市を除く）、6大都市以外81.2%であり、全国平均にくらべて勤労者世帯は都市集中化傾向の強いことがうかがわれる。

第12表 事業所々在地別世帯分布

	世 帯 数		七 大 都 市	そ の 他
	実 数	%		
計	2,792	100	37.2%	62.8%

(2) 夫の通勤時間

第13表 事業所々在地別夫の通勤時間

		計		～30分	30～ 1.00	1.00～ 1.30	1.30～ 2.00	2.00 以上	不 明
		実 数	%						
地 域 別	計	2,792	100	51.8%	27.5%	13.4%	2.4%	1.0%	3.9%
	七大都市	1,103	100	30.0	36.9	24.9	3.6	1.8	2.7
	そ の 他	1,689	100	66.0	21.3	5.9	1.7	0.5	4.6

夫の通勤時間は30分未満が51.8%、ついで30分～1時間が27.5%で約8割が1時間未満の通勤範囲に含まれる。

地 域別にみると、7大都市の場合、30分未満は30.0%、30～1時間が36.9%、1時間以上を要するものが30.3%であるが、7大都市以外の地域では30分未満が66.0%と7大都市の2倍の高率を示めし、約9割が1時間未満に含まれる。地域別によつて、夫の通勤に要する時間に大きな差がみられる。

Ⅱ 教養娯楽費

(1) 家計と教養娯楽費

1ヶ月あたりの教養娯楽費平均支出額は5,397円で家計中（平均世帯収入－可処分所得－）13.0%を占める。

職種別には職員等世帯6,023円、生産労働者世帯4,677円でそれぞれ家計の13.3%、12.6%をしめ、職員等世帯の教養娯楽費支出が額、率ともに高い。

家族人数別にみると、概して人数の多い世帯の教養娯楽費支出が高いが、最低の3人家族の5,011円から最高の7人家族の6,390円まで金額でみた開きはそれほど大きくない。家計中に占める割合はどの人数の場合も13%前後であるが、2～3人の少人数家族の方でいくぶん高まりをみせている。

地域別平均金額は7大都市が6,378円、その他の地域が4,819円で、家計中の割合は7大都市13.4%、その他の地域12.6%であり、7大都市の教養娯楽費支出が額、率ともに高い。

第12表 職種別、家族人数別、地域別1ヶ月あたり平均教養娯楽費及び世帯収入中に占める割合

		世帯収入(可処分所得)	教養娯楽費	家計中教養娯楽費の%
計		41,537 円	5,397 円	13.0 %
職種	生産労働者	3,708 3	4,677	12.6
	職員等	4,518 1	6,023	13.3
家族人数	2人	3,864 1	5,391	14.0
	3人	3,679 7	5,011	13.6
	4人	4,112 2	5,124	12.5
	5人	4,479 5	5,811	13.0
	6人	4,443 0	5,499	12.4
	7人	4,913 2	6,390	13.0
	8人以上	5,095 6	6,102	12.0
地域	7大都市	4,761 8	6,378	13.4
	その他	3,793 1	4,819	12.7

(注) 教養娯楽費とは新聞代、雑誌代、本代、ラジオ・テレビ料金、けいこ事の月謝、館料、写真代、旅行費用(又は積立金)、娯楽用品や運動用具購入費、その他趣味や遊びのための支出、夫や家族の小づかい銭の合計。但し小づかいのうち教養娯楽に関係のない昼食代、煙草代、定期代及び子供の学校教育関係費はのぞく。

(2) 教養娯楽費支出階級別世帯分布

教養娯楽費支出階級別の世帯分布をみると、分布の集中している支出階級は3～4,000円(14.5%)、2～3,000円(14.1%)、5～6,000円(13.8%)であつて、1～8,000円の間に約6割の世帯が含まれる。1,000円未満というものはわずかであり、また6,000円以上高額にわたるにつれ分布は減少している。

分布の状態を収入別、職種別、地域別、家族人数別にみると次表のとおりである。

第13表 世帯収入階級別、職種別、地域別、家族人数別1ヶ月あたり教養娯楽費支出階級別世帯分布

		総 数		円 ～499	500円 ～999	1,000円 ～1,999	2,000円 ～2,999	3,000円 ～3,999
		実 数	%					
計		2,792	100	0.6 %	1.2 %	11.0 %	14.1 %	14.5 %
世帯収入階級	～2万円	77	100	2.6	9.1	19.5	20.8	16.9
	2～3万円	477	100	1.5	2.7	17.4	22.4	17.4
	3～4万円	796	100	0.6	0.9	14.4	15.3	16.2
	4～5万円	534	100	—	1.1	7.3	13.5	17.2
	5～6万円	304	100	—	—	6.9	13.8	11.2
	6～7万円	148	100	—	—	9.5	8.8	14.9
	7万円以上	189	100	—	—	3.2	2.6	4.8
職 種	生産労働者	1,244	100	0.7	2.0	12.9	15.8	14.1
	職 員 等	1,491	100	0.5	0.5	9.5	12.5	14.8
地 域	7 大 都 市	1,039	100	0.3	0.8	7.3	10.6	13.9
	そ の 他	1,753	100	0.8	1.3	13.2	16.1	14.9
家族人数	2 人	354	100	0.3	0.6	9.6	13.8	17.5
	3 人	602	100	0.5	1.2	11.3	15.8	16.4
	4 人	776	100	0.8	1.2	10.2	15.3	13.4
	5 人	518	100	0.6	1.2	11.8	12.9	14.5
	6 人	277	100	0.7	1.8	12.6	13.0	14.1
	7 人	146	100	1.4	2.7	11.0	9.6	10.3
	8人以上	101	100	—	2.0	13.9	10.9	9.9

		4,000円 ～4,999	5,000円 ～5,999	6,000円 ～7,999	8,000円 ～9,999	10,000円 ～14,999	15,000円 以上	不明
計		7.8 %	13.8 %	9.1 %	4.7 %	7.8 %	5.4 %	10.0 %
世帯収入階級	～2万円	13.0	6.5	1.3	1.3	—	—	9.1
	2～3万円	6.7	11.1	6.5	2.3	3.1	1.3	7.4
	3～4万円	11.6	15.7	8.9	4.4	5.0	2.0	5.0
	4～5万円	7.9	14.2	14.8	3.0	10.7	6.2	4.1
	5～6万円	5.6	18.4	11.2	8.9	13.2	6.9	4.0
	6～7万円	6.1	8.1	9.5	8.8	20.4	9.5	4.7
	7万円以上	3.7	20.6	6.3	12.7	15.3	29.1	1.6
職種	生産労働者	7.6	12.7	8.2	3.5	5.6	4.1	13.0
	職員等	7.8	14.9	10.1	5.9	9.9	6.8	6.9
地域	7大都市	5.5	14.4	12.0	6.0	11.1	7.9	10.3
	その他	9.1	13.5	7.3	4.0	5.9	4.0	9.7
家族人数	3人	7.9	13.3	12.7	3.7	8.8	4.2	7.5
	3人	6.8	15.8	10.3	4.0	6.1	4.2	7.7
	4人	9.4	12.9	7.3	6.1	9.0	4.1	10.1
	5人	6.9	12.9	8.7	4.8	9.7	6.2	9.8
	6人	6.5	13.4	9.4	4.0	3.6	7.6	13.4
	7人	5.5	13.0	6.8	4.1	9.6	8.9	17.0
	8人以上	11.9	15.8	5.9	5.0	4.9	11.9	8.9

収入によつて教養娯楽費支出の世帯分布は、いづぶん変化し、高所得層ほど高額の方へかたよつて
いる。収入3万円未満の低所得層では2～3,000円の分布がもつとも高く、大部分の世帯（約
7～8割）は5,000円未満の支出階級に分布しているのに対し、収入7万円以上の高所得層
になると5,000円未満はごく少数でほとんど大部分の世帯は5,000円より高額な範囲に分
布しており、1.5万円以上支出しているものも約3割と他の収入階級にくらべて著しく高い。
中間所得層では3～6,000円でいどというものが多い。

職種及び地域別にみると、職員層、7大都市の方の分布が若干金額の高い方へかたより、生
産労働者、7大都市以外の地域は比較的金額の低い方へ集中して分布している。

家族人数別にみると、どの家族人数の場合も大体3～6,000円の範囲に分布が高まつ、
るが、概して人数の多い家族ほど低額、高額に拡散する傾向がある。

(3) 今後の見込み（妻）

教養娯楽費についての今後の見込みを妻に質問したところ、ふやすと回答したものが36.9
%へらすと回答したものは6.5%、今のままでよいと答えたものが45.6%である。

第14表 世帯収入階級別、職種別、地域別、家族人数別教養娯楽費についての今後の見込み

		総 数		ふやす	へらす	今のま までよい	不 明
		実 数	%				
計		2,792	100	36.9%	6.5%	45.6%	11.0%
世帯 収入 階級	～2万円	77	100	32.5	10.4	37.6	9.5
	2～3	477	100	36.3	9.0	44.9	9.8
	3～4	796	100	40.3	6.3	47.4	6.0
	4～5	534	100	40.8	6.4	47.8	5.0
	5～6	304	100	36.5	7.2	52.4	3.9
	6～7	148	100	43.9	4.7	39.9	11.5
	7～8	60	100	30.0	6.7	63.3	—
	8～10	73	100	37.0	5.5	54.8	2.7
	10万円以上	56	100	44.6	7.1	46.4	1.9
職 種	生産労働者	1,244	100	29.7	8.0	48.9	13.4
	職員等	1,491	100	42.7	5.2	43.6	8.5
地 域	7大都市	1,039	100	38.7	7.6	41.5	12.2
	その他	1,753	100	35.8	5.9	48.0	10.3
家 族 人 数	2人	354	100	34.8	7.9	50.0	7.3
	3人	602	100	43.4	6.1	40.2	10.3
	4人	776	100	35.4	6.8	46.3	11.5
	5人	518	100	35.9	6.0	47.5	10.6
	6人	277	100	36.1	6.1	43.0	14.8
	7人	146	100	29.5	3.4	55.5	11.6
	8人以上	101	100	35.6	7.9	40.6	15.9

収入別にみると、ふやす見込みはどの所得階級でも3～4割ていどみられ、増加見込につい
て収入別の差はそれほどないが、へらす見込と答えたものは3万円未満の低所得層に多くみら
れる。

職種別には職員層のふやす見込みが大幅に上まわっており、生産労働者層では今のままでよ
いという現状維持やへらす見込みが上回りを示めす。

地域別にみれば、ふやす見込みは7大都市で、今のままでよいは7大都市以外の地域で高ま
っているが、一面、7大都市ではへらす見込みもやや高い。

家族人数別には、教養娯楽費の今後の見込みはまちまちでこれという傾向はつかめなかつた。

Ⅱ 余 暇

1. 余暇時間(妻)

(1) 保有状況

妻の余暇時間について、仕事をしたり、寝たり、食べたりする以外にくつろいだり、自由に好きなことのできる時間——つまり「ひま」とか「余暇」があるかどうかたずねたところ、あると答えたものが5.1%、ほとんどないと答えたものが3.4%である。

余暇があると答えたものの1日平均余暇時間は2時間59分、ほとんどないと答えたものを含めて、妻の平均余暇時間は1時間56分である。(生活時間を記録したものでなく、本人がふだん1日に何時間何分くらいあると答えた大づかみの時間数にもとづく。)

余暇があると答えた妻は、年令50代以上、無職、高所得層、職員層で多く、余暇をもたない妻は年令40代、有職——中でも自営業及び雇用で約5動と高い——低所得層、生産労働者層で多い。子どもの状態別にみると乳幼児のいる妻の余暇保有率は低く、ついで小・中学生のいる場合が低くなっており、乳幼児も小・中学生もいない場合の妻の余暇保有率が最も高い。

(2) 充足状況

妻の余暇に対する充足感をみると、もつとほしいと希望するものが約半数の48.0%、今のままで良いと充足感を表わすものが44.4%、ひまが多すぎると過充足状態を表わすものが2.6%である。

余暇をもつとほしいと希望する妻は、年令別には若年層ほど、子の状態別には乳幼児をかかえている妻、次いで小・中学生のいる妻が、職業別にみれば有職のものが——特に雇用と自営業の妻が、収入別には中の所得階層でそれぞれ多くっており、結局余暇保有率の低い層ほど欲求度が高いことがうかがわれる。

今のままでよいと現状に充足している妻は、高年令層ほど、乳幼児や小・中学生の子どもがいないもの、無職のものに多く、収入別には高所得層に多い傾向がみられる。

ひまが多すぎるといふものはごく少なかったが、年令20代と50代以上層、乳幼児・小中学生のいない層、無職、低所得層、職員層でやや高まっている。

どれくらい余暇時間があったら充足感を表わすようになるか、現在保有時間別に充足状況をみると第16表のとおりであり、平均希望余暇時間もあわせかかげた。

第15表 年令別、子どもの状態別、妻の職業別、世帯収入階級別、職種別、妻の余暇保有状況及び平均余暇時間

		総 数		余 暇 あ り			
		実 数	% (平均余暇時間)	小 計 (平均余暇時間)	1時間以下	1~2時間	2~3時間
計		2,792	100 (1.56)	65.1 (2.59)	0.6	7.9	20.3
年 令	20代	952	100 (1.56)	65.6 (2.57)	0.9	8.8	19.4
	30代	1,060	100 (1.55)	65.7 (2.55)	0.8	8.0	21.4
	40代	593	100 (1.52)	62.1 (3.00)	0.7	6.4	22.3
	50代以上	168	100 (2.22)	70.2 (3.22)	0.6	5.9	13.7
子 状 態	乳・幼児あり	1,164	100 (1.40)	60.7 (2.45)	0.7	8.8	20.1
	小 計	1,008	100 (2.07)	67.5 (3.08)	0.5	6.9	19.9
	小・中学生あり	591	100 (1.55)	67.1 (2.52)	0.8	8.1	19.6
	乳・幼児も小・中学生もなし	382	100 (2.25)	68.0 (3.33)	0.2	4.7	20.7
妻の職業	パート・タイム	507	100 (1.10)	51.5 (2.16)	1.1	9.3	23.1
	内 職 業	68	100 (1.32)	53.0 (2.54)	—	16.2	8.8
	自 営	315	100 (1.23)	57.1 (2.26)	0.3	10.5	25.4
	な	158	100 (1.05)	46.8 (2.18)	0.5	10.2	12.7
世帯収入階級	~2万円	1,556	100 (2.25)	74.1 (3.15)	0.3	6.4	19.6
	2~3万円	77	100 (1.40)	61.0 (2.44)	3.8	9.1	22.1
	3~4万円	477	100 (1.51)	63.3 (2.56)	0.8	6.9	21.6
	4~5万円	796	100 (1.58)	64.7 (3.02)	0.6	7.1	19.8
	5~6万円	534	100 (1.48)	62.7 (2.53)	0.3	10.5	18.5
	6~7万円	304	100 (2.00)	68.1 (2.56)	1.1	7.6	20.7
	7万円以上	148	100 (2.24)	72.0 (3.07)	—	3.4	31.1
	職 業 等	189	100 (2.17)	71.0 (3.13)	—	5.3	18.6
職 種	生産労働者	1,244	100 (1.40)	59.4 (2.49)	0.8	8.0	19.7
	職 員 等	1,491	100 (2.09)	69.7 (3.06)	0.7	7.6	20.5

		余 暇 あ り				余 暇 な し	不 明
		3~4%	4~5%	5~6%	6時間以上%	%	%
計		18.8	8.0	6.1	3.3	33.4	1.6
年 令	20代	19.2	8.4	6.1	2.9	33.1	1.3
	30代	18.8	8.0	5.8	3.0	33.4	0.9
	40代	16.5	7.3	5.4	3.5	35.4	2.5
	50代以上	26.8	8.9	8.9	5.4	26.8	3.0
子 状 態	乳・幼児あり	18.6	7.0	3.8	1.6	38.1	1.2
	小 計	20.1	8.1	7.6	4.4	30.3	2.2
	小・中学生あり	20.6	7.1	7.2	3.7	31.0	1.9
	乳・幼児も小・中学生もなし	19.1	9.7	8.1	5.5	29.6	2.4
妻の職業	パート・タイム	14.0	3.0	1.0	—	46.9	1.6
	内 職 業	22.1	2.9	1.5	1.5	44.1	2.9
	自 営	12.4	6.0	2.5	—	41.9	1.0
	な	14.6	1.9	1.3	0.6	51.9	1.3
世帯収入階級	~2万円	22.3	10.8	9.1	5.5	24.4	1.5
	2~3万円	15.6	2.6	6.5	1.3	36.4	2.6
	3~4万円	17.0	8.2	5.7	3.1	34.4	2.3
	4~5万円	17.5	9.1	7.4	3.1	33.8	1.5
	5~6万円	20.2	5.8	4.5	2.8	36.5	0.8
	6~7万円	19.7	10.5	5.9	2.6	30.3	1.6
	7万円以上	23.6	7.4	5.4	6.1	23.0	—
	職 業 等	27.1	7.4	6.8	5.8	28.5	0.5
職 種	生産労働者	17.0	7.9	4.2	1.8	38.7	1.9
	職 員 等	20.4	8.1	7.7	4.6	29.1	1.2

第16表 年令別、子どもの状態別、妻の職業別、世帯収入階級別、職種別、妻の余暇についての充足感及びもつとほしい平均余暇時間

		総 数					余 暇 な し			
		計	もつとほしい	今のままでよい	ひまが多すぎる	不明	小計	もつとほしい	今のままでよい	不明
計		%	%	%	%	%	%	%	%	%
年 令	20代	100	54.6	37.1	3.8	4.5	100	80.3	12.4	7.3
	30代	100	48.9	44.2	2.0	4.9	100	74.9	15.8	9.3
	40代	100	42.4	48.9	1.2	7.5	100	66.2	22.4	11.4
	50代以上	100	29.2	60.6	3.2	7.2	100	63.6	36.4	—
	計	100	48.0	44.4	2.6	5.3	100	74.0	17.4	8.7
子 どもの 状 態	乳幼児あり	100	56.5	37.7	1.6	4.2	100	78.8	14.9	6.3
	乳幼児なし	100	41.5	50.2	2.5	5.8	100	68.5	21.3	10.2
	小・中学生あり	100	44.0	50.2	1.2	4.6	100	72.7	18.0	9.3
	小・中学生なし	100	36.9	51.6	4.0	7.5	100	61.1	28.3	10.6
妻 の 職 業	雇用	100	68.0	27.3	0.6	4.1	100	79.0	15.1	5.9
	パート・タイム	100	55.9	39.6	1.5	3.0	100	90.0	6.7	3.3
	内職	100	55.3	39.3	0.6	4.8	100	81.8	9.8	8.3
	自営業	100	60.6	29.2	0.6	9.6	100	73.2	13.4	13.4
	なし	100	39.4	51.8	3.7	5.1	100	70.0	21.8	8.2
世 帯 収 入 階 級	～2万円	100	44.1	48.1	6.5	1.3	100	57.1	42.9	—
	2～3万円	100	46.1	42.8	3.1	8.0	100	74.4	14.6	11.0
	3～4万円	100	50.7	40.7	2.6	6.0	100	80.7	9.7	9.7
	4～5万円	100	52.0	41.6	2.5	3.9	100	75.4	17.4	7.2
	5～6万円	100	48.8	44.6	1.9	4.7	100	75.0	15.2	9.8
	6～7万円	100	47.9	47.3	—	4.8	100	82.4	14.7	2.9
	7万円以上	100	46.3	48.2	2.0	3.3	100	83.3	9.3	7.4
	計	100	47.9	44.5	1.7	5.9	100	70.5	19.9	9.5
職 種	生産労働者	100	47.9	44.5	1.7	5.9	100	70.5	19.9	9.5
	職員等	100	48.5	43.3	3.3	4.9	100	78.1	14.3	7.6

		余 暇 あ り					もっている余暇時間 2 時 間 未 満				
		小計	もつとほしい	今のままでよい	ひまが多すぎる	不明	小計	もつとほしい	今のままでよい	ひまが多すぎる	不明
計		%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
年 令	20代	100	42.2	49.9	5.9	1.9	100	77.2	19.6	—	3.3
	30代	100	35.9	59.3	2.9	1.9	100	66.3	32.6	—	1.1
	40代	100	30.1	65.2	1.3	3.6	100	64.6	32.3	—	—
	50代以上	100	17.8	72.0	3.4	6.8	100	36.4	54.5	—	1.1
	計	100	35.8	58.1	3.7	2.5	100	69.2	28.7	—	2.1
子 どもの 状 態	乳幼児あり	100	43.6	52.1	2.4	1.8	100	73.2	23.2	—	3.6
	乳幼児なし	100	30.4	64.3	3.2	2.1	100	60.8	37.8	—	1.4
	小・中学生あり	100	31.7	65.5	1.8	1.0	100	65.4	34.6	—	—
	小・中学生なし	100	27.7	63.5	5.4	3.5	100	52.6	42.1	—	5.3
妻 の 職 業	雇用	100	60.2	37.9	1.1	0.8	100	81.1	18.9	—	—
	パート・タイム	100	30.1	66.7	2.8	—	100	72.7	27.3	—	—
	内職	100	36.1	61.7	1.1	1.1	100	67.6	29.4	—	2.9
	自営業	100	48.6	47.3	1.4	2.7	100	70.6	29.4	—	—
	なし	100	29.9	62.4	4.7	3.0	100	66.0	31.1	—	2.8
世 帯 収 入 階 級	～2万円	100	38.3	51.1	10.6	—	100	80.0	20.0	—	—
	2～3万円	100	31.8	58.6	4.6	5.0	100	65.5	32.7	—	2.7
	3～4万円	100	36.1	57.3	4.1	2.5	100	66.7	33.7	—	—
	4～5万円	100	39.1	56.1	3.6	1.2	100	84.5	15.5	—	—
	5～6万円	100	37.7	58.5	2.9	1.0	100	65.4	26.9	—	7.7
	6～7万円	100	37.7	57.0	—	5.3	100	60.0	20.0	—	20.0
	7万円以上	100	32.1	63.4	3.0	1.5	100	50.0	50.0	—	—
	計	100	34.2	61.2	2.7	1.9	100	66.7	31.5	—	1.8
職 種	生産労働者	100	34.2	61.2	2.7	1.9	100	66.7	31.5	—	1.8
	職員等	100	36.8	55.9	4.4	2.9	100	71.0	26.6	—	2.4

		もっている余暇時間									
		2～3時間					3～4時間				
		小計	もつとほしい	今のままでよい	ひまが多すぎる	不明	小計	もつとほしい	今のままでよい	ひまが多すぎる	不明
計		% 100	% 49.1	% 47.5	% 0.5	% 2.8	% 100	% 30.4	% 14.3	% 2.7	% 2.7
年令	20代	100	55.4	43.5	0.5	0.5	100	42.3	52.7	2.2	2.7
	30代	100	49.3	47.6	0.9	2.2	100	27.6	68.3	2.5	1.5
	40代	100	41.7	53.0	—	5.3	100	20.4	72.4	3.1	4.1
	50代以上	100	39.1	47.8	—	13.0	100	15.6	75.6	4.4	4.4
子どもの状態	乳幼児あり	100	55.1	43.6	0.9	0.4	100	34.7	61.1	1.9	2.3
	小計	100	43.3	52.2	—	4.5	100	29.1	67.5	3.0	0.5
	小・中学生あり	100	43.1	56.0	—	0.9	100	27.0	70.5	2.5	—
	なし	100	41.8	49.4	—	8.9	100	31.5	64.4	2.7	1.3
妻の職業	雇用	100	62.4	33.3	2.6	1.7	100	47.9	52.1	—	—
	パート・タイム	100	—	100.0	—	—	100	13.3	80.0	6.7	—
	内職	100	38.8	60.0	—	1.2	100	20.5	79.5	—	—
	自営業	100	53.6	46.4	—	—	100	39.1	47.8	4.4	8.7
世帯収入階級	なし	100	48.2	47.9	—	3.9	100	28.0	65.4	3.2	3.5
	～2万円	100	41.2	58.8	—	—	100	25.0	66.7	8.3	—
	2～3万円	100	37.9	55.3	1.0	5.8	100	33.3	58.0	3.7	4.9
	3～4万円	100	48.7	48.1	0.6	2.5	100	38.8	56.1	2.2	2.9
職	4～5万円	100	58.6	38.4	—	3.0	100	16.7	78.7	3.7	0.9
	5～6万円	100	60.3	39.7	—	—	100	26.7	71.7	1.7	—
	6～7万円	100	52.2	43.5	—	4.4	100	31.4	60.0	—	8.6
	7万円以上	100	51.4	42.9	2.9	2.9	100	33.3	62.7	2.0	2.0
職	生産労働者	100	44.5	53.9	—	1.6	100	27.8	66.5	2.4	3.3
	職員等	100	53.4	41.7	1.0	3.9	100	32.8	62.0	2.9	2.2

		もっている余暇時間										平均余暇時間 もつとほしい 時 分
		4 ～ 5 時 間					5 時 間 以 上					
		小 計	も つ と ほ し い	今 の ま ま で よ い	ひ ま が 多 す ぎ る	不 明	小 計	も つ と ほ し い	今 の ま ま で よ い	ひ ま が 多 す ぎ る	不 明	
計		% 100	% 20.0	% 75.7	% 8.6	% 1.8	% 100	% 5.4	% 80.5	% 11.9	% 2.3	2 18
年 令	2 0 代	100	11.2	75.1	13.8	—	100	5.7	66.7	24.1	3.4	2 18
	3 0 代	100	19.0	70.2	8.3	2.4	100	6.4	85.1	6.4	2.1	2 24
	4 0 代	100	11.6	86.0	—	2.3	100	5.7	90.6	3.8	—	2 12
	5 0 代 以 上	100	6.6	80.0	6.6	6.6	100	—	91.7	4.2	4.2	2 24
子 ど も の 状 態	乳 幼 児 有 り	100	21.0	69.1	8.6	1.2	100	7.9	82.5	6.3	3.2	2 18
	小 計	100	13.4	75.6	8.5	2.4	100	4.1	87.6	7.4	0.8	2 12
	小・中 学 生 有 り	100	14.3	76.2	4.7	4.7	100	4.6	90.8	3.1	1.5	2 06
	“ な し	100	10.8	75.7	13.5	2.7	100	3.8	82.7	13.5	—	2 18
妻 の 職 業	雇 用	100	40.0	60.0	—	—	100	20.0	80.0	—	—	2 24
	パート・タイ ム	100	50.0	50.0	—	—	100	—	100.0	—	—	2 12
	内 職	100	15.8	78.9	5.3	—	100	—	87.5	12.5	—	2 18
	自 営 業	100	—	100.0	—	—	100	—	100.0	—	—	2 12
世 帯 収 入 階 級	な し	100	11.9	76.8	9.5	1.8	100	4.8	81.1	11.9	2.2	2 12
	～ 2 万 円	100	—	50.0	50.0	—	100	—	50.0	50.0	—	2 24
	2 ～ 3 万 円	100	10.3	82.1	2.6	5.1	100	4.8	69.0	21.4	4.8	2 30
	3 ～ 4 万 円	100	12.5	69.4	15.3	2.8	100	4.8	84.3	7.2	3.6	2 12
	4 ～ 5 万 円	100	12.9	48.4	6.5	—	100	5.1	79.5	15.4	—	2 06
	5 ～ 6 万 円	100	12.5	75.0	12.5	—	100	11.5	84.6	3.8	—	2 00
	6 ～ 7 万 円	100	27.3	72.7	—	—	100	11.8	88.2	—	—	2 24
職 種	7 万 円 以 上	100	14.3	85.7	—	—	100	4.2	87.5	8.3	—	2 12
	生 産 勞 働 者	100	10.2	81.6	7.1	1.0	100	3.9	85.5	10.5	—	2 24
	職 員 等	100	15.7	72.7	9.9	1.7	100	6.0	78.6	12.1	3.3	2 12

現在余暇はないと答えたものの大部分は余暇をほしいと希望しており、現在余暇があると答えたものでも充足感を表わすものは約6割で、もつと欲しいと希望するものが約4割である。余暇があると答えたものの保有時間別充足状況をみると、2時間未満ではまだ不充足感をもつものが7割と多く、2～3時間になると充足感不充足感が相なればし、3～4時間になつて充足感是不充足感を上まわるようになる。ひまが多すぎるという過充足状態になるのは、サンプル数が少なく明確な数字をあげがたいが、5～6時間になると閑すぎるというものが1割弱、6時間以上では2割みられる。

年令別、子の状態別、職業別、収入別、職種別によつて充足感が強くなる時間数に多少ずれがみられ、若年層、乳幼児のあるもの、無職、雇用、自営業、収入3万円以上、職員層の場合は3～4時間の余暇で充足感をもつものが多くなるのに対し、高年令層、乳幼児のないもの、パートタイム、内職、収入3万円未満、生産労働者層では2～3時間の余暇で充足感が強まつており両者の間に約1時間ほどのずれがみとめられる。

2. 余暇活動

(1) おもにすること

余暇活動30項目中、おもにどんなことをしているかをたずねたところ、夫も妻もテレビをあげるものが圧倒的に高く第1位を占め(夫8割、妻7.5割)、ついで第2位が新聞(夫7.5割、妻6割)となつている。その他夫は③休息(4割)④見るスポーツ⑤読書⑥晩しやく(以上3割)⑧ラジオ(2.5割)⑨世間話・雑談⑩日曜大工⑪碁・しょうぎ・マージャン類⑫動植物の世話⑬映画・観劇等⑭自分の勉強(以上2割)⑮写真⑯つり(以上1.5割)等が、妻は③手芸・裁縫類(5割)④休息⑤世間話・雑談(以上3割)⑥読書(2.5割)⑦ラジオ⑧デパート等での買物(以上2割)⑨動植物の世話⑩料理研究⑪映画・観劇等(以上1.5割)の順に頻度が高い。一般に妻は夫より余暇にする趣味や娯楽の種類の方がせまく、手芸、料理、お花、お茶、買物を除けば全般的に頻度がかなり低い。この傾向は年令が高まるにつれていつそう強まつている。

夫と妻の余暇活動を職種・収入・年令別にみると次表のとおりである。

第17表 職種別、世帯収入階級別、年令別、妻の職業別、夫と妻の余暇活動(おもにすること)

		総数		1 テレビ を見る	2 ラジオ をきく	3 休 息	4 世 間 話 ・ 雑 談	5 新 聞 を よ む	6 読 書	7 自 分 の 勉 強	8 か き も の を す る	9 ス ポ ー ツ を み る
		実 数	%									
夫	計	2,792	100	78.0	25.0	43.7	20.5	74.0	29.5	16.2	6.9	33.9
	職 種											
	生産労働者	1,244	100	71.1	27.0	46.7	22.3	72.1	21.9	11.5	7.4	40.6
	職 員 等	1,491	100	83.8	23.2	41.2	18.9	75.7	35.9	20.0	6.6	28.5
	世 帯 収 入 階 級											
	～ 2 万 円	77	100	71.4	40.3	39.0	20.8	61.0	19.5	15.6	9.1	24.7
	2 ～ 3 万 円	477	100	79.9	23.5	40.3	18.9	77.1	25.8	13.8	6.7	35.0
	3 ～ 4 万 円	796	100	84.2	25.0	41.1	22.6	76.4	30.9	17.7	6.5	35.2
	4 ～ 5 万 円	534	100	87.1	25.8	41.8	19.9	79.8	33.0	17.0	5.6	31.8
	5 ～ 6 万 円	304	100	83.6	28.6	45.1	27.3	78.6	35.9	16.4	7.6	33.2
	6 ～ 7 万 円	148	100	88.5	24.3	45.9	20.3	79.1	34.5	18.9	8.8	26.4
	7 万 円 以 上	189	100	88.9	30.2	51.3	25.4	80.4	40.7	25.4	13.8	31.2
	年 令											
	2 0 代	485	100	82.7	27.8	34.6	18.4	74.2	24.5	15.3	5.8	41.2
	3 0 代	1,236	100	71.8	18.7	44.2	16.9	68.5	29.0	15.5	4.8	34.0
	4 0 代	630	100	83.0	27.3	45.4	24.0	81.5	33.0	17.6	10.2	29.5
	5 0 代 以 上	409	100	83.4	37.7	50.9	28.6	79.2	31.8	16.4	9.5	31.5
妻	計	2,792	100	74.8	22.2	32.9	27.4	52.1	24.4	8.3	6.2	4.7
	職 種											
	生産労働者	1,244	100	71.5	19.4	28.9	28.1	51.7	17.0	5.9	5.5	5.1
	職 員 等	1,491	100	77.1	23.7	34.4	24.9	64.5	28.2	9.3	6.8	4.1
	世 帯 収 入 階 級											
	～ 2 万 円	77	100	61.0	15.6	27.3	24.7	44.2	18.2	6.5	7.8	3.9
	2 ～ 3 万 円	477	100	73.0	22.4	27.5	25.4	62.3	24.1	8.0	7.1	3.6
	3 ～ 4 万 円	796	100	72.5	19.7	30.8	27.9	56.4	24.4	5.8	6.8	4.3
	4 ～ 5 万 円	534	100	85.6	24.0	38.8	32.4	65.0	26.0	12.0	4.5	5.1
	5 ～ 6 万 円	304	100	73.7	21.1	35.9	28.3	52.6	22.4	5.9	3.3	3.6
	6 ～ 7 万 円	148	100	80.4	28.4	37.8	22.3	64.2	27.0	8.1	10.1	5.4
	7 万 円 以 上	189	100	74.6	24.9	46.0	26.5	66.7	31.2	12.7	7.9	6.9
	年 令											
	2 0 代	952	100	72.1	22.2	31.2	26.8	59.5	28.2	8.1	8.5	5.5
	3 0 代	1,060	100	77.7	22.1	32.3	28.0	61.0	24.6	8.6	4.5	4.4
	4 0 代	593	100	72.5	21.4	34.2	27.7	56.0	21.8	9.3	5.7	4.4
	5 0 代 以 上	168	100	83.3	28.6	44.6	29.8	58.3	12.5	4.8	6.0	3.6
妻の職業	雇 用	507	100	68.8	20.1	25.6	20.3	47.9	20.5	11.2	5.3	7.3
	パート・タイム	68	100	79.4	29.4	35.3	17.6	60.3	26.5	5.9	2.9	1.5
	内 職	315	100	73.7	22.5	25.4	27.6	49.8	16.8	6.7	2.5	3.5
	自 営 業	158	100	66.5	13.9	35.4	29.7	46.8	17.1	7.0	6.3	5.1
妻の職業別		1,556	100	78.5	23.6	37.3	30.3	67.3	28.4	7.8	7.4	4.5

		10 スポーツを自分	11 映画・テレビ・音楽	12 音楽・読書・自	13 競馬・競輪	14 パチンコ	15 ゴルフ・花・園芸	16 写真・真	17 絵・書道	18 動物・植物の世話	19 日曜大工	20 つり
	計	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
	計	13.0	18.4	1.1	2.4	11.6	12.9	15.3	2.7	18.8	20.2	15.0
夫	職生 産 労働者	11.0	12.5	1.2	3.1	14.5	18.5	14.7	1.8	19.2	23.2	17.2
	職 員 等	14.6	17.4	1.1	1.8	9.1	21.3	16.0	3.6	18.2	17.7	13.3
	世帯収入階級											
	～ 2 万円	10.4	12.5	1.3	1.3	11.7	16.9	10.4	9.1	15.6	28.6	19.5
	2 ～ 3 万円	13.2	12.1	1.3	1.5	15.1	12.9	11.5	2.1	17.0	21.2	17.8
	3 ～ 4 万円	13.2	18.8	1.3	2.1	13.8	20.7	16.5	2.1	19.0	23.1	16.0
	4 ～ 5 万円	12.5	18.7	0.6	3.0	10.1	24.5	15.4	2.6	17.8	16.9	14.2
	5 ～ 6 万円	15.5	22.0	0.7	5.6	10.9	17.1	17.8	3.9	24.7	25.0	12.8
	6 ～ 7 万円	9.5	12.8	—	1.4	7.4	16.9	19.6	4.1	27.7	18.2	14.9
	7 万円以上	17.5	27.5	3.7	2.1	10.6	27.5	23.3	3.2	24.3	20.6	15.3
妻	年 令											
	2 0 代	27.2	26.6	1.6	4.9	15.5	23.5	21.2	2.3	10.1	18.8	13.8
	3 0 代	12.1	14.6	1.3	2.1	11.0	22.4	14.6	2.8	15.5	18.8	14.7
	4 0 代	9.2	18.6	1.0	1.0	10.8	15.2	14.6	2.9	25.7	21.6	14.6
	5 0 代以上	5.1	19.3	0.2	2.4	10.3	15.4	10.5	2.7	28.1	23.0	17.8
	計	1.1	14.0	1.4	0.1	0.4	0.9	2.2	1.3	14.9	0.6	0.3
	職生 産 労働者	1.1	13.3	1.4	0.1	0.2	0.5	2.0	0.3	15.7	1.0	0.3
	職 員 等	1.1	13.6	1.2	0.1	0.5	1.3	2.2	2.0	14.4	0.3	0.3
	世帯収入階級											
	～ 2 万円	—	9.1	—	—	—	—	1.3	1.3	14.3	2.6	1.3
妻の職業	2 ～ 3 万円	0.8	12.8	1.3	—	0.2	0.6	1.7	1.0	13.6	0.6	0.2
	3 ～ 4 万円	1.1	12.2	1.1	—	0.3	1.1	1.4	0.6	12.7	0.9	0.1
	4 ～ 5 万円	1.7	16.9	1.1	0.4	0.7	1.1	2.1	1.1	15.2	0.6	0.4
	5 ～ 6 万円	0.7	15.8	2.0	—	0.3	1.6	3.3	0.7	17.4	0.3	0.3
	6 ～ 7 万円	2.0	12.8	2.0	—	—	—	2.7	3.4	19.6	0.7	0.7
	7 万円以上	1.1	19.0	3.7	0.5	0.5	—	3.7	6.9	21.7	0.5	—
	年 令											
	2 0 代	1.6	14.8	1.2	0.2	0.4	1.4	3.0	0.5	10.9	0.6	0.5
	3 0 代	1.1	13.3	1.6	0.1	0.4	0.5	2.5	1.7	15.6	0.9	0.3
	4 0 代	0.5	11.5	1.3	—	0.3	1.3	1.0	2.4	18.9	0.2	0.2
	5 0 代以上	0.6	23.2	1.8	—	—	—	—	—	19.6	0.6	—
妻の職業	雇 用	3.2	17.4	1.6	0.4	1.4	1.8	2.2	2.0	7.3	0.4	0.6
	パート・タイム	1.5	19.1	1.5	—	—	1.5	1.5	1.5	4.4	—	—
	内 職	—	12.1	0.6	—	0.3	0.3	1.9	0.3	20.6	0.6	0.3
	自 営	1.3	13.9	2.5	—	—	—	1.9	—	12.0	0.6	—
	な し	0.7	13.4	1.5	0.1	0.1	1.0	2.4	1.6	17.4	0.8	0.3

		21 旅行・ハイなど	22 コレクション	23 お花・お茶	24 手芸・編物・裁縫	25 料理研究	26 外での飲食	27 家での晩しやく	28 団体的仕事・社勤	29 デパートなどで	30 その他	31 6～30 に回答ある者
	計	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
	計	11.2	2.3	0.5	0.1	0.5	8.7	28.0	7.1	6.2	1.2	83.1
夫	職生 産 労働者	9.8	1.4	0.6	0.2	0.3	7.5	30.6	0.3	6.4	1.1	76.9
	職 員 等	12.4	3.2	0.5	0.1	0.7	9.7	26.2	6.4	6.1	1.3	88.5
	世帯収入階級											
	～ 2 万円	9.1	3.9	1.3	1.3	—	7.8	24.7	10.4	5.2	—	81.8
	2 ～ 3 万円	8.2	1.5	0.4	0.2	0.2	5.9	24.9	6.7	3.4	1.0	88.3
	3 ～ 4 万円	8.8	2.5	0.5	0.1	0.6	8.4	27.6	7.7	5.5	2.0	85.3
	4 ～ 5 万円	14.0	3.4	0.7	—	0.4	10.1	33.5	6.6	5.6	0.6	89.5
	5 ～ 6 万円	18.1	1.3	0.7	—	1.0	9.5	33.9	8.9	11.5	1.3	78.0
	6 ～ 7 万円	10.8	1.4	—	—	—	12.8	31.8	5.4	9.5	—	93.9
	7 万円以上	21.2	4.8	1.1	—	1.6	10.1	33.3	10.6	9.5	1.6	92.1
妻	年 令											
	2 0 代	17.9	2.3	0.6	0.2	0.6	11.8	23.7	6.0	6.8	—	88.2
	3 0 代	10.6	2.5	0.2	0.2	0.3	8.9	24.6	6.3	5.7	1.7	80.2
	4 0 代	7.8	2.1	0.5	—	1.0	6.8	32.9	7.3	5.7	1.1	84.1
	5 0 代以上	9.8	2.4	1.6	—	0.2	7.1	36.4	10.3	7.8	1.2	84.1
	計	5.7	1.5	10.9	46.7	14.9	2.7	1.2	3.3	19.7	1.3	77.3
	職生 産 労働者	5.1	1.8	9.9	42.7	12.2	2.9	1.4	3.9	18.7	1.5	64.9
	職 員 等	5.9	1.2	10.7	48.7	16.8	2.7	1.1	2.7	19.3	1.1	87.2
	世帯収入階級											
	～ 2 万円	1.3	1.3	6.5	35.1	9.1	3.9	1.3	1.3	15.6	2.6	61.0
妻の職業	2 ～ 3 万円	4.0	0.4	8.4	46.5	10.9	2.7	1.0	2.1	16.4	0.2	70.6
	3 ～ 4 万円	4.0	1.4	10.3	57.5	15.3	2.5	0.9	3.3	19.3	1.4	72.4
	4 ～ 5 万円	7.5	3.2	9.4	34.1	17.8	2.4	0.9	3.4	22.8	1.9	98.1
	5 ～ 6 万円	7.9	1.3	15.8	46.4	12.8	3.9	3.3	3.3	20.7	2.0	61.5
	6 ～ 7 万円	5.4	0.7	15.5	53.4	17.6	0.7	1.4	6.1	27.7	1.4	91.9
	7 万円以上	9.5	1.6	16.9	57.1	19.6	3.7	0.5	7.4	22.2	1.6	88.9
	年 令											
	2 0 代	5.9	2.3	11.0	49.3	17.5	3.2	1.4	1.3	20.2	1.2	80.4
	3 0 代	6.2	1.1	10.9	50.0	13.3	3.2	1.2	4.1	20.7	1.7	83.0
	4 0 代	4.4	1.2	10.8	41.7	14.7	1.2	1.2	4.9	18.5	1.0	69.0
	5 0 代以上	6.0	1.2	10.1	32.1	12.5	2.8	—	5.4	16.7	0.6	57.1
妻の職業	雇 用	5.7	2.8	11.2	33.7	16.6	5.7	2.2	2.2	20.7	0.6	69.0
	パート・タイム	14.7	1.5	10.3	42.6	17.6	1.5	2.9	2.9	23.5	—	61.8
	内 職	6.0	0.6	8.9	39.7	9.2	3.2	0.6	2.5	13.7	1.0	64.4
	自 営	5.7	1.3	10.8	28.5	10.1	2.5	1.3	3.8	12.0	—	62.0
	な し	5.3	1.5	11.4	56.0	16.3	1.9	1.0	4.0	21.5	1.9	86.2

注) 余暇活動の種類は多答式である。

夫の場合、職種別にみると、職員層ではテレビ、読書、自分の勉強、基・しよぎ・マージャン類、旅行・ハイク・ドライブ等、するスポーツの頻度が高く、生産労働者層では見るスポーツ、読しやく、日曜大工、雑誌、つり、パチンコ等の頻度が高まっている。収入別には、低所得層でラジオ、つりの頻度が高い他は高所得層ほどすべての項目について頻度が高い。年令別には、見るスポーツ、するスポーツ、映画・観劇等、基・しよぎ・マージャン類、写真、旅行・ハイク・ドライブ、外での飲食等家庭外で楽しむ趣味・娯楽は若い層ほど頻度が高い傾向を示しているのに対して、高年層になると戸外ではつりを楽しむものが多い。ほかは一般に休息、読書、雑誌・植物の世話、日曜大工等家庭の中での趣味・娯楽に高い頻度を示している。

妻の場合は、職種別にみると、雑誌、動・植物の世話が生産労働者層で盛んな他は、全般に職員層の余暇活動が活発である。収入別には大部分の項目について高所得層ほど余暇活動の頻度が高い。年令別には余暇活動は若年層ほど活発で、年令とともに沈滞する傾向が強いが、ただテレビ、動・植物の世話、団体の仕事は例外的に高年層で高まっている。妻の職業別にみると、無職の妻の余暇活動の頻度が全般に高いが、自分の勉強、スポーツ、映画・観劇等は雇用者が多くなっている。内職者、自営業は全般に低い傾向がみられるが、動・植物の世話は内職者がやや高い。

このように性別・職種・収入・年令などによつて趣味・娯楽には若干差違がみられるが、どの階層も最も頻度の高いのはテレビと新聞であることは変わらない。

(2) やりたいと思ひながら十分にできないこと

やりたいと思ひながら十分にできないことがあると回答したものは夫も妻も8割以上の大部分であるが、職員層、若年層ほどそう答えるものが多い。

やりたいが十分にできないものとしては、夫も妻も旅行をあげるものが約4割と多く、その他夫は、自分の勉強、読書（以上約3割）、写真、映画観劇、つり、休息、するスポーツ（以上約2割）、日曜大工、動・植物の世話（以上約1.5割）の順であげるものが多く、妻は手芸・裁縫・編物類、料理研究（以上約4割）、読書、映画・観劇等（以上約3割）、デパート等での買い物・お花・お茶、自分の勉強、休息（以上約2割）の順であげるものが多い。

職種別には、職員層の方が全般に欲求度が高いが、夫、妻とも旅行、読書、自分の勉強、映画・観劇等を求めるものが多く、生産労働者層では休息、テレビ、新聞等のつましい要求をあげるものがとくに妻の方で目立っている。

第18表 職種別、世帯収入階級別、年令別、妻の職業別、夫と妻の余暇活動に対する希望（やりたいと思ひながら十分にできないこと）

		総 数		や り た い 思 ひ な が ら 十 分 に で き な い こ と の 数 が 分 る	1 テ レ ビ を 見 る	2 ラ ジ オ を 聞 く	3 休 息	4 世 間 話 ・ 雑 談	5 新 聞 を 読 む	6 読 書	7 自 分 の 勉 強	8 書 き もの を する
		実 数	%									
計		2,792	100	84.3	7.7	5.1	17.8	5.4	5.1	27.8	32.1	8.7
職 種	生産労働者	1,244	100	80.1	8.4	5.5	17.8	6.1	5.6	20.9	25.1	7.3
	職員等	1,491	100	87.9	6.5	4.6	17.7	4.7	4.6	33.1	37.9	9.6
世 帯 収 入 階 級	～2万円	77	100	79.2	11.7	5.2	23.4	6.5	7.8	19.5	26.0	10.4
	2～3万円	477	100	84.1	10.5	6.1	21.8	7.1	6.9	25.4	27.9	9.9
	3～4万円	796	100	86.4	7.5	5.9	19.3	5.6	4.5	30.5	34.7	9.3
	4～5万円	534	100	86.3	5.6	3.4	16.5	5.2	4.3	31.5	38.4	8.1
	5～6万円	304	100	83.6	6.2	6.6	17.1	4.6	3.6	27.6	39.5	8.6
	6～7万円	148	100	85.1	9.5	3.4	18.9	2.0	4.7	28.4	27.0	8.8
	7万円以上	189	100	85.7	6.9	4.8	12.7	4.8	7.4	32.3	28.6	11.1
年 令	20代	485	100	90.9	8.0	5.6	24.9	6.6	5.4	34.8	39.6	10.9
	30代	1,236	100	88.8	6.9	4.0	15.6	4.1	4.4	26.5	34.2	8.3
	40代	630	100	80.3	9.4	6.7	18.3	6.0	6.0	29.7	30.8	7.5
	50代以上	409	100	69.2	6.4	5.1	14.7	6.1	4.9	19.6	19.1	8.8
計		2,792	100	81.1	13.4	4.9	21.6	5.5	9.9	29.3	21.6	6.3
職 種	生産労働者	1,244	100	77.6	15.5	5.5	24.3	6.8	11.4	25.5	18.5	6.4
	職員等	1,491	100	84.2	10.4	3.8	18.7	4.0	8.3	30.5	22.5	6.0
世 帯 収 入 階 級	～2万円	77	100	79.2	16.9	5.2	20.8	3.9	11.7	24.7	19.5	9.1
	2～3万円	477	100	82.2	13.4	5.0	23.3	6.5	10.9	27.0	21.4	7.1
	3～4万円	796	100	82.0	12.7	3.0	21.2	5.5	9.4	26.3	20.4	4.9
	4～5万円	534	100	83.0	15.7	6.2	21.3	4.1	10.5	36.7	27.0	7.1
	5～6万円	304	100	83.2	9.9	7.2	26.6	5.6	10.9	37.5	23.0	6.6
	6～7万円	148	100	81.1	12.2	2.0	21.6	3.4	6.8	26.4	17.6	4.1
	7万円以上	189	100	85.2	11.6	3.7	15.9	4.8	6.3	28.0	22.8	5.3
年 令	20代	952	100	89.1	11.3	4.7	24.9	5.8	10.9	33.8	27.3	9.0
	30代	1,060	100	83.3	16.2	4.5	21.8	5.5	10.3	33.4	22.7	5.6
	40代	593	100	71.8	14.2	5.7	17.5	5.4	9.1	20.7	14.8	4.2
	50代以上	168	100	57.7	6.5	5.4	17.3	4.2	6.0	10.1	7.1	3.6
妻 の 職 業	雇 用	507	100	84.2	16.0	8.9	30.6	8.3	16.8	31.8	26.7	8.7
	パート・タイム	68	100	82.4	22.1	4.4	22.1	4.4	5.9	39.7	20.6	5.9
	内 職	315	100	80.3	15.9	2.9	23.5	6.0	12.1	30.8	18.4	7.0
	自 営 業	158	100	79.1	25.9	10.1	30.4	8.2	9.5	25.9	18.4	7.6
	な し	1,556	100	82.2	10.5	3.7	17.5	4.1	7.7	29.2	21.9	5.3

		9 スポーツを見る	10 スポーツを自分 でする	11 映画・テレビ・ 劇場・見たり 音楽	12 音楽・劇・自分 で	13 競馬・競輪	14 パ チ ン コ	15 ランニング・花 など	16 写 真	17 絵 ・ 書 道	18 動物・植物の 世話	19 日 曜 大 工
夫	計	13.6	17.5	21.5	5.4	3.9	6.8	12.5	22.2	10.0	14.7	15.7
	職 種	12.5	13.7	18.3	4.6	4.3	8.8	12.1	21.0	7.9	14.1	18.2
	生産労働者 職 員 等	14.6	20.9	24.1	6.1	3.4	5.1	13.0	23.2	11.7	15.1	13.4
	世帯収入階級											
	～2万円	16.9	26.0	26.0	7.8	3.9	14.3	18.2	22.1	10.4	16.9	23.4
	2～3万円	14.3	19.9	24.1	4.6	4.4	10.7	15.7	24.7	9.9	15.5	21.8
	3～4万円	15.3	16.8	21.2	5.2	4.8	6.8	12.8	22.6	11.7	14.2	16.0
	4～5万円	13.7	21.0	25.7	7.7	3.9	6.4	13.9	23.8	11.0	15.9	15.5
	5～6万円	13.2	15.8	22.0	5.6	3.0	4.6	14.1	21.7	8.2	15.8	14.1
	6～7万円	14.2	20.3	18.2	5.4	2.7	4.1	6.1	26.4	5.4	13.5	11.5
	7万円以上	9.5	11.6	14.8	6.3	2.6	4.2	9.0	19.0	16.9	16.9	11.6
妻	年令											
	20代	17.7	30.1	30.1	8.2	4.9	10.1	19.4	28.7	11.8	14.6	15.7
	30代	13.8	18.9	31.7	5.3	4.5	6.9	12.7	23.6	9.6	14.2	15.9
	40代	11.7	11.3	1.0	3.8	2.2	6.5	10.2	19.7	9.5	15.7	15.4
	50代以上	10.8	8.1	12.0	5.4	3.2	3.2	7.6	14.7	9.0	14.4	14.9
	計	4.5	7.1	26.4	6.0	1.3	1.5	1.8	5.4	7.7	9.7	1.6
	職 種	4.9	5.5	21.4	5.6	1.8	2.2	2.3	5.1	4.9	9.6	2.0
	生産労働者 職 員 等	3.9	8.1	29.3	5.5	0.8	0.9	1.3	4.9	9.7	9.6	1.0
	世帯収入階級											
	～2万円	2.6	9.1	20.8	3.9	—	—	2.6	3.9	1.3	13.0	1.3
妻の職業	2～3万円	4.8	6.1	24.5	8.2	1.3	1.7	1.5	6.9	6.1	9.4	2.5
	3～4万円	3.1	7.4	27.1	4.5	0.4	0.8	1.0	5.3	6.5	8.4	0.9
	4～5万円	4.7	7.1	29.6	7.7	0.7	1.3	1.9	6.4	10.5	12.7	1.5
	5～6万円	4.9	6.2	32.6	4.9	4.9	4.6	4.9	5.3	9.5	9.9	—
	6～7万円	5.4	9.5	25.0	6.1	—	—	1.4	3.4	8.1	5.4	—
	7万円以上	5.8	7.4	23.8	5.3	1.1	0.5	0.5	3.2	9.0	9.5	1.6
	年令											
	20代	5.6	11.8	37.0	7.0	0.6	0.8	2.0	7.0	9.3	11.6	1.5
	30代	4.5	6.4	26.7	6.0	2.5	2.8	2.5	5.6	7.9	9.9	2.1
	40代	3.0	2.2	13.7	4.6	0.3	0.3	0.3	2.9	5.6	7.3	0.8
妻の職業	50代以上	4.2	3.6	12.5	5.4	1.8	1.8	1.8	4.2	4.2	7.1	1.8
	雇 用	7.1	10.1	28.0	8.7	1.2	2.2	2.8	5.1	8.4	8.9	2.6
	パート・タイム 職 業	7.4	7.4	20.6	8.8	—	—	1.5	7.4	10.3	8.8	1.5
	内 営 業	3.8	7.6	21.9	4.8	1.0	1.0	1.0	3.8	7.3	12.7	2.5
妻の職業	自 営 業	2.5	6.3	20.3	12.7	0.6	0.6	0.6	5.7	4.4	8.2	0.6
	な し	3.6	6.4	28.6	4.9	1.6	1.8	2.0	6.0	8.3	9.8	1.3

		20 つ り	21 旅行・ハイ ク	22 コレク ション	23 お 花 ・ お 茶	24 手 芸 ・ 編 物 ・ 裁 縫	25 料 理 研 究	26 外 で の 飲 食	27 家 で の 晩 し ゃ く	28 団 体 的 活 動 ・ 社 会 的 活 動	29 デ パ ー ト な ど で	30 そ の 他
夫	計	20.9	42.4	5.4	2.3	1.1	1.7	10.0	11.9	6.3	6.4	1.0
	職 種	21.1	37.6	3.9	2.8	1.6	2.3	11.1	14.1	6.9	8.0	0.6
	生産労働者 職 員 等	20.8	46.5	6.6	1.9	0.8	1.2	9.1	10.1	5.8	5.1	1.3
	世帯収入階級											
	～2万円	28.6	48.1	7.8	5.2	1.3	3.9	11.7	20.8	7.8	13.8	2.6
	2～3万円	26.2	43.6	4.2	2.3	1.5	2.3	10.5	16.6	6.3	8.2	0.4
	3～4万円	22.5	46.1	5.0	2.8	1.6	2.1	11.2	15.1	8.3	7.8	0.6
	4～5万円	21.2	41.8	6.6	2.4	0.7	1.3	12.2	11.6	5.6	5.6	0.7
	5～6万円	16.8	47.4	8.9	1.6	0.7	1.0	8.2	7.9	6.2	6.2	1.0
	6～7万円	18.9	49.3	2.7	2.7	2.0	0.7	4.1	9.5	6.8	2.7	2.0
	7万円以上	18.0	42.3	6.3	1.1	0.5	0.5	7.4	3.2	2.6	3.2	2.1
妻	年令											
	20代	27.4	54.4	6.4	3.7	0.8	1.9	13.6	15.7	6.4	8.5	0.8
	30代	20.2	44.6	5.1	2.2	1.5	0.9	10.3	12.2	6.1	6.7	1.2
	40代	19.2	19.7	6.2	1.4	0.8	2.5	9.2	11.1	5.9	5.7	0.5
	50代以上	18.1	28.1	3.9	1.7	1.2	2.7	5.6	8.1	7.6	4.6	1.2
	計	2.1	35.0	4.1	22.3	40.3	36.2	9.7	1.3	4.0	22.6	0.5
	職 種	1.8	29.9	4.3	20.2	37.9	33.7	9.2	1.4	4.1	22.7	0.6
	生産労働者 職 員 等	1.6	38.0	3.7	23.5	40.2	36.4	9.1	1.0	3.8	21.7	0.4
	世帯収入階級											
	～2万円	2.6	26.0	7.8	19.5	48.1	27.3	3.9	1.3	9.1	26.0	1.3
妻の職業	2～3万円	3.1	31.4	4.6	21.8	41.9	37.1	11.9	0.8	4.0	24.7	0.4
	3～4万円	1.6	34.8	3.5	23.0	41.1	35.4	8.2	0.9	3.8	22.1	0.4
	4～5万円	2.8	42.9	4.5	26.2	49.4	42.3	12.9	1.9	3.9	27.7	0.7
	5～6万円	1.3	39.5	3.6	19.4	35.2	43.1	10.2	3.3	3.9	20.4	1.3
	6～7万円	0.7	39.2	3.4	21.6	29.7	33.1	8.8	—	2.7	17.6	—
	7万円以上	1.1	38.1	2.1	25.4	27.5	32.3	4.8	0.5	5.3	17.5	—
	年令											
	20代	2.3	43.8	6.4	27.2	48.7	43.8	12.1	1.2	4.0	29.0	0.4
	30代	2.5	35.4	3.1	22.0	43.0	37.9	11.2	1.9	3.9	21.8	—
	40代	1.0	25.6	2.2	18.0	27.7	26.1	4.6	6.7	4.6	17.0	1.5
妻の職業	50代以上	1.8	18.5	3.6	12.5	21.4	19.6	4.8	1.2	3.0	11.9	0.6
	雇 用	3.6	38.1	4.3	25.2	46.5	35.9	10.3	2.2	4.1	19.7	0.2
	パート・タイム 職 業	—	38.2	2.9	30.9	38.2	50.0	14.7	1.5	1.5	23.5	1.5
	内 営 業	1.9	29.2	4.1	19.7	35.9	32.4	9.2	0.6	3.5	23.8	—
妻の職業	自 営 業	1.3	32.3	1.9	15.8	36.1	33.5	9.5	0.6	3.8	19.6	—
	な し	2.0	37.0	4.5	22.8	40.7	38.0	9.5	1.3	4.2	24.1	0.7

注) 余暇活動の種類は多答式である

収入別には、夫は休息、日曜大工、つり、映画・観劇等、晚しきく、暮・しょうぎ・マージャン類、パチンコ、デパート等での買物、テレビをあげるものが低所得層ほど多く、とくに収入3万円未満の層で高まっているが、読書、自分の勉強をあげるものは収入3万円以上の層で高まっている。妻は既して収入4～6万の階層で欲求度が高い傾向がみられ、手芸・裁縫類、料理、旅行、映画・観劇等、読書、自分の勉強をあげるものが多い。

年齢別には、夫も妻も余暇活動を活発にやっている若年層ほどなおそれ以上に余暇活動全般について、もつとやりたいと答えており、とくに旅行・ハイク・ドライブ等、読書、自分の勉強、映画・観劇等が強くのぞまれている。年齢が高まるにつれて欲求度は低くなるが、とくに妻の方が著しい。

(3) 余暇活動を妨げるもの

夫も妻も余暇活動をやりたいと思つても十分できないものがあると答えたものが大多数であるが、何が余暇活動を妨げているかその原因をたずねたところ、夫、妻とも約4%「ひまがない」と答え、約4%「費用がかかる」と答えている。その他夫は「休暇がとれない」約4%、「家がせまくて場所がない」約4%、「手近な施設がない」約4%等の順序で原因をあげるものが多く、妻は「子供を置いて出かけられない」約4%、「家を留守にすると不用心」約4%、「手近な施設がない」約4%弱をあげるものが多く、「家がせまくて場所がない」が6%程度ある。

職業別にみると、夫の場合、ひまがないや休暇がとれないは職員層のほうがかかなり多く、費用がかかる、家が狭いは生産労働者層がやや多いが、妻の場合はひまがない、費用がかかる、家が狭いは生産労働者が多いのに対して、家を留守にすると不用心、子供をおいてでかけられないは職員層がやや多い。手近な施設がないを理由とするものは夫、妻とも職員層の方がわずかに多くなっている。

収入別にみると、費用がかかるは低所得層ほど、ひまがないや夫の休暇がとれないは高所得層ほど多い。また、家がせまくて場所がないや、手近な施設がないとするものも夫も妻も低所得層ほど多く、妻の子供をおいてでかけられないものも低所得層ほど高いが、これは夫の年齢と賃金、子供の成長などの関連によるものであろう。妻の家を留守にすると不用心は高所得層ほど多くなっている。

年齢別には、ひまがない、費用がかかると、金と暇の両方の原因をあげるものが、夫、妻とも若年層ほど多く、家の狭さや手近な施設をあげるものも多くなる。子供をおいてでかけられないという妻は20代、30代の若い妻に著しく多く、家を留守にすると不用心は40代、50代以上の年配の妻に多い。

第19表 職種別、世帯収入階級別、規模別、年齢別夫の余暇活動を妨げる原因

	総 数		やりたいが十分 できないものあ りの回答者数	ひまがない	休 暇 が と れ ない	費 用 が か かる
	実 数	%				
計	2,792	100	%	%	%	%
職 種						
生産労働者	1,244	100	84.3	52.4	16.0	36.5
職 員 等	1,491	100	80.1	48.2	11.7	37.1
世帯収入階級						
～2万円	77	100	87.9	56.3	19.7	36.0
2～3万円	477	100	79.2	42.9	6.5	40.3
3～4万円	796	100	84.1	49.5	12.6	44.7
4～5万円	534	100	86.4	52.5	16.8	40.7
5～6万円	304	100	86.3	55.6	19.1	37.5
6～7万円	148	100	83.6	59.5	13.8	32.9
7万円以上	189	100	85.1	56.1	16.2	25.7
規 模						
30～99人	936	100	85.7	60.3	20.2	26.5
100～499人	969	100	83.4	54.2	14.1	33.9
500人以上	887	100	84.1	51.1	18.2	36.3
年 令						
20代	485	100	85.3	51.9	15.8	39.5
30代	1,236	100	90.9	58.1	18.1	40.2
40代	630	100	88.8	55.9	17.4	39.8
50代以上	409	100	80.3	50.3	15.4	32.2
			69.2	37.7	10.0	28.9

	家がせまくて 場所がない	手 近 か な 施 設 が ない	そ の 他	不 明
	%	%	%	%
計	10.6	9.5	2.8	7.0
職 種				
生産労働者	11.0	8.9	2.7	7.7
職 員 等	10.1	10.0	2.8	6.1
世帯収入階級				
～2万円	13.0	22.1	5.2	7.8
2～3万円	14.0	11.1	2.3	4.8
3～4万円	11.4	10.1	3.3	8.9
4～5万円	12.0	9.2	2.2	4.7
5～6万円	5.3	7.9	1.0	3.9
6～7万円	4.7	10.1	4.1	14.2
7万円以上	6.9	4.8	1.6	5.3
規 模				
30～99人	9.3	10.9	1.9	7.2
100～499人	9.5	8.8	2.8	7.6
500人以上	13.1	8.8	3.6	6.1
年 令				
20代	11.3	14.2	2.9	6.0
30代	12.3	9.6	2.9	5.6
40代	8.7	9.2	2.4	8.1
50代以上	6.8	3.9	2.7	10.8

注) 多答式のため計は100%をこえる

第20表 職種別、世帯収入階級別、妻の職業別、年令別、妻の余暇活動を妨げる原因

		総 数		やりたいが十分 できないものあ りの回答者数	ひまがない	費 用 が かゝる	家を留守に すると不用心
		実 数	%				
計		2,792	100	81.1	50.5	37.0	11.0
職 種	生産労働者等	1,244	100	77.6	51.4	37.9	9.7
	職 員	1,491	100	84.2	49.5	36.6	11.9
世帯収入階級	～ 2 万 円	77	100	79.2	46.8	40.3	7.8
	2 ～ 3 万 円	477	100	82.2	50.1	44.0	8.2
	3 ～ 4 万 円	796	100	82.0	45.7	38.3	9.5
	4 ～ 5 万 円	534	100	83.0	51.7	36.9	11.4
	5 ～ 6 万 円	304	100	83.2	59.9	35.9	11.8
	6 ～ 7 万 円	148	100	81.1	74.3	29.7	14.9
	7 万 円 以 上	189	100	85.2	55.0	31.2	21.7
妻の職業	雇 用	507	100	84.2	73.2	32.3	2.6
	パートタイム	68	100	82.4	57.4	50.0	11.8
	内 職	315	100	80.3	57.1	42.9	13.0
	自 営	158	100	79.1	69.6	22.2	10.1
年 令	2 0 代	952	100	89.1	57.6	39.8	8.1
	3 0 代	1,060	100	83.3	52.6	38.4	11.7
	4 0 代	593	100	85.3	41.7	34.2	13.8
	5 0 代 以 上	168	100	57.7	29.8	24.4	13.1

		子供を置いて 出かけられない	家がせまく て場所がない	手近かな施 設がない	そ の 他	不 明
計		% 21.1	% 5.9	% 7.9	% 2.4	% 5.7
職 種	生産労働者等	18.2	6.8	7.6	2.0	5.0
	職 員	23.9	5.4	8.4	2.7	6.2
世帯 収入 階級	～ 2万円	26.0	5.2	13.0	6.5	3.9
	2 ～ 3万円	23.9	8.4	9.9	3.1	3.4
	3 ～ 4万円	24.0	5.4	8.5	1.9	2.9
	4 ～ 5万円	21.9	7.3	7.7	3.0	4.1
	5 ～ 6万円	15.8	2.6	5.9	0.3	13.8
	6 ～ 7万円	18.2	3.4	7.4	2.0	9.5
	7万円以上	17.5	3.7	6.3	2.1	6.3
妻の 職業	雇用	5.3	7.3	5.3	2.2	7.5
	パートタイム	10.3	4.4	4.4	1.5	4.4
	内 職	21.3	5.1	8.9	1.0	5.7
	自 営	7.6	5.1	7.0	2.5	2.5
年 令	20代	30.9	9.2	10.1	3.0	3.9
	30代	24.1	4.2	7.6	1.8	4.6
	40代	5.7	4.7	5.9	2.0	9.8
	50代以上	4.2	1.8	4.2	3.0	8.3

注) 多答式のため計は100%をこえる。
-44-

妻の職業別に妻の余暇を妨げるものをみると、ひまがないは有職——とくに雇用や自営業が多い——の妻に、家が不用心、子どもが心配、手近かな施設がないは無職の妻に多い。費用がかかるはパートタイム、内職の妻で目立っている。

(4) 余暇がふえたらやりたいこと(妻)

もう少し余暇がふえたらどんなことに使いたいと思うか、7項目中もつとも主なもの1項目だけを選んでもらったところ自分の楽しみや勉強に使いたいという妻が全体の31.6%と最も多く、休息は10.0%、子供の相手をしたいが16.6%、家事に使いたい10.9%であり、勤めにでたいというものが9.9%、内職に使いたいものが5.2%である。社会のために何かしたいは1.5%と少なかった。

職種別にみると、自分の楽しみや勉強に使いたいものは職員層で著しく高い(約4割)が、生産労働者層ではその割合が低くなって(約2割)、子どもの相手(約2割)や家事(約1.5割)が増えている。内職をしたいや休息したいものも生産労働者層で若干高い。勤めにでたいはどちらも同程度で、社会のため何かしたいは少数ながら職員層が多い。

収入別にみると、所得が高まるほど自分の楽しみや勉強(とくに収入4万円以上の層で)、休息に使いたいものが増えており、低所得層では子どもの相手に使いたいものが多く、内職をしたい、勤めにでたいという経済活動に対する希望も低所得層ほど目立って多い。(とくに内職は収入4万円未満層、勤めは収入3万円未満層で高まる。)社会のため何かしたいは収入2万円未満と7万円以上の高低所得層でいくぶん高くなっている。

年令別にみれば、自分の楽しみや勉強は若年層ほど高く、年令が高まるにつれて急激に低下するが、休息に対する希望は高年令層ほど高率である。子供の相手をしたいは30代を中心に若年層ほど、家事に使いたい40代、50代以上の年配層で高い。内職希望は50代以上と20代の年令層で目立ち、勤めの希望は20～40代はほぼ同じ5～6%であるが50代以上になると少ない。社会のため何かしたいは40代でやや高い。

妻の職業によつても、余暇の使途希望にいくつかの特徴点が見られる。無職をはじめとして雇用、パートタイムの妻は自分の楽しみや勉強に使いたいものが最も多いのに対し、内職の妻は子供の相手、自営業の妻は家事に使いたいものが最も多くなっている。また無職の妻は内職や勤めなど経済活動への関心が強い(とくに内職希望は1.5割と高い)、有職の妻は一般に休息を求める率が高い。社会活動は無職の妻でわずかながら高まる。

第21表 職種別、世帯収入階級別、年齢別、妻の職業別、余暇がふえたらやりたいこと（妻）

		総 数		自分の楽しみ や 勉 強	休 息	子どもの相手	家 事
		実 数	%				
計		2,792	100	31.6	10.0	16.6	10.9
職 種	生産労働者	1,244	100	20.0	10.2	20.3	13.9
	職 員 等	1,491	100	41.8	9.7	13.5	8.3
世帯収入階級	～ 2 万 円	77	100	13.0	3.9	27.2	9.1
	2 ～ 3 万 円	477	100	22.0	8.0	16.1	9.6
	3 ～ 4 万 円	796	100	30.3	8.2	18.8	11.2
	4 ～ 5 万 円	534	100	38.3	11.0	13.9	11.0
	5 ～ 6 万 円	304	100	43.2	14.2	12.8	11.5
	6 ～ 7 万 円	148	100	38.5	10.8	14.2	4.7
	7 万 円 以 上	189	100	41.8	15.9	6.3	18.0
年 令	2 0 代	952	100	41.6	6.2	15.8	8.6
	3 0 代	1,060	100	30.5	8.4	22.5	7.6
	4 0 代	593	100	22.8	15.2	11.0	17.4
	5 0 代 以 上	168	100	16.7	23.2	4.8	20.2
妻の職業	雇 用	507	100	32.8	16.0	17.6	14.6
	パート・タイム	68	100	30.9	14.7	17.6	13.2
	内 職	315	100	20.0	13.7	28.9	9.5
	自 営 業	158	100	17.7	15.2	22.2	27.2
	な	1,556	100	36.3	6.6	12.9	8.0

		勤 め に 出 た い	内 職	社会のため 何かしたい	回答なし
		%	%	%	%
計		5.2	9.9	1.5	14.3
職 種	生産労働者	5.2	10.5	1.1	18.7
	職 員 等	5.2	9.4	1.8	10.3
世帯 収入階級	～ 2万円	11.7	18.2	3.9	13.0
	2 ～ 3万円	8.0	15.9	1.7	18.7
	3 ～ 4万円	5.0	11.4	1.0	14.1
	4 ～ 5万円	6.0	5.8	1.1	12.9
	5 ～ 6万円	3.6	6.2	1.6	6.9
	6 ～ 7万円	2.0	7.4	1.4	20.9
	7万円以上	2.1	4.8	3.7	7.4
年 令	20代	5.0	10.7	1.3	10.8
	30代	5.9	8.6	1.0	15.4
	40代	4.9	9.9	2.7	16.2
	50代以上	1.8	14.3	1.2	17.9
妻の職業	雇 用	0.6	1.4	0.6	16.4
	パート・タイム	—	2.9	1.5	19.1
	内 職	4.8	7.9	1.0	14.3
	自 営	1.9	1.9	—	13.9
	な	7.1	14.5	2.1	12.5

3. 文化教養の各項について

(1) テレビを見る時間

ふだん1日にテレビをみる時間は、夫平均2時間13分、妻平均2時間34分である。時間別の分布状態をみるとともに分布の多いのは夫、妻とも2～3時間であり、ついで1～2時間、3～4時間が多い。4時間以上や1時間未満は少なかつたが、夫より妻の方に4時間以上や1時間未満というものが多く、夫は2～3時間の間へ集中する割合が高い。

職種別にみると、妻の場合は大差なく、夫の場合は生産労働者世帯の視聴時間が長い。（妻職員等2時36分、生産労働者2時34分、夫生産労働者2時28分、職員等2時02分）

収入別には夫、妻とも概して低所得層ほど時間の長い傾向があり、分布もやや長時間層へ偏るが、この傾向は夫よりも妻の方に強い。

年齢別には夫も妻も高年齢層、若年層が長く中年層が短い傾向を示している。

妻の職業別にみると無職の妻のテレビ視聴時間が長く、有職の妻は一般に短い傾向がみられ、最長は無職の妻2時間55分、最短は雇用の妻の2時間18分であつた。分布の状態は、1時間未満の雇用、自営業、4時間以上の無職がやや多い。

第22表 職種別、世帯収入階級別、年令別、妻の職業別、夫と妻のテレビを見る時間

	平均時間	総 数		～ 1 時間	1～2時間	2～3時間
		実 数	%			
計	時間 分			%	%	%
	2.13	2,792	100	6.7	24.5	34.8
職 種						
生産労働者	2.28	1,244	100	4.1	22.8	32.7
職 員 等	2.02	1,491	100	8.6	26.2	36.6
世帯収入階級						
～ 2 万円	2.41	77	100	5.2	22.1	29.8
2 ～ 3 万円	2.43	477	100	4.6	16.6	34.2
3 ～ 4 万円	2.11	796	100	7.4	24.3	35.3
4 ～ 5 万円	2.10	534	100	7.1	24.3	39.3
5 ～ 6 万円	2.02	304	100	8.2	29.3	32.9
6 ～ 7 万円	2.35	148	100	4.7	28.4	39.9
7 万円以上	2.14	189	100	8.5	40.2	28.6
年 令						
20代		485	100	10.1	23.3	27.7
30代		1,236	100	4.4	25.9	38.8
40代		630	100	8.9	25.7	35.7
50代以上		409	100	6.4	21.0	30.6
計	2.34	2,792	100	7.3	24.1	27.2
職 種						
生産労働者	2.34	1,244	100	7.4	22.7	28.8
職 員 等	2.36	1,491	100	7.2	25.0	25.7
世帯収入階級						
～ 2 万円	2.41	77	100	5.2	18.2	24.6
2 ～ 3 万円	2.58	477	100	5.5	20.7	23.9
3 ～ 4 万円	2.34	796	100	7.2	22.9	28.2
4 ～ 5 万円	2.28	534	100	8.6	26.6	25.8
5 ～ 6 万円	2.25	304	100	7.2	29.6	27.3
6 ～ 7 万円	2.27	148	100	6.8	23.0	38.5
7 万円以上	2.04	189	100	12.7	32.3	24.9
年 令						
20代	2.53	952	100	6.3	20.8	25.8
30代	2.25	1,060	100	7.8	26.7	26.6
40代	2.18	593	100	7.8	27.0	30.4
50代以上	2.41	168	100	10.1	17.3	26.8
妻の職業						
雇用	2.18	507	100	13.0	32.7	27.6
パート・タイム	2.24	68	100	8.8	29.4	27.9
内 職	2.36	315	100	5.1	24.1	33.7
自 営 業	2.23	158	100	12.7	28.5	32.3
な し	2.55	1,556	100	5.8	21.3	25.3

	3～4時間	4～5時間	5～6時間	6時間以上	不 明
	%	%	%	%	%
計	19.4	5.7	1.2	0.4	7.3
職 種					
生産労働者	21.9	7.6	1.4	0.6	8.9
職 員 等	17.4	4.2	1.0	0.3	5.7
世帯収入階級					
～ 2 万円	18.2	6.5	—	1.3	16.9
2 ～ 3 万円	24.3	8.2	2.9	0.8	8.4
3 ～ 4 万円	19.3	6.5	0.4	0.4	6.4
4 ～ 5 万円	18.2	4.7	1.5	—	4.9
5 ～ 6 万円	19.4	4.0	1.3	—	4.9
6 ～ 7 万円	20.9	2.7	—	—	3.4
7 万円以上	12.2	2.6	0.5	0.5	6.9
年 令					
20代	21.6	6.6	1.4	0.4	8.9
30代	18.7	4.6	1.2	0.5	5.9
40代	18.6	5.4	0.5	0.2	5.0
50代以上	20.0	8.6	2.0	0.5	10.9
計	19.4	8.9	4.5	1.8	6.8
職 種					
生産労働者	18.7	8.2	4.7	1.7	7.8
職 員 等	20.3	9.7	4.6	1.9	5.6
世帯収入階級					
～ 2 万円	26.0	5.2	5.2	—	15.6
2 ～ 3 万円	19.5	12.6	5.9	2.7	9.2
3 ～ 4 万円	21.2	9.5	3.8	2.0	5.2
4 ～ 5 万円	19.7	8.6	4.5	1.1	5.1
5 ～ 6 万円	15.4	7.6	5.6	2.0	5.3
6 ～ 7 万円	15.5	7.4	1.4	2.7	4.7
7 万円以上	17.4	4.2	5.8	1.1	1.6
年 令					
20代	21.2	10.8	6.6	1.6	6.9
30代	19.4	8.3	3.4	2.5	5.3
40代	15.5	6.9	3.7	1.2	7.5
50代以上	22.6	8.9	3.6	1.2	9.5
妻の職業					
雇用	13.0	3.2	1.2	1.0	8.3
パート・タイム	19.1	4.4	4.4	3.0	3.0
内 職	17.8	8.9	5.7	1.5	3.2
自 営 業	10.1	8.2	—	—	8.2
な し	22.5	11.2	5.7	2.3	5.9

(2) 新聞購読率

月ぎめで新聞をとっている世帯は93.3%（前年度本調査91.2%より増加），うち1種類だけとっているもの77.0%，2種類とっているもの13.7%，3種類以上1.8%である。とっていない世帯が4.5%ある。

生産労働者世帯の購読率90.8%に対して職員等世帯は95.7%と高く，また新聞を2種以上とるものも生産労働者世帯の1割に対して職員等世帯は2割と高い。

購読率は低所得層ほど低下するが，収入3万円を下ると低下の傾向がいちじるしい。（収入3万円以上約9.5割，2～3万円約9割，2万円未満約7.5割）。高所得層ではほとんど10割の世帯がとるようになり，2種類以上とるものの割合も高い。

第23表 職種別，世帯収入階級別新聞購読状況

	総 数		と っ て い る				と っ て い ない	不 明
	実 数	%	小 計	1 種 類	2 種 類	3 種 類 以上		
計	2,792	100	93.3%	77.0%	13.7%	1.8%	4.5%	2.2%
職 生 産 勞 働 者	1,244	100	90.8	79.0	9.6	1.2	6.2	3.0
職 員 等	1,491	100	95.7	75.5	17.4	2.3	3.0	1.3
世 帯 収 入 階 級	～ 2 万 円	77	100	75.3	72.7	2.6	—	22.1
	2 ～ 3 万 円	477	100	89.7	81.6	6.3	0.8	7.8
	3 ～ 4 万 円	796	100	95.5	80.4	13.2	1.4	3.6
	4 ～ 5 万 円	534	100	96.1	77.3	16.3	1.3	2.8
	5 ～ 6 万 円	304	100	95.7	80.3	14.0	0.7	2.3
	6 ～ 7 万 円	148	100	98.0	72.3	23.0	2.7	—
	7 万 円 以上	189	100	97.9	60.8	28.6	8.5	0.5

(3) 雑誌購読率

雑誌をつづけて購入している世帯は62.2%である。とっている雑誌の種類は，婦人雑誌が最も多く31.3%，次いで子ども雑誌22.6%，週刊誌13.8%が良く読まれており，趣味の雑誌，総合誌は各々6.3%，5.0%と概して低い。

どの種類の雑誌も，職員層，高所得層ほど購読率が高いが，週刊誌，婦人雑誌は生産労働者層，低所得層でも比較的良く読まれている。子ども雑誌は3～6万円の中間所得層にかけて高まる。

雑誌をとらない世帯は，生産労働者および収入3万円を下る層で大幅に高くなっている。

第24表 職種別，世帯収入階級別雑誌購読状況

	総 数		と っ て い る							と っ て い ない	不 明
	実 数	%	小 計	週 刊	総 合	趣 味	婦 人	子 ども	そ の 他		
計	2,792	100	62.2	13.8	5.0	6.3	31.3	22.6	7.3	32.5	5.3
職 生 産 勞 働 者	1,244	100	51.0	10.2	3.1	4.4	23.3	20.7	5.6	41.6	7.4
職 員 等	1,491	100	72.0	17.0	6.6	8.0	38.4	24.1	8.6	24.6	3.4
世 帯 収 入 階 級	～ 2 万 円	77	100	41.6	9.1	1.3	3.9	16.9	14.3	45.5	12.9
	2 ～ 3 万 円	477	100	50.3	7.5	1.9	1.9	27.3	20.5	44.0	5.7
	3 ～ 4 万 円	796	100	66.8	11.7	3.6	3.9	29.9	22.1	29.1	4.1
	4 ～ 5 万 円	534	100	66.9	17.6	5.6	7.9	35.8	27.0	30.9	2.2
	5 ～ 6 万 円	304	100	66.1	17.1	8.2	9.2	33.2	25.0	28.3	5.6
	6 ～ 7 万 円	148	100	72.3	23.6	12.8	9.5	41.9	19.6	23.0	4.7
	7 万 円 以上	189	100	73.0	23.8	11.1	22.8	41.3	19.6	23.3	3.7

(4) 読書（雑誌以外）

イ 読んだ本の冊数

この一年間に雑誌以外の本を読んだことがあると答えたものは，夫79.8%，妻66.7%である。読んだ本の冊数としては1～5冊が最も多く夫40.0%，妻44.7%，次いで6～10冊 夫21.3%，妻12.9%，11冊以上夫18.5%，妻9.1%の順である。この一年間雑誌以外の本を全然読まなかったと回答したものは夫11.6%，妻23.9%である。

妻は夫にくらべて読書をしないもの，読書量の少ないものがかかなり高い。

職種別にみると，夫も妻も職員層ほど本を読むものが多く，その量も多い。本を読まないものは生産労働者世帯の妻に約3割と顕著であつた。

収入別には概して高所得層ほど読書するものが多く，読書量も多い。

年齢別にみれば，若年層ほど読書が盛んであり，20代では夫の約9割，妻の約8割が本を読むと答えているが，年齢とともに低下し，50代以上では夫は約6割，妻は約4割となる。

妻の職業別にみると，読書するものが多いのは雇用，パートタイムの妻で，無職がそれに次ぎ，内職，自営業は読書をするものの率がかなり低い。

第25表 職種別、世帯収入階級別、年令別、妻の職業別、夫と妻の読書状況

		総 数		よ ん だ				よまな かった	不 明
		実 数	%	小 計	1～5冊	6～10冊	11冊以上		
夫	計	2,792	100	79.8	40.0	21.3	18.5	11.6	8.6
	職 生 産 勞 働 者	1,244	100	69.7	41.4	17.0	11.3	17.4	12.9
	職 員 等	1,491	100	88.2	38.4	25.2	24.6	6.7	5.1
	世 帯 収 入 階 級								
	～2万円	77	100	68.8	31.2	22.0	15.6	11.7	19.5
	2～3万円	477	100	77.8	40.9	19.3	17.6	13.8	8.4
	3～4万円	796	100	80.4	44.5	20.7	15.2	11.6	8.0
	4～5万円	534	100	84.5	39.6	23.4	21.5	10.3	5.2
	5～6万円	304	100	83.9	39.8	21.4	22.7	11.2	4.9
	6～7万円	148	100	81.8	30.4	23.0	28.4	10.8	7.4
	7万円以上	189	100	84.1	35.5	29.6	19.0	9.0	6.9
	年 令								
	20代	485	100	87.6	43.9	22.5	21.2	8.7	3.7
	30代	1,236	100	84.1	40.8	21.8	21.5	9.3	6.6
	40代	630	100	78.1	41.4	21.3	15.4	11.9	10.0
	50代以上	409	100	60.9	31.0	19.6	10.3	21.5	17.6
妻	計	2,792	100	66.7	44.7	12.9	9.1	23.9	9.4
	職 生 産 勞 働 者	1,244	100	59.2	40.2	12.0	7.0	28.9	11.9
	職 員 等	1,491	100	73.4	48.6	13.9	10.9	19.5	7.1
	世 帯 収 入 階 級								
	～2万円	77	100	71.4	45.4	16.9	9.1	19.5	9.1
	2～3万円	477	100	65.8	44.8	13.2	7.8	23.3	10.9
	3～4万円	796	100	64.6	44.7	11.7	8.2	28.0	7.4
	4～5万円	534	100	68.0	45.9	12.9	9.2	25.8	6.2
	5～6万円	304	100	69.7	48.0	11.5	10.2	22.0	10.3
	6～7万円	148	100	71.6	48.0	12.8	10.8	21.6	6.8
	7万円以上	189	100	73.0	42.4	19.0	11.6	18.5	8.5
	年 令								
	20代	952	100	77.0	53.3	14.8	8.9	17.9	5.1
	30代	1,060	100	66.8	44.5	13.0	9.3	25.6	7.6
	40代	593	100	57.2	36.0	11.8	9.4	27.6	15.3
	50代以上	168	100	41.1	29.8	4.8	6.5	36.9	22.0
	妻の職業								
	雇 用	507	100	70.8	46.3	15.2	9.3	20.1	9.1
	パート・タイム	68	100	73.5	33.8	11.8	27.9	19.1	7.4
	内 職	315	100	58.1	39.4	11.4	6.3	32.7	9.2
	自 営 業	158	100	58.2	39.9	6.3	12.0	29.1	12.7
	な し	1,556	100	68.8	47.5	12.9	8.4	23.5	7.7

ロ 読んだ本の種類

夫と妻の読書傾向をしるため、この一年間に読んだ本の種類を調べてみると、夫の場合調査対象者の約5割が自分の職業関係の本を読んでおり、ついで小説・詩・随筆等（約4割）、自分の趣味についての本（約3割）、歴史・社会（約1.5割）の順で多く、自然科学や家事・育児の本はそれぞれ5～6%と概して少ない。妻の場合もつとも多いのは家事・育児の本で対象者の約4割にのぼり、ついで小説・詩・随筆等（約3割）、自分の趣味についての本（約2.5割）が多く、自分の職業関係の本や歴史・社会はそれぞれ5～3%と少なく、自然科学をあげるものは1%でいと更に少ない。

夫と妻の読書順位をくらべると、夫の職業関係と妻の家事・育児が各々高い位置を占める他はほぼ同じような傾向を示しており、小説類や趣味の本は概して高く、社会科学、自然科学は低いが、とくに妻のこれらの分野の読書は低率である。

職業別にみると、夫の場合は職員層がほとんど全般的に高率をしめしているが、とくに職業関係で大幅に上廻っている。生産労働者層は小説類、趣味の本を好む傾向がみえ、家事・育児では若干職員層を上まわっている。妻の場合は、ほとんどの種類について職員層の方の読書率が高いが、中でも小説類、趣味の本を好んで読む傾向が強い。

収入別にみると、夫妻ともどの種類も高所得層ほど読書をするものが多いが、とくに職業関係や社会科学・自然科学の種類は所得別の差が大きい。小説類や趣味の本は低所得層でも比較的良く読まれている。家事・育児は概して低所得層のほうが（とくに収入3万円未満層の妻で顕著）高いのが特徴的である。

年令によつて読書傾向は若干変化しており、若年層では小説類、家事・育児、趣味の本がよく好まれるのに対し、年令が高まるにつれてこれらの種類は徐々に低下して、社会科学・自然科学が少しずつ高まる。また職業関係の読書は30代がもつとも高くなっている。

妻の職業別に読書傾向をうかがえば、無職及び内職は家事・育児関係の割合が高く、雇用は小説類、職業関係が高い。自営業の妻は小説類、趣味の本の割合が低くなつて、職業関係はやや高率を示している。

第24表 職種別、世帯収入階級別、年令別、妻の職業別、夫と妻の読んだ本の種類

		総 数		本を読んだ人	読 ん だ		
		実 数	%		小説詩等	歴史・社会	自然科学
夫	計	2,792	100	79.8	39.3	12.2	5.8
	職 種						
	生産労働者	1,244	100	69.7	35.0	9.1	5.4
	職 員 等	1,491	100	88.2	42.7	14.8	7.2
	世 帯 収 入 階 級						
	～ 2 万円	77	100	68.8	39.0	2.6	2.6
	2 ～ 3 万円	477	100	77.8	38.2	9.4	4.0
	3 ～ 4 万円	796	100	80.4	40.3	12.1	4.0
	4 ～ 5 万円	534	100	84.5	44.4	13.9	6.7
	5 ～ 6 万円	304	100	83.9	42.1	14.8	7.2
	6 ～ 7 万円	148	100	81.8	35.1	16.2	10.8
	7 万円以上	189	100	84.1	37.0	19.6	10.0
	年 令						
	2 0 代	485	100	87.6	48.5	8.0	5.6
	3 0 代	1,236	100	84.1	43.0	12.8	5.7
	4 0 代	630	100	78.1	36.0	13.6	6.3
	5 0 代以上	409	100	60.9	22.2	13.7	3.4
妻	計	2,792	100	66.7	32.4	3.0	1.1
	職 種						
	生産労働者	1,244	100	59.2	25.7	2.5	0.8
	職 員 等	1,491	100	73.4	38.2	3.4	1.3
	世 帯 収 入 階 級						
	～ 2 万円	77	100	71.4	27.3	1.3	—
	2 ～ 3 万円	477	100	65.8	30.2	2.5	0.4
	3 ～ 4 万円	796	100	64.6	31.2	2.9	0.5
	4 ～ 5 万円	534	100	68.0	34.3	2.8	1.7
	5 ～ 6 万円	304	100	69.7	35.5	3.6	0.7
	6 ～ 7 万円	148	100	71.6	41.2	4.1	—
	7 万円以上	189	100	73.0	36.0	4.8	2.6
	年 令						
	2 0 代	952	100	77.0	38.2	2.3	0.5
	3 0 代	1,060	100	66.8	31.8	3.3	1.7
	4 0 代	593	100	57.2	28.5	4.2	1.5
	5 0 代以上	168	100	41.1	17.3	1.2	—
	妻の職業						
	雇 用	507	100	70.8	37.3	3.4	1.6
	パート・タイム	68	100	73.5	35.3	2.9	—
	内 職	315	100	58.1	24.4	2.5	1.0
	自 営 業	158	100	58.2	24.1	2.5	1.3
	な し	1,556	100	68.8	33.9	2.8	1.2

		本 の 種 類			
		家事・育児	自分の趣味の本	自分の職業関係の本	そ の 他
夫	計	4.7	37.1	48.5	8.3
	職 種				
	生産労働者	6.0	37.6	33.9	8.9
	職 員 等	3.6	36.3	60.8	8.0
	世 帯 収 入 階 級				
	～ 2 万円	10.4	26.0	33.8	10.4
	2 ～ 3 万円	7.3	26.6	41.5	7.8
	3 ～ 4 万円	4.8	30.0	46.7	8.7
	4 ～ 5 万円	2.8	28.8	53.2	8.4
	5 ～ 6 万円	3.6	32.9	53.9	10.5
	6 ～ 7 万円	2.7	31.1	60.1	5.4
	7 万円以上	1.6	37.0	67.2	5.2
	年 令				
	2 0 代	7.8	31.3	48.8	10.7
	3 0 代	5.3	31.6	53.4	8.4
	4 0 代	2.5	29.2	48.8	7.1
	5 0 代以上	2.7	23.0	34.2	7.3
妻	計	39.3	24.8	4.9	6.4
	職 種				
	生産労働者	35.3	18.7	4.7	6.5
	職 員 等	43.1	29.9	5.1	6.3
	世 帯 収 入 階 級				
	～ 2 万円	51.9	23.4	3.9	7.8
	2 ～ 3 万円	64.6	19.7	2.5	7.3
	3 ～ 4 万円	39.9	21.6	3.9	6.4
	4 ～ 5 万円	41.4	26.8	5.8	5.6
	5 ～ 6 万円	34.5	28.0	6.2	8.6
	6 ～ 7 万円	33.8	41.9	6.8	6.8
	7 万円以上	34.9	32.3	10.1	5.8
	年 令				
	2 0 万	55.9	26.5	4.7	5.1
	3 0 万	40.0	25.3	5.3	6.5
	4 0 万	19.1	24.1	5.1	7.8
	5 0 万以上	11.9	14.9	4.2	7.7
	妻の職業				
	雇 用	30.8	25.0	15.2	6.5
	パート・タイム	32.4	29.4	5.9	11.8
	内 職	35.6	23.8	6.3	3.8
	自 営 業	25.9	17.1	11.4	5.7
	な し	45.0	26.2	0.6	6.8

注) 読んだ本の種数は多答式である。

ハ 読んだ本の入手方法

読んだ本の入手方法としては、夫、妻とも対象者中（過去1年間に本を読んだことのあるもの）買って読んだことのあるもの7～8割、借りて読んだことのあるもの約5割である。借りてよんだものの借り先うちわけをみると夫の場合は職場からが最も多く約3割、友人などからが約1.5割、その他貸本屋や図書館から借りたものが合計1割程度である。妻の場合は当然のことながら職場から借りたがずっと少なくなつて、友人などから借りたが夫に比べて2.5割と大きな割合を占め、貸本屋や図書館などの利用は計約1割と夫と同程度を示す。もらつて読んだのは夫も妻も1割弱である。

職種別にみると夫も妻も職員層ほど買ったものの割合が高く、生産労働者層ほど借りたものの割合が高まる。借り先うちわけとしては、職場から借りたものは職員層（とくに夫）が多く、友人などから借りたものや貸本屋の利用はむしろ生産労働者層に多い。もらつて読んだものの割合はわずかながら生産労働者層が高い。

収入別には高所得層ほど買って読むものの割合が高く、借りてよんだものの割合は低所得層ほど、中でも友人や貸本屋から借りるものが著増する。夫の職場から借りたのは高所得層ほど高く、図書館の利用は数が少ないが、概して夫は低所得層、妻は高所得層で高まつている。

ニ 職業関係書籍の職場の備付けの有無

職業関係の本が職場に備えつけられていると答えた夫は全体の53.0%で職員層、大規模事業場ほど多い。備えつけはないと答えたのは24.0%で生産労働者、小規模事業場ほど多く、どうなつているか知らないものが9.3%で生産労働者に多くなつている。

備えつけのあるもののうち、大部分は借りだせると答え（36.8%）、家へもちかえれないと答えたものは少ない（2.7%）。備付けはあつても自分の必要なものは少ないと答えたものが1/3ほどみられ（13.5%）、職員層、大規模事業所ほど多い。

第27表 職種別、世帯収入階級別、夫と妻の読んだ本の入手方法

		この一年間に本を読んだ人総数		買	た	小	計
		実	数				
夫	計		2,228	100	76.0		51.5
	職 生 産 勞 働 者		867	100	67.5		57.7
	種 職 員 等		1,315	100	81.9		47.3
	世帯収入階級	～ 2 万円	53	100	69.8		52.8
		2 ～ 3 万円	371	100	66.0		57.7
		3 ～ 4 万円	640	100	74.1		48.4
		4 ～ 5 万円	451	100	82.7		51.9
		5 ～ 6 万円	255	100	81.6		50.6
		6 ～ 7 万円	121	100	86.0		55.4
		7 万円以上	159	100	81.8		50.9
		計	1,861	100	70.8		45.0
	妻	職 生 産 勞 働 者		737	100	56.9	
種 職 員 等			1,094	100	80.3		41.7
世帯収入階級		～ 2 万円	55	100	74.5		52.7
		2 ～ 3 万円	314	100	71.0		48.1
		3 ～ 4 万円	514	100	53.7		42.0
		4 ～ 5 万円	363	100	76.3		41.0
		5 ～ 6 万円	212	100	80.7		45.8
		6 ～ 7 万円	106	100	90.6		38.7
		7 万円以上	138	100	87.7		41.3

		借					もらった
		図 書 館 で	貸 本 屋 で	友 人 など から	戦 場 から	そ の 他	
計		3.7	4.7	16.5	22.1	3.4	7.5
職 種	生 産 勞 働 者	4.3	7.7	21.2	25.0	3.8	8.8
	職 員 等	3.3	2.6	12.9	29.6	3.0	6.8
世帯収入階級	～ 2 万 円	11.3	7.5	30.2	13.2	3.8	9.4
	2 ～ 3 万 円	6.2	8.1	20.5	28.8	3.0	7.5
	3 ～ 4 万 円	2.5	3.4	19.5	23.6	2.5	6.9
	4 ～ 5 万 円	3.8	4.4	13.1	29.5	3.3	7.5
	5 ～ 6 万 円	3.9	4.7	12.9	31.4	2.4	11.8
	6 ～ 7 万 円	4.1	—	16.5	34.7	5.8	5.8
	7 万 円 以 上	3.1	4.4	13.8	35.2	3.1	5.0
計		4.1	4.2	25.6	6.1	5.4	6.9
職 種	生 産 勞 働 者	4.6	5.8	27.7	4.6	5.3	8.4
	職 員 等	3.7	3.3	24.1	6.7	5.7	6.1
世帯収入階級	～ 2 万 円	1.8	9.1	38.2	1.8	3.6	12.7
	2 ～ 3 万 円	2.2	6.4	30.9	2.9	5.4	8.3
	3 ～ 4 万 円	3.7	4.9	26.8	6.8	5.8	8.0
	4 ～ 5 万 円	5.2	2.5	26.2	8.0	3.3	6.9
	5 ～ 6 万 円	3.3	4.2	22.6	9.9	5.2	4.2
	6 ～ 7 万 円	6.6	1.9	21.7	7.5	1.9	2.8
	7 万 円 以 上	6.5	0.7	15.2	6.5	13.0	4.3

注）入手方法は多答式である。

第28表 職種別、規模別、職業関係の本の職場に備えつけの有無(夫)

		総 数		職場に備えつけのものがある			
		実 数	%	小 計	借り出せる	自分の必要な ものが少ない	家へもち帰れない
計		2,792	100	53.0	36.8	13.5	2.7
職 種	生産労働者	1,244	100	38.8	27.3	9.2	2.3
	職 員 等	1,491	100	64.9	44.9	16.9	3.1
規 模	30～99人	936	100	45.9	31.7	12.2	2.0
	100～499人	969	100	51.0	35.7	12.8	2.5
	500人以上	887	100	62.6	43.3	15.8	3.5

		備えつけはない	どうなっている か知らない	不 明
計		% 24.7	% 9.3	% 13.3
職 種	生 産 勞 働 者	28.4	14.4	18.4
	職 員 等	21.9	5.2	8.6
規 模	30～ 99人	31.5	7.6	15.2
	100～499人	24.3	10.8	14.2
	5 0 0人以上	18.0	9.6	10.4

(5) 旅 行

先に調べた余暇活動のうち、もつとしたいこととして旅行をあげるものがもつとも多かつたが、つぎに泊りがけ旅行の実態をしるため、夫と妻のこの1年間に旅行に行った回数、一緒にいつた人、一番長いときの泊数を調べてみると次表のとおりである。

この一年間に泊りがけで遊びや旅行(但し仕事での出張は除く)にでかけたことのある夫は69.8%、妻は49.9%である。夫は妻より、職員層、高所得層は生産労働者、低所得層より、年令別には夫は若年層ほど、妻は20代と50代以上の年令層で旅行にいつたものが多い。

第29表 職種別、世帯収入階級別、年令別、夫と妻の泊りがけ旅行の有無、回数、一緒に行った人及び泊数

		総 数		あ る	回 数							
		実 数	%		1 回	2 回	3 回	4 回	5 回	6 回以上	不 明	
夫	計	2,792	100	69.8	28.4	21.5	8.4	2.9	2.0	2.1	4.5	
	職 種											
	生産労働者	1,244	100	65.0	31.8	17.9	5.6	2.1	1.1	1.4	5.1	
	職 員 等	1,491	100	74.4	25.7	24.7	10.9	3.7	2.7	2.7	4.0	
	世帯収入階級											
	～ 2万円	77	100	55.8	22.0	19.5	3.9	—	5.2	2.6	2.6	
	2～3万円	477	100	64.4	31.9	18.7	5.7	2.3	1.0	0.6	4.2	
	3～4万円	796	100	68.9	31.8	20.4	7.7	2.9	1.1	1.4	3.6	
	4～5万円	534	100	73.9	26.7	24.0	8.8	2.8	2.6	3.9	5.1	
	5～6万円	304	100	76.6	29.5	25.7	11.2	3.3	2.0	1.3	3.6	
	6～7万円	148	100	69.6	23.6	23.0	8.8	4.1	3.4	2.0	4.7	
	7万円以上	189	100	81.5	21.2	23.8	18.5	4.2	4.8	5.3	3.7	
	年 令											
	20代	485	100	75.3	28.1	22.5	11.1	3.9	1.6	4.4	3.7	
	30代	1,236	100	70.2	28.2	22.2	8.2	3.2	2.4	2.3	3.7	
	40代	630	100	66.2	28.4	17.9	8.1	1.9	2.0	1.3	6.5	
50代以上	409	100	67.5	29.1	23.5	6.6	2.4	1.2	0.5	4.2		
妻	計	2,792	100	49.9	22.9	11.9	5.2	1.7	1.0	0.9	6.3	
	職 種											
	生産労働者	1,244	100	44.6	21.8	9.8	3.4	1.0	0.8	0.7	7.1	
	職 員 等	1,491	100	54.7	24.1	14.0	6.6	2.2	1.1	1.0	5.7	
	世帯収入階級											
	～ 2万円	77	100	39.0	14.2	9.1	3.9	1.3	1.3	1.3	7.8	
	2～3万円	477	100	41.5	20.1	8.4	4.0	1.3	0.8	0.6	6.3	
	3～4万円	796	100	47.3	23.2	10.7	4.1	1.9	0.8	0.9	5.7	
	4～5万円	534	100	59.4	22.3	18.0	7.7	1.3	1.5	0.9	7.7	
	5～6万円	304	100	54.9	29.9	11.9	4.6	1.6	1.0	1.0	4.9	
	6～7万円	148	100	60.1	31.0	12.2	8.1	2.0	1.4	—	5.4	
	7万円以上	189	100	64.0	29.1	17.5	7.4	4.2	1.6	1.6	2.6	
	年 令											
	20代	952	100	53.3	24.5	12.6	6.1	1.9	1.7	1.3	5.2	
	30代	1,060	100	48.5	21.2	12.5	4.2	1.9	0.8	0.9	7.0	
	40代	593	100	46.5	25.2	11.0	4.3	1.0	0.2	0.2	6.6	
50代以上	168	100	51.1	23.8	8.9	7.7	1.8	1.2	0.6	7.1		

		一緒に行った人					一番長いとき			
		一人で	団体で	家族と	自分の友人と	不明	1泊	2泊	3泊	4泊
計		%	%	%	%	%	%	%	%	%
職	生産労働者	4.0	23.3	41.2	8.8	1.2	22.4	16.2	6.8	2.4
	職 員 等	3.5	37.2	46.0	15.1	1.7	29.5	17.9	9.8	3.8
世帯収入階級	～ 2万円	6.5	19.5	38.9	3.9	1.3	23.4	14.3	5.2	1.3
	2～3万円	3.4	24.5	41.1	10.3	0.6	21.6	15.5	6.5	2.9
	3～4万円	4.3	30.3	44.2	10.9	1.0	26.8	14.7	9.5	3.3
	4～5万円	4.1	32.2	48.7	14.2	1.3	26.8	19.7	8.2	3.4
	5～6万円	3.0	38.5	39.8	14.5	2.3	30.9	23.0	5.9	3.9
	6～7万円	2.7	41.9	31.8	9.5	2.0	20.9	19.6	11.5	2.0
	7万円以上	4.2	40.2	54.0	21.7	2.6	31.3	22.2	11.1	3.7
年令	20代	3.9	37.9	38.8	17.3	2.5	20.4	17.6	13.6	5.3
	30代	4.0	34.7	45.0	11.7	1.1	27.7	17.0	8.1	3.3
	40代	2.7	25.7	43.8	10.6	1.4	25.7	17.1	4.8	1.7
	50代以上	4.6	18.1	46.0	9.0	1.2	29.3	16.4	8.5	2.0
計		3.9	20.3	29.7	4.4	0.7	12.8	10.8	7.1	2.8
職	生産労働者	6.1	21.5	22.3	3.0	0.6	12.6	7.6	6.0	1.5
	職 員 等	2.2	19.2	36.2	5.8	0.7	13.0	13.5	8.2	3.9
世帯収入階級	～ 2万円	2.6	10.4	27.3	2.6	—	6.5	11.7	6.5	1.3
	2～3万円	3.4	19.5	19.7	3.1	0.8	9.0	9.6	4.4	2.1
	3～4万円	2.4	16.0	32.8	3.5	0.1	12.5	8.5	8.3	—
	4～5万円	1.7	32.4	29.2	5.8	0.9	15.2	12.9	8.4	4.1
	5～6万円	16.1	16.8	36.5	7.2	1.3	20.4	12.2	5.9	4.9
	6～7万円	2.7	22.3	37.8	7.4	—	11.5	15.5	5.4	2.7
	7万円以上	4.8	21.7	43.9	4.8	1.6	14.8	18.5	10.1	1.1
年令	20代	2.4	18.2	36.7	2.2	0.3	11.1	11.8	9.3	4.4
	30代	4.2	19.7	30.1	5.2	0.4	12.6	10.6	6.0	2.1
	40代	4.6	22.9	20.7	6.1	1.7	15.7	9.3	5.9	2.0
	50代以上	7.1	26.8	20.2	6.0	0.6	13.0	12.5	6.0	0.6

		一番長いとき				な い	不 明
		5泊	6泊	7泊以上	不明		
計		%	%	%	%	%	%
職	生産労働者	1.4	1.7	1.2	12.6	30.0	5.0
	職 員 等	1.9	2.0	1.0	8.5	22.9	2.7
世帯収入階級	～ 2万円	—	—	—	11.7	32.5	11.7
	2～3万円	1.7	1.7	2.1	12.4	32.5	3.1
	3～4万円	1.4	2.3	1.0	9.9	27.6	3.5
	4～5万円	2.2	2.2	1.7	9.7	24.0	2.1
	5～6万円	3.3	1.0	1.0	7.6	20.1	3.3
	6～7万円	0.7	3.4	—	11.5	24.3	6.1
	7万円以上	2.1	0.5	—	10.6	18.0	0.5
年令	20代	3.3	3.7	1.9	9.5	23.5	1.2
	30代	1.5	1.5	1.4	9.7	26.0	3.8
	40代	1.1	1.3	0.6	13.8	30.1	3.7
	50代以上	1.5	1.5	—	8.3	24.9	7.6
計		2.0	2.6	3.0	8.8	45.2	4.9
職	生産労働者	1.8	2.1	2.5	10.5	48.7	6.7
	職 員 等	2.2	3.2	3.4	7.3	42.1	3.2
世帯収入階級	～ 2万円	—	—	1.3	11.7	54.5	6.5
	2～3万円	2.7	1.3	3.8	8.0	53.9	4.6
	3～4万円	1.8	3.2	2.6	7.8	49.7	3.0
	4～5万円	2.3	2.4	5.1	9.0	38.4	2.2
	5～6万円	1.6	3.0	1.6	5.3	42.8	2.3
	6～7万円	—	8.1	2.0	14.9	36.5	3.4
	7万円以上	5.3	2.5	1.1	10.6	34.9	1.1
年令	20代	1.9	3.2	3.8	7.8	43.7	3.0
	30代	2.3	2.6	3.6	8.7	47.0	4.5
	40代	1.9	1.2	0.8	9.7	46.4	7.1
	50代以上	1.7	4.2	1.2	11.9	39.3	9.6

注) 「一緒に行った人」については多答式である。

旅行に行った回数は年に一回というものが最も多く夫の約3割、妻の約2割が含まれ、次いで2回が夫の約2割、妻の約1割、3回が夫の約1割、妻の約0.5割で、旅行に行ったものの大部分が1～3回の間に含れ、4回以上はきわめて少い。

年1回というものは生産労働者、低所得層、高年令層に多く、2回以上回数が増す毎に職員層、高所得層、若年層が多くなっている。

旅行の形態をみると、旅行は家族と一緒にいったというものが最も多く夫の43.8%、妻の29.7%、ついで団体でいったもの（家族や友人と団体旅行に参加した場合をふくむ）が夫30.6%、妻20.3%、自分の友人といったものが夫12.1%、妻4.4%の順で多く、一人でいったのは夫、妻の各々4%程度である。

夫と妻の旅行形態を比較すると、かなり特徴的な差違がみとめられる。妻の場合家族旅行は職員層、若年層ほど多いのに対し、夫の場合は職種別には妻と同様にやや職員層が、年令別には妻とは逆に高年令層ほど高い。20代では夫と妻の家族旅行の頻度がほぼあっているが、年令が高まるにつれて差が大きく開き、又職種別には生産労働者世帯の方の夫と妻の差が大きいことから、高年層、生産労働者世帯では妻の参加しない家族旅行が多いことが推測される。又、団体旅行は妻は生産労働者層、高年令層ほど、夫は職員層、若年層ほど高まり、友人との旅行は夫が妻を大きく上まわっているが、それぞれ妻は高年令層ほど、夫は若年層ほど多く、職種別には夫も妻も職員層が高い。収入別に夫と妻の旅行形態をみると、夫、妻とも世帯収入が増えるにつれて家族旅行や団体旅行が増加するが、とくに家族旅行は妻に、団体旅行は夫に増加傾向が明瞭である。

旅行の期間は一番長くて1泊というものが最も多く夫26.1%、妻12.8%が含まれ、ついで2泊が夫17.0%、妻10.8%、3泊夫8.4%、妻6.0%で、3泊以内のものがほとんど大部分であり、4泊以上と泊数が長くなるにつれて分布は著しく減少する。概して生産労働者、高年令層ほど期間は短くなるが、妻は40代で最も期間が短くなっており、50代以上になるとやや伸びる傾向がみられる。又5泊以上の長期逗留が妻の方でわずかながら上まわっている。

(6) 団体活動

1 団体加入状況

何らかの会や団体に加入しているのは夫の71.9%、妻64.6%である。加入している会や団体の種類としては、夫は労働組合45.6%、町内会・自治会32.6%というものが多く、ついでPTA16.6%、趣味や勉強の会10.4%、その他9.7%の順となっており、妻は婦人団体29.3%、町内会・自治会29.6%、PTA25.4%が加入率の高いものとしてあげ

られ、ついで趣味や勉強の会7.5%、労働組合5.4%、労組家族会2.8%、会社家族会2.2%の順となっており、その他が4.2%ある。夫と妻の各種団体の種類別加入率をくらべると、夫の方で加入率の高いのは労働組合、町内会・自治会、趣味や勉強の会であり、妻の方で高いのは婦人団体、PTAである。

職種別にみると夫、妻とも生産労働者層の団体加入率が高く、とくに夫の労働組合（約5割）、妻の婦人団体（約3.5割）は職員層を大幅に上まわっているが、趣味や勉強の会では職員層の方が上まわる。妻の労組や会社の家族会への加入率は、どちらも2～3%とわずかであつたが、労組家族会は生産労働者層、会社家族会は職員層でいくぶん高まっている。

年令別にみると、夫も妻も40代の加入率が最も高いが、団体の種類によつてかなり相違がみられる。町内会・自治会、妻の婦人団体は高年層ほど高く、労働組合は夫の30代、妻の20代で最も高く、PTAは夫の40代、妻の30～40代で大幅に他の年令層を上まわっており、趣味や勉強の会は夫は若年層ほど、妻は30代、40代でいくぶん高くなっている。

収入別にみると、加入率そのものは妻は高所得層ほど、夫は低所得層ほど高い。各種別加入率をみると、妻は会社や労組の家族会が低所得層でいくらか高まっている他は、おおむね高所得層ほど加入率が高いが、中でも町内会・自治会、PTAの伸び率は大きく、趣味や勉強の会は収入4万円以上になると高まる傾向をみせる。婦人団体はどの収入階層も3割程度みられる。一方夫の方の種類別加入率は労働組合は収入2～4万円、町内会・自治会やPTAは収入3～4万円の階層を中心にして、それぞれ低所得層ほど加入率が高まっているが、趣味や勉強の会への加入は収入3万円以上所得の高い層で高まる。

妻の職業別にみると全体に加入率の高いのは自営業、次いで内職、パートタイムであり、無職と雇用はやや低くなっている。団体の種類別にいえば、婦人団体やPTAへの加入率の高いのは自営業、ついで内職、パートタイムであり、雇用の場合はこれらの団体への加入率は目立って低い、労組に高率を示めている。町内会・自治会および労組の家族会は内職やパートタイムで高い。趣味や勉強の会はパートタイムが他よりかなり高率となっており、雇用がこれに次いで幾分高くなっている。無職の妻はどの種類も中位の加入率であつた。

第30表 職種別、規模別、年齢別、世帯収入階級別、夫の団体加入状況

		総 数		入 っ て い る		
		実 数	%	小 計	町内会・自治会	労働組合
計		2,792	100	71.9	32.6	45.6
職 種	生産労働者	1,244	100	77.3	35.7	52.3
	職 員 等	1,491	100	67.5	30.1	40.3
規 模	30～99人	936	100	60.4	29.2	30.0
	100～499人	969	100	69.5	32.0	42.2
	500人以上	887	100	86.7	36.8	65.7
年 令	20代	485	100	69.7	18.6	45.6
	30代	1,236	100	70.4	32.1	49.4
	40代	630	100	76.7	38.7	45.7
	50代以上	409	100	72.1	41.3	34.2
世帯収入階級	～2万円	77	100	76.6	29.9	48.1
	2～3万円	477	100	79.2	31.7	57.2
	3～4万円	796	100	76.0	37.1	52.3
	4～5万円	534	100	68.4	32.6	42.3
	5～6万円	304	100	68.1	31.6	37.8
	6～7万円	148	100	64.2	27.7	31.8
	7万円以上	189	100	72.5	34.4	41.8

		入 っ て い る			入っていない	不 明
		P.T.A	趣味や勉強の会	そ の 他		
計		16.6	10.4	9.7	24.1	4.0
職 種	生産労働者	17.1	6.8	8.9	17.5	5.2
	職 員 等	16.0	13.5	10.4	30.0	2.5
規 模	30～99人	14.7	9.1	11.4	34.0	5.6
	100～499人	13.4	9.3	7.2	25.7	4.8
	500人以上	22.0	13.0	10.5	12.0	1.3
年 令	20代	0.8	13.2	9.1	28.5	1.8
	30代	16.9	11.5	9.2	25.8	3.8
	40代	27.8	9.2	8.9	19.5	3.8
	50代以上	16.9	6.1	13.0	21.0	6.9
世帯収入階級	～2万円	19.5	7.8	7.8	14.3	9.1
	2～3万円	10.5	5.9	6.7	16.6	4.2
	3～4万円	21.6	13.2	10.4	21.2	2.8
	4～5万円	17.6	11.2	9.2	29.0	2.6
	5～6万円	16.8	8.2	12.2	27.6	4.3
	6～7万円	14.2	10.1	9.5	30.4	5.4
	7万円以上	16.4	15.9	12.7	24.9	2.6

注) 加入している団体の種類は多答式である。

第31表 職種別、事業所規模別、年齢別、世帯収入階級別、妻の団体加入状況

		総 数		入 っ て い る				
		実 数	%	小 計	婦人団体	町内会・自治会	P.T.A	趣味や勉強の会
計		2,792	100	64.6	29.3	29.0	25.4	7.5
職 種	生産労働者	1,244	100	67.0	34.7	29.3	26.0	5.1
	職 員 等	1,491	100	62.9	24.8	28.9	25.2	9.5
規 模	30～99人	936	100	60.4	29.0	24.0	21.6	7.3
	100～499人	969	100	61.2	28.0	27.8	24.7	5.6
	500人以上	887	100	72.8	31.2	35.6	30.3	9.8
年 令	20代	952	100	47.6	15.1	23.3	4.0	5.7
	30代	1,060	100	73.2	32.5	30.6	38.4	8.8
	40代	593	100	77.1	43.8	33.7	39.3	8.3
	50代以上	168	100	66.7	39.9	36.9	16.7	7.7
世帯収入階級	～2万円	77	100	58.4	35.1	23.4	15.6	1.3
	2～3万円	477	100	59.7	28.7	25.8	15.9	3.4
	3～4万円	796	100	63.2	29.3	28.9	27.1	4.4
	4～5万円	534	100	69.1	27.5	30.1	27.0	11.4
	5～6万円	304	100	71.1	31.6	31.9	30.3	11.2
	6～7万円	148	100	68.2	35.1	34.5	32.4	10.1
	7万円以上	189	100	82.0	37.0	42.3	36.0	17.5
妻の職業	雇 用	507	100	65.3	20.1	26.2	15.8	8.9
	パート・タイム	68	100	70.6	50.0	41.2	33.8	19.1
	内 職	315	100	71.7	35.2	32.1	35.6	7.9
	自 営 業	158	100	81.0	68.3	25.9	43.7	5.7
	な し	1,556	100	62.3	27.5	29.5	24.8	6.8

		入 っ て い る				入っていない	不 明
		労働組合	会社家族会	労組家族会	その他		
計		%	%	%	%	%	%
		5.4	2.2	2.8	4.2	30.9	4.5
職 種	生産労働者	5.6	1.4	4.9	4.5	27.7	5.3
	職員等	5.2	2.9	1.1	4.0	33.4	3.7
規 模	30～99人	3.0	2.5	0.2	4.4	33.2	6.4
	100～499人	3.9	2.0	2.1	3.7	34.8	4.0
	500人以上	9.6	2.1	6.3	4.6	24.4	2.8
年 令	20代	7.6	2.1	1.1	3.2	49.2	3.2
	30代	3.8	2.3	3.3	4.8	23.0	3.8
	40代	6.1	2.4	4.9	5.1	17.2	5.7
	50代以上	1.8	1.8	2.4	4.2	25.6	7.7
世 帯 収 入 階 級	～2万円	1.3	3.9	2.6	2.6	33.3	7.8
	2～3万円	3.6	2.9	4.4	3.1	35.9	4.4
	3～4万円	3.8	3.0	4.4	4.4	34.7	2.1
	4～5万円	9.9	1.3	2.1	4.5	29.4	1.5
	5～6万円	7.6	1.3	1.0	5.3	26.6	2.3
	6～7万円	8.1	2.0	2.0	4.1	29.7	2.1
	7万円以上	5.8	2.6	—	5.8	18.0	—
妻 の 職 業	雇 用	27.6	2.4	2.0	4.1	30.6	4.1
	パート・タイム	1.5	1.5	4.4	5.9	19.1	10.3
	内 職	0.3	2.2	5.4	5.1	23.5	4.8
	自 営 業	—	2.5	0.6	2.5	15.8	3.2
	な し	0.3	2.2	2.8	4.4	34.8	2.9

注) 加入している団体の種類は多答式である。

ロ 団体活動に使う時間

団体加入者中、団体の集りに出たり、仕事をするために何がしかの時間を使っているものは夫42.2%、妻51.4%である。

団体活動に使う時間としては1ヶ月1～5時間の範囲のものが夫17.3%、妻22.6%で最も多いが、次いで5～10時間夫9.2%、妻11.8%、10～15時間夫、妻とも6.7%の順で多く10時間以上が夫6.6%、妻6.8%あり、何がしか時間を使うものの過半数が5時間以上の範囲に分布している。1時間未満は夫2.4%、妻0.7%と少ない。

団体に加入しているが、月に何時間というほど使わないものは夫50.5%、妻の47.0%である。加入率ではやや夫に劣る妻の方が、実際活動では費やす時間の多いことがうかがわれる。

夫の職種別には職員層の時間を使うもの4.5割が生産労働者の4割をやや上回っている。

年令別にみると、夫も妻も20代で時間を使わないものが多く(夫約5.5割、妻約6.5割)、夫は40代、妻は30～40代にかけて何がしか時間を使うものが増えており、妻の40代では使う時間も5時間以上長時間に及ぶものが目立っている。

妻の団体活動時間を収入別にみれば、低所得層ほど時間を使わないものが多く、所得が高まるにつれ時間をかける率が多くなり、時間も長くなる傾向にある。又、職業別にみれば、時間を使わないものは雇用に最も多く、ついで無職、内職、パートタイムの順に、自営業は前述したように加入率も高いが、使う時間も多く、団体活動の活発なことがうかがわれる。

第32表 夫の職種別・年令別、妻の年令別・世帯収入階級別・職業別、夫と妻が団体活動に使う時間（1ヶ月あたり）

		団体加入している人の総数		団体活動のために月に何時間か使う		
		実数	%	～1時間	1～5時間	5～10時間
夫	計	2007	100	24	17.3	9.2
	職 種					
	生産労働者	962	100	2.0	16.0	8.8
	職 員 等	1007	100	2.9	18.8	9.3
	年 令					
	20代	338	100	2.7	13.3	9.3
	30代	870	100	2.0	18.4	9.1
	40代	483	100	3.5	18.2	10.1
	50代以上	295	100	1.4	18.0	6.8
	計	1804	100	0.7	22.6	11.8
妻	年 令					
	20代	453	100	0.9	17.4	6.4
	30代	776	100	0.4	25.3	15.1
	40代	457	100	1.1	22.8	10.7
	50代以上	112	100	—	25.0	15.2
	世帯収入階級					
	～2万円	45	100	—	17.9	8.9
	2～3万円	285	100	—	19.6	7.0
	3～4万円	503	100	—	25.0	12.7
	4～5万円	369	100	0.3	22.0	11.7
	5～6万円	216	100	3.2	23.2	17.6
	6～7万円	101	100	4.0	20.8	11.9
	7万円以上	155	100	—	25.8	11.6
	職 業					
	雇 用	331	100	—	20.2	7.6
	パート・タイム	48	100	2.1	27.1	10.4
	内 職	226	100	0.4	22.6	13.3
	自 営 業	128	100	—	30.5	15.6
	な し	970	100	1.0	22.2	12.6

		団体活動のために月に何時間か使う			月に何時間と いうほど使わ ない	不 明
		10～15時間	15～20時間	20時間以上		
夫	計	6.7	1.8	4.8	50.5	7.3
	職 種					
	生産労働者	7.1	2.0	4.1	51.9	8.1
	職 員 等	6.3	1.6	5.8	49.4	5.9
	年 令					
	20代	8.3	1.5	5.0	54.1	5.6
	30代	6.6	1.7	5.3	50.6	6.3
	40代	6.2	1.9	3.4	48.0	8.7
	50代以上	6.1	2.0	6.4	50.8	8.5
	計	6.7	2.1	4.7	47.0	4.4
妻	年 令					
	20代	3.5	1.1	2.0	63.4	5.3
	30代	7.5	2.2	5.2	40.2	4.1
	40代	9.1	3.1	6.6	42.0	4.6
	50代以上	4.5	0.9	4.5	45.5	4.4
	世帯収入階級					
	～2万円	2.2	—	4.4	62.2	4.4
	2～3万円	4.9	2.5	3.9	53.3	8.8
	3～4万円	5.8	1.2	3.4	47.9	4.0
	4～5万円	7.6	0.8	4.6	47.4	5.6
	5～6万円	7.4	4.2	4.6	58.6	0.9
	6～7万円	12.9	3.0	7.9	58.6	0.9
	7万円以上	9.7	4.5	9.0	33.5	5.9
	職 業					
	雇 用	3.9	1.8	2.4	58.9	5.2
	パート・タイム	6.3	2.1	10.4	37.5	4.1
	内 職	9.3	2.7	7.1	40.3	4.3
	自 営 業	8.0	4.7	7.0	28.9	4.7
	な し	7.1	1.1	4.0	47.7	4.3

(7) 家族の外出

イ 住宅種類別外出の状況

家族全部が家をすにして外出することがあるかどうかを質問したところ「カギをかけて自由に外出する」と答えた妻は37.7%、「なるべくすにしないが長時間るすにすることもある」と答えた妻が23.9%で「短時間のおつかいの時だけるすにすること」と答えたものが10.7%、「るすにすることはしない」と答えたものが18.9%である。

外出状況を住宅の種類別にみたのが第33表であるが、カギをかけて自由に外出するものは鉄筋アパートで約7割の高率を示めし、木造アパートの約6割がこれに次いでいるのに対し、2戸建て以上は約4割、1戸建ての場合は約3割とアパート形態の住宅にくらべて非常に低率となる。1戸建てや2戸建て以上の住宅ではカギをかけて自由に外出するものが減少して、なるべくすにしないが長時間るすにすることもあると回答したものが約3割弱に増加している。短時間のおつかいの時だけるすにすることもあるものも1戸建ての住宅でやや高く、留守にすることはしないのは1戸建て2戸建て以上の住宅にそれぞれ約2割ずつあり、鉄筋アパート（7%）や木造アパート（13%）を大幅に上まわっている。

住宅の種類には、居住する夫婦の年齢や家族構成を反映するものであろうが、外出が自由なのは鉄筋アパート、ついで木造アパートであり、1戸建てついで2戸建て以上の住宅は、アパート形態の住宅にくらべてかなり外出の不自由なことがうかがわれる。

第33表 住宅の種類別家族の外出状況

		総 数		かぎをかけて 自由に外出する	なるべくするに しないが長時間 するにすること もある	短時間のおつか いのときだけ
		実 数	%			
計		2,792	100	37.7%	23.9%	10.7%
住 宅 の 種 類	鉄筋アパート	212	100	72.6	11.4	9.4
	木造アパート	291	100	57.7	12.7	11.0
	1 戸 だ て	1,446	100	29.3	27.1	11.8
	2戸だて以上	609	100	36.8	25.6	7.9
	そ の 他	147	100	40.1	26.5	6.1

		るすにする ことはな い	不 明
計		18.9%	8.8%
住宅 の 種 類	鉄筋アパート	6.6	—
	木造アパート	12.7	5.9
	1 戸 だ て	21.4	10.4
	2 戸 だ て 以 上	21.2	8.5
	そ の 他	17.0	10.3

ロ 住宅についての妻の意識

鉄筋アパートと1戸建ての家（庭つき）とどちらに入りたいと思うか妻の住宅についての意識をたずねたところ、圧倒的多数のものが1戸建て（庭つき）の家を希望し（84.3%）、鉄筋アパートを希望した妻は非常に少なかった（2.1%）。どちらともいえないと答えたものが5.6%である。

前項でみたように、鉄筋アパートの方の外出は自由に行なわれ、1戸建ての場合は外出がかなり不自由であるにもかかわらず、1戸建て住宅を希望する傾向が非常に強い。

現在住んでいる住宅の種類別に妻の住宅希望をとってみると、現在鉄筋アパートに住むものを除いて、どの住宅に住むものも鉄筋アパート希望は2%前後の低率にとどまり、どちらともいえないというものも3～10%程度で、1戸建てへの希望が著しく高い。わずかに現在アパートに住んでいるもののうち、鉄筋アパート希望が11.8%、どちらともいえないものが

14.6%と他より高率を示しているが、それでも7割はやはり1戸建てを希望している。

職種別、年令別、妻の職業別にみても1戸建て希望が大部分の8~9割に及び、鉄筋アパート希望やどちらともいえないは若年層でわずかに高まっているに過ぎない。妻の住宅についての意識は「庭つき1戸建ての家を我が家に」との希望が非常に強いといえる。

第3.4表 住宅の種類別、職種別、年令別、妻の職業別妻の住宅に対する希望

		総 数		鉄筋アパート	1 戸 だ て	どちらとも いえない	不 明
		実 数	%				
計		2,792	100	2.1%	84.3%	5.6%	8.0%
住 宅 の 種 類	鉄筋アパート	212	100	11.8	70.3	14.6	3.3
	木造アパート	291	100	2.1	90.0	3.4	4.5
	1 戸 だ て	1,446	100	1.5	84.5	3.8	10.2
	2 戸 だ て 以 上	609	100	0.8	90.3	5.9	3.0
	そ の 他	147	100	—	83.7	9.5	6.8
職 種	生 産 労 働 者	1,244	100	1.6	82.8	5.7	9.9
	職 員 等	1,491	100	2.6	85.8	5.5	6.1
年 令	2 0 代	952	100	3.2	85.1	6.1	5.6
	3 0 代	1,060	100	1.9	83.4	6.4	8.3
	4 0 代	593	100	0.8	87.5	3.4	8.3
	5 0 代 以 北	168	100	1.8	79.2	4.8	14.2
妻 の 職 業	雇 用	507	100	2.2	86.8	3.9	7.1
	パート・タイム	68	100	4.4	75.0	5.9	14.7
	内 職	315	100	1.0	87.6	4.8	6.6
	自 営 業	158	100	—	81.0	5.1	13.9
な し		1,556	100	2.4	85.0	6.3	6.3

(8) 家での交際

この一年間に家庭に夫又は妻の友人を招いたことのある世帯は77.1%,うち大部分はたまに招くの56.8%で、ちよいちよい招くは20.3%である。妻20代、夫30代の層がもつとも招くことが多く、50代以上ではかなり少なくなる。職種別には職員等世帯にやや多い。この一年間お客を招いたことのない世帯は21.0%で高年層、生産労働者世帯はと多い。

友だちを家にまねくことが好きと答えた夫は50.5%,妻39.9%,好きではないと答えた夫4.3%,妻8.5%であり、どちらともいえないと答えたものが夫43.0%,妻48.5%ずつある。夫の方に交際を好むものが多い、妻の方には好きではないものや、どちらともいえないものが多い。

家での交際の有無や頻度別による夫と妻の交際に対する意識をみてみると、この一年間に友人を招いたことのある世帯の夫の過半数は好きと答え、妻の過半数はどちらともいえない、好きでないと答えているが、うちちよいちよい招く世帯では概して夫も妻も好きで招くものが多い(とくに夫)、たまに招く世帯では好きではない、どちらともいえないものの割合が高まる(とくに妻)。友人を招くことのない世帯では大部分がどちらともいえないと答えており、好きと答えたものは少ない。

職種別にみると、職員等世帯の方の交際が多いが、夫の場合、交際を好むものは職員層、あまり好まないものは生産労働者に多く、交際は好きでちよいちよい招くは職員層の夫に目立っている。妻の場合も交際を好むものは職員層に多いが、同時に好きでないものも職員層の妻がやや多くなっている。

年令別にみると、妻20代、夫30代を中心に概して若年層のほうが交際がひんばんであるが、妻の40代、30代で家での交際はどちらともいえないというものが多く、好きと答えたものは交際の少ない50代以上に多い。夫の場合ももつとも交際の多い30代でどちらともいえないや好きではないものがやや高まっている(とくにたまに招く層)。

第35表 職種別、年齢別、夫と妻の家に友だちを招くことの有無及び好き嫌い

			総 数					あ る					
								計				どちらとも ある	
			実 数	%	好 き	好きで ない	どちら ともい えない	小 計	好 き	好きで ない	どちら ともい えない	小 計	好 き
夫	計	2,792	100	48.6	4.3	43.0	77.1	44.1	2.6	29.0	20.3	14.9	
	職 種	1,244	100	43.3	5.6	45.9	75.3	38.7	2.5	31.7	19.7	10.5	
	職 員 等	1,491	100	53.6	3.1	40.6	78.7	49.1	2.6	26.5	20.7	18.9	
	年 令	20代	485	100	49.0	2.0	46.5	74.8	44.9	1.0	28.7	19.0	13.6
	30代	1,236	100	47.9	5.8	43.6	80.7	44.5	3.9	30.9	21.8	17.2	
	40代	630	100	49.7	4.2	40.0	76.2	45.4	2.1	27.1	19.5	13.2	
	50代以上	409	100	48.6	2.4	41.6	70.2	41.3	1.2	25.5	19.1	13.2	
	計	2,792	100	39.9	8.5	48.5	77.1	34.7	5.8	35.7	20.3	10.4	
妻	職 種	1,244	100	36.7	6.3	53.4	75.3	32.1	3.9	37.9	19.7	11.3	
	職 員 等	1,491	100	42.8	10.2	44.4	78.7	36.8	7.5	33.9	20.7	9.6	
	年 令	20代	952	100	42.2	9.4	45.8	82.8	37.9	6.9	36.9	23.9	11.9
	30代	1,060	100	37.2	8.0	52.3	74.4	32.5	5.1	35.9	19.1	10.3	
	40代	593	100	40.0	8.5	49.2	76.9	33.4	6.1	36.9	18.5	8.9	
	50代以上	168	100	47.0	6.6	37.5	66.7	37.5	4.2	23.2	14.3	8.3	
	計	2,792	100	39.9	8.5	48.5	77.1	34.7	5.8	35.7	20.3	10.4	
	職 種	1,244	100	36.7	6.3	53.4	75.3	32.1	3.9	37.9	19.7	11.3	

		あ　　る										不　明	
		あ　　る		た　ま　に　あ　る				な　　い					
		好きで ない	どちら ともい えない	小　計	好　き	好きで ない	どちら ともい えない	小　計	好　き	好きで ない	どちら ともい えない		
夫	計	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	
		0.4	4.9	56.8	29.2	2.2	24.1	21.0	4.5	1.7	14.0	1.9	
	職 種												
	生産労働者	0.3	8.1	55.6	28.2	2.2	23.6	22.9	4.6	3.1	14.2	1.8	
	職 員 等	0.4	1.6	58.0	30.2	2.2	24.9	19.5	4.5	0.5	14.1	1.8	
	年 令												
	20代	—	5.4	55.8	31.3	1.0	23.3	23.1	4.1	1.0	17.8	2.1	
	30代	0.3	4.1	58.9	27.3	3.6	26.8	18.3	3.4	1.9	12.7	1.0	
	40代	0.5	5.7	56.7	32.2	1.6	21.4	21.9	5.2	2.1	12.9	1.9	
	50代以上	0.7	4.5	51.1	28.1	0.5	21.0	25.6	7.3	1.2	16.1	4.2	
妻	計	1.2	8.6	56.8	24.3	4.6	27.1	21.0	5.2	2.7	12.8	1.9	
	職 種												
	生産労働者	1.0	7.3	55.6	20.8	2.9	30.6	22.9	4.6	2.4	15.5	1.8	
	職 員 等	1.5	9.5	58.0	27.2	6.0	24.4	19.5	6.0	2.7	10.5	1.8	
	年 令												
	20代	2.3	9.6	58.9	26.0	4.6	27.3	16.1	4.3	2.5	8.9	1.1	
	30代	0.8	7.9	55.3	22.2	4.3	28.0	24.1	4.7	2.9	16.4	1.5	
	40代	0.2	9.4	58.4	24.5	5.9	27.5	21.8	6.6	2.4	12.3	1.3	
	50代以上	1.2	4.8	52.4	29.2	3.0	18.4	26.8	9.5	2.4	14.3	6.5	

(9) 家庭の年中行事

いろいろな年中行事のうち、家庭で行事や祝などをするものとしては正月が最も多い93.4%、ついで家族の誕生日74.1%、クリスマス62.4%、おぼん56.9%、5月の節句43.3%、結婚記念日41.7%、ひなまつり39.6%、おひがん38.6%、七夕26.9%、月見21.5%の順で多くなっている。(ただし、子供—男女の有無に関係ある行事もそのまま並べた)

年中行事は職種別、年齢別、地域別、収入別によつてかなり異なる傾向がみられるが、どの階層においても正月を祝うものは最も多く対象世帯のほとんど9割以上が祝っている。

職種別にみると正月、おぼん、おひがん、5月の節句、七夕は生産労働者世帯ほど多く、とくににおぼん、おひがんを祝うものは職員等世帯を大幅に上まわっているが、家族の誕生日、クリスマス、結婚記念日は職員等世帯の方がかなり高い。

妻の年齢別にみると、いろいろな家庭行事は妻の年齢30～40代で盛んに行なわれており、クリスマスや家族の誕生日をはじめとして20代や50代以上では頻度の低い子供の行事—5月の節句、ひなまつり、七夕、月見—もよく行なわれている。若年層では結婚記念日を祝うものが約6割と高い頻度を示すが、年齢とともに急激に低下しており、それと反比例しておぼんやおひがんなど伝統的な行事を祝うものが高まり、50代以上のおぼんは約8割に達する。しかし、50代以上では正月、おぼん、おひがんを除いた他の家庭行事は一般に頻度が低く、子どもの行事やクリスマス、家族の誕生日等も40代を過ぎるとめだつて低下する。

地域別には概して7大都市以外の地域で家庭行事が盛んであり、中でもおぼん、5月の節句、おひがんの頻度は高い。7大都市で多いのは結婚記念日、家族の誕生日、クリスマスである。

収入別にはどの種類の家庭行事も高所得層のほうが概して盛んであるが、とくに家族の誕生日、クリスマス、月見、おひがんなどはその傾向が強い。

第36表 職種別、妻の年齢別、地域別、世帯収入階級別家庭の年中行事

		総 数		正 月	ひなまつり	5月の節句	おひがん	たなばた
		実 数	%					
計		2,792	100	93.4%	39.6%	43.3%	38.6%	26.5%
職 種	生産労働者	1,244	100	94.5	39.5	46.5	41.5	28.1
	職 員 等	1,491	100	92.7	40.0	40.6	36.1	25.2
妻の 年 令	20代	952	100	92.6	34.3	33.9	27.5	18.4
	30代	1,060	100	92.6	46.6	51.8	38.9	36.6
	40代	593	100	96.5	40.3	45.0	50.4	25.1
	50代以上	168	100	94.6	24.4	38.1	57.1	14.9
地 域	7大都市	1,039	100	93.8	35.4	38.0	32.9	21.3
	そ の 他	1,753	100	93.2	42.2	46.4	41.9	29.7
世帯 収 入 階 級	～2万円	77	100	94.8	36.4	49.4	36.4	31.2
	2～3万円	477	100	93.7	40.7	49.3	38.4	28.5
	3～4万円	796	100	95.4	39.4	43.7	35.4	26.4
	4～5万円	534	100	96.4	39.0	40.8	38.4	26.8
	5～6万円	304	100	97.4	39.8	41.1	38.5	30.6
	6～7万円	148	100	89.2	45.9	48.0	43.9	17.6
	7万円以上	189	100	96.8	38.1	49.7	54.5	26.5

		お ぼ ん	月 見	クリスマス	家 族 の 誕 生 日	結婚記念日	そ の 他
計		56.9%	21.5%	62.4%	74.1%	41.7%	3.6%
職 種	生産労働者	66.6	21.6	59.3	68.9	33.4	3.6
	職 員 等	48.6	21.3	65.3	78.7	49.3	3.6
妻の 年 令	20代	49.7	16.9	62.3	73.3	58.4	3.0
	30代	52.5	25.7	68.7	76.9	89.5	3.7
	40代	69.5	23.5	59.7	74.9	26.8	3.7
	50代以上	80.4	16.7	36.3	60.1	16.7	4.8
地 域	7大都市	43.5	17.5	63.3	78.8	48.3	2.2
	そ の 他	64.8	23.8	61.9	71.3	37.8	4.4
世帯 収 入 階 級	～2万円	70.1	22.1	50.6	67.5	40.3	3.9
	2～3万円	63.1	20.5	58.5	70.4	36.3	3.8
	3～4万円	53.3	19.0	65.1	77.0	45.1	2.1
	4～5万円	52.1	21.5	65.5	76.8	44.9	5.2
	5～6万円	63.2	27.0	71.1	81.6	43.7	4.6
	6～7万円	58.8	27.0	65.5	79.7	54.7	1.4
	7万円以上	65.1	28.0	71.4	85.1	43.9	9.5

100 文化・教養・レクリエーションのための社会施設

イ 社会施設利用状況

種々の社会施設のうち、この一年間に利用したことのあるものとして最も高い利用率を示すのは公園・遊園地（夫58.8%、妻55.3%）であり、ついで動・植物園（夫36.3%、妻35.7%）、講演会・講習会（夫26.2%、妻18.3%）、展覧会（夫20.3%、妻15.0%）、集会場（夫13.5%、妻11.6%）などがあげられるが、図書館、博物館、美術館の利用はこれらにくらべるとかなり低い（夫6～8%、妻3～5%）。スポーツ施設の利用は夫に高まつており（夫19.4%、妻3.9%）、国民宿舎も利用率としては低いが夫の方が高い（夫4.1%、妻1.5%）。一般に妻は夫より社会施設を利用することが少ない。

職種別にみると妻の集会場利用が生産労働者層で高い他は、どの社会施設も夫、妻とも職員層が大巾に上まわっている。

年齢別には一般に夫、妻とも若年層の利用率が高く、公園・遊園地、動・植物園の利用は20代、30代で非常に高い。スポーツ施設の利用も夫の若年層で飛躍的に高まる。しかし妻の場合、講演会・講習会、集会場、展覧会などにむける中年者の利用率が高くなっている。

地域別には、妻の講演会・講習会を除き7大都市が大巾に高率を示しており、とくに夫の公園・遊園地（約8割）、動・植物園（約5割）の利用率は高くなっている。

妻の利用率を収入別にみると、どの種類についても高所得層ほど高くなつており、中でも講演会・講習会や展覧会は収入とともに大きく高まる。公園・遊園地はどの収入階層においても平均して利用者がみられた。

ロ もつと利用したい社会施設

社会施設をもつと利用したい希望は各施設につき大体1～2割であるが、概して利用率の高い施設が希望率も高くなつており、夫はスポーツ施設（15.2%）、講演会・講習会（13.9%）、図書館（13.8%）、などが多く、妻は講演会・講習会（16.5%）、動・植物園（14.9%）、公園・遊園地（13.5%）が多い。

職種別にみると、妻の集会場、公園・遊園地を除いて、一般に夫も妻も職員層の利用希望が大幅に高い。

どの社会施設についても夫も妻も若年層ほど希望者が多く、年齢が高まるにつれて希望者は著しく減少する。最も希望率の高いものは、20代の夫のスポーツ施設、20代の妻の講演会・講習会であった。

地域別にみると、夫は全般にわたつて7大都市が高率を示しているが、妻は美術館、展覧会、国民宿舎など若干のものを除いて7大都市以外の地域が大きく高まつている。

妻の施設利用希望を収入別にみると、公園・遊園地、動・植物園、図書館等は所得が低く

なるほど希望者が増加しており、スポーツ施設、集会場もどちらかといえば低所得層で高まっているが、展覧会、美術館、博物館、講演・講習会などの希望についてはこれという収入別の傾向は見出せない。

第37表 職種別、年齢別、地域別、世帯収入階級別夫と妻の社会施設利用状況
(過去1年間に利用したもの)

		総 数		公 園 遊 園 地	動・植物園	図 書 館	博 物 館	美 術 館
		実 数	%					
夫	計	2,792	100	58.8%	36.3%	8.3%	5.8%	7.0%
	職 種							
	生産労働者	1,244	100	53.4	33.9	5.1	3.6	4.8
	職 員 等	1,491	100	63.3	38.8	10.8	7.8	9.1
	年 令							
	20代	485	100	64.9	40.0	10.1	6.6	9.1
	30代	1,236	100	66.2	44.8	8.2	5.8	7.6
	40代	630	100	53.5	27.1	7.9	5.9	6.5
	50代以上	409	100	36.4	21.0	6.4	4.9	3.7
	地 域							
妻	7大都市	1,039	100	80.6	52.7	11.1	8.1	11.6
	そ の 他	1,753	100	46.0	26.5	6.6	4.4	4.3
	計	2,792	100	55.3	35.7	3.7	3.5	5.4
	職 種							
	生産労働者	1,244	100	49.0	30.9	3.4	2.0	2.4
	職 員 等	1,491	100	61.0	40.2	3.8	4.8	8.2
	年 令							
	20代	952	100	64.5	41.7	4.0	3.3	7.1
	30代	1,060	100	60.8	40.9	3.9	4.3	5.2
	40代	593	100	37.3	22.6	3.0	3.2	4.4
	50代以上	168	100	31.5	15.5	2.4	1.2	0.6
	地 域							
	7大都市	1,039	100	62.2	43.8	3.2	4.7	7.1
	そ の 他	1,753	100	51.2	31.0	4.1	2.8	4.4
	世帯収入階級							
	～2万円	77	100	46.8	27.3	5.2	2.6	1.3
	2～3万円	477	100	56.2	33.3	2.9	2.3	2.5
	3～4万円	786	100	57.4	35.4	3.9	2.6	3.4
	4～5万円	534	100	60.7	35.8	3.9	3.2	5.6
	5～6万円	304	100	54.9	41.1	3.6	3.3	6.9
	6～7万円	148	100	58.8	37.2	4.7	10.1	10.8
	7万円以上	189	100	58.7	45.5	6.3	5.8	9.0

		展 覧 会	講 演 会 講 習 会	集 会 場	ス ポ ー ツ 施 設	国民宿舎
夫	計	20.3%	26.2%	13.5%	12.4%	4.1%
	職 種					
	生産労働者	13.3	19.5	12.7	14.6	1.9
	職 員 等	26.4	31.5	14.3	23.5	6.1
	年 令					
	20代	19.2	27.4	15.7	31.3	10.1
	30代	23.5	28.4	13.5	21.0	2.8
	40代	19.0	26.2	14.3	14.0	3.7
	50代以上	14.9	18.8	10.0	8.1	2.2
	地 域					
妻	7大都市	28.6	33.7	14.9	27.5	6.8
	そ の 他	15.5	21.7	12.7	14.5	2.5
	計	15.0	18.3	11.6	3.9	1.5
	職 種					
	生産労働者	10.4	15.5	12.9	2.2	1.2
	職 員 等	18.9	20.7	10.5	5.5	1.7
	年 令					
	20代	15.0	13.7	9.1	6.0	1.2
	30代	15.0	19.3	12.1	3.4	1.9
	40代	16.4	24.6	15.7	2.2	1.5
	50代以上	9.5	16.1	10.1	2.4	0.6
	地 域					
	7大都市	16.4	14.5	8.4	5.2	1.0
	そ の 他	14.1	20.5	3.6	3.2	1.8
	世帯収入階級					
	～2万円	6.5	20.8	10.4	3.9	—
	2～3万円	9.5	13.8	10.5	2.5	1.0
	3～4万円	14.9	17.6	12.4	3.1	1.6
	4～5万円	16.5	19.1	13.7	5.1	1.9
	5～6万円	17.4	22.0	10.5	3.6	1.0
	6～7万円	22.3	20.9	14.2	7.4	2.0
	7万円以上	27.5	30.7	12.2	7.4	3.2

第32表 職種別、年齢別、地域別、世帯収入階級別夫と妻の社会施設利用希望状況
(もつと利用したいもの)

		総 数		公 園 遊 園 地	動 ・ 植物園	図 書 館	博 物 館	美 術 館
		実 数	%					
夫	計	2,792	100	12.2%	11.1%	13.8%	8.2%	9.4%
	職 生産労働者	1,244	100	11.3	10.5	10.8	5.8	6.2
	種 職 員 等	1,491	100	13.1	11.7	16.4	10.4	12.1
	年 20代	485	100	15.7	16.3	17.7	14.2	15.1
	30代	1,236	100	14.8	12.0	15.6	9.1	9.9
	40代	630	100	9.5	7.6	11.1	4.3	6.7
	50代以上	409	100	4.9	7.8	7.3	4.9	5.1
	地 7大都市	1,039	100	15.4	13.4	19.1	9.9	14.0
	域 その他	1,753	100	10.3	9.8	10.7	7.2	6.7
	計	2,792	100	13.5	14.9	11.0	6.2	9.2
妻	職 生産労働者	1,244	100	13.7	13.5	9.2	4.4	5.1
	種 職 員 等	1,491	100	13.5	16.2	12.6	7.7	12.8
	年 20代	952	100	17.5	20.6	17.9	8.5	12.6
	30代	1,060	100	14.4	14.2	9.9	6.1	8.3
	40代	593	100	7.8	9.4	4.0	4.4	6.7
	50代以上	168	100	6.5	6.0	3.6	—	3.6
	地 7大都市	1,039	100	11.4	14.1	9.2	6.2	12.2
	域 その他	1,753	100	14.8	15.3	12.1	6.2	7.4
	世帯収入階級	77	100	20.9	19.5	14.3	3.9	7.8
	2~3万円	477	100	18.7	17.8	12.4	5.2	6.1
妻	3~4万円	796	100	14.6	16.7	14.4	6.5	8.6
	4~5万円	534	100	14.0	16.3	10.3	5.4	12.4
	5~6万円	304	100	10.9	12.5	6.9	6.2	9.9
	6~7万円	148	100	7.4	5.4	6.8	6.8	8.1
	7万円以上	189	100	7.9	11.1	8.5	9.5	14.6

		展 覧 会	講 演 会 講 習 会	集 会 場	ス ポ ー ツ 施 設	国民宿舎
夫	計	10.0%	13.9%	2.8%	15.2%	11.7%
	職 生産労働者	8.4	11.3	2.4	13.3	9.4
	種 職 員 等	11.3	16.0	3.0	16.7	13.7
	年 20代	13.6	16.5	3.5	26.4	16.9
	30代	9.9	15.5	2.9	16.1	12.7
	40代	8.7	11.3	1.4	9.0	8.9
	50代以上	7.1	10.3	2.9	7.8	7.1
	地 7大都市	11.0	18.6	2.8	19.2	15.0
	域 その他	9.4	11.2	2.7	12.7	9.7
	計	10.2	16.5	2.1	5.2	7.6
妻	職 生産労働者	7.1	13.8	2.4	4.3	5.5
	種 職 員 等	12.9	18.9	1.7	5.8	9.5
	年 20代	13.4	21.8	3.0	9.6	10.9
	30代	9.9	16.2	1.2	3.2	6.1
	40代	7.3	11.3	2.5	2.4	5.9
	50代以上	3.6	7.1	1.2	1.8	4.2
	地 7大都市	11.2	14.4	1.7	5.8	9.0
	域 その他	9.7	12.6	2.3	4.8	6.8
	世帯収入階級	16.9	22.1	3.9	7.8	2.6
	2~3万円	9.6	14.9	2.1	6.1	5.5
妻	3~4万円	9.7	19.7	2.8	5.5	7.9
	4~5万円	11.6	16.3	1.7	5.8	10.7
	5~6万円	11.5	13.5	1.0	3.0	8.6
	6~7万円	11.5	16.9	1.4	2.7	10.1
	7万円以上	10.6	17.5	0.5	5.8	6.9

IV 年次有給休暇と残業（夫）

1. 年次有給休暇

(1) もっている日数

1年間の年次有給休暇の持日数（実際に休暇をとった日数ではなく、今年1年間にきまりとしてもっている日数）は、10日～20日が約半数の49.8%、21日以上が17.2%、10日未満が14.2%である。持日数が何日かわからないと回答したものが10.6%ある。

第39表 規模別、職種別、世帯収入階級別、年令別、地域別
年次有給休暇の持日数（就業規則上の）

		総 数		年次有給休暇の持日数				何日か わから ない	不 明
		実 数	%	小 計	10日 未 満	10～ 20日	21日 以 上		
計		2792	100	81.2%	14.2%	49.8%	17.2%	10.6%	8.2%
規 模	30～99人	936	100	67.0	19.2	37.8	10.0	17.9	15.1
	100～499人	969	100	83.8	16.8	52.5	14.4	9.6	6.7
	500人以上	887	100	93.5	6.0	59.8	27.7	3.8	2.7
職 種	生産労働者	1,244	100	82.5	18.0	52.3	12.2	8.7	8.8
	職 員 等	1,491	100	80.5	11.0	47.9	21.6	12.1	7.4
世 帯 収 入 階 級	～2万円	77	100	68.8	24.7	33.7	10.4	18.2	13.0
	2～3万円	477	100	83.0	18.2	51.6	13.2	10.7	6.3
	3～4万円	796	100	81.9	13.4	53.1	15.3	10.6	7.6
	4～5万円	534	100	83.5	14.0	54.5	15.0	11.2	5.3
	5～6万円	304	100	83.6	13.8	47.7	22.0	9.9	6.6
	6～7万円	148	100	87.2	12.2	39.9	35.1	3.4	9.4
	7万円以上	189	100	83.6	7.9	49.7	25.9	9.0	7.6
年 令	20代	485	100	81.0	20.8	51.5	8.7	11.8	7.2
	30代	1,236	100	82.4	12.3	51.3	18.9	10.0	7.5
	40代	630	100	81.3	10.8	49.5	21.0	9.7	9.0
	50代以上	409	100	78.2	17.1	44.7	16.4	11.5	10.3
地 域	7大都市	1,039	100	80.0	16.5	42.6	20.8	11.5	8.6
	そ の 他	1,753	100	82.0	12.8	54.1	15.1	10.0	8.0

10日未満というものは小企業、生産労働者が多く、10～20日は大・中企業、生産労働者が上まわり、21日以上は大企業、職員層が大幅に上まわっており、年休持日数については明らかな規模別、職種別格差がみられる。わからないと答えたものは、小企業、職員層で

収入別には、10日未満は低所得層ほど、10～20日は収入3～5万円層を中心に中間所得層で、21日以上は高所得層ほど高まっており、何日かわからないものは低所得層に多い。

年令別には若年層ほど少なく、年令とともに多くなる傾向があるが、50代以上の高年令層になると再び減少する様子がみえる。

地域別にみると、7大都市以外の地域の場合は過半数が10～20日に集中しているが、7大都市の方は21日以上、10日未満やや分散する傾向がみえる。

(2) 取得状況

年次有給休暇を全部利用しないものが多い。昭和38年の年休の持日数をほとんど全部とつたものは28.7%であり、一部とつたものが42.9%（うち、半分以上14.5%、約半分11.6%、半分以上16.7%）、ほとんどとらなかつたものが18.6%である。

第40表 規模別、職種別、世帯収入階級別、年令別、
地域別年次有給休暇の取得状況

		総 数		ほとんど 全部と つた	1 部 と つ た				ほとんど とらな かつた	不 明
		実 数	%		小 計	半分以上	約半分	半分以上		
計		2,792	100	28.7	42.9	14.5	11.6	16.7	18.6	9.9
規 模	30 ～ 99人	936	100	26.3	31.9	10.5	8.5	13.0	24.0	17.7
	100～499人	969	100	31.5	41.9	13.6	12.4	15.9	19.4	7.2
	500人以上	887	100	28.4	55.5	19.8	14.2	21.4	11.6	4.6
職 種	生産労働者	1,244	100	37.5	36.2	14.4	11.3	10.5	15.5	10.8
	職 員 等	1,491	100	21.7	48.6	14.5	12.1	22.0	20.7	9.0
世 帯 収 入 階 級	～ 2 万円	77	100	26.0	33.8	14.3	9.1	10.4	27.3	12.9
	2 ～ 3 万円	477	100	37.3	32.5	10.7	9.4	12.4	20.3	9.9
	3 ～ 4 万円	796	100	31.3	47.7	17.7	12.2	17.8	12.2	8.8
	4 ～ 5 万円	534	100	28.7	44.0	13.3	13.1	17.6	20.4	6.9
	5 ～ 6 万円	304	100	24.7	46.4	16.8	14.8	16.8	19.7	7.2
	6 ～ 7 万円	148	100	18.9	52.7	18.2	12.9	21.6	20.3	8.1
	7 万円以上	189	100	20.1	48.7	16.9	10.1	21.7	21.7	9.5
年 令	20 代	485	100	35.1	41.8	17.7	14.6	9.5	15.5	7.6
	30 代	1,236	100	30.7	41.9	13.0	10.4	18.4	17.1	10.4
	40 代	630	100	22.2	47.0	15.2	12.4	19.4	21.6	9.2
	50 代以上	409	100	26.2	41.6	14.4	10.5	16.6	20.3	12.0
地 域	7 大 都 市	1,039	100	28.5	43.6	15.1	11.5	17.0	16.7	11.2
	そ の 他	1,753	100	28.9	42.5	14.2	11.7	16.5	19.6	9.1

年休取得状況についても第40表のとおり、規模別、職種別、年齢別などによつてかなり変化がみられる。

規模別にみると、年休をほとんど全部消化したものは中規模が最も多く、1部消化は大規模ほど、ほとんど消化しなかつたは小規模ほど大幅に高い率を示めている。1部消化のうちでは、どの規模でも半分以上消化したものより、半分以上というものがやや多い。

職種別の年休取得状況を比較すると、ほとんど全部消化したものは生産労働者に高く（生産労働者約4割、職員層約2割）、1部とつたは職員層が高い（生産労働者約4割、職員層約5割）が、うち半分以上というものが職員層に多く、ほとんど消化しなかつたものも職員層で上まわる。

収入別にみれば、概して低所得層ほどほとんど全部消化したものが多く、高所得層ほど1部消化が多くなつており、うち半分以上の消化が多い。ほとんど年休をとらなかつたものは各層2割前後となつてゐる。

年齢別には若年層ほど年休の取得率が高まつており、ほとんど全部消化は20代が最も高く30代がこれにつづき、最も低いのは40代である。1部消化は40代でめだつてゐる他はほぼ同程度であるが、うち、20代は半分以上消化が多く、30代以上では半分以上の消化のものが多く、ほとんどとらなかつたは40代、50代以上の層で高まつてゐる。

地域別には大差がみられなかつた。

以上各層別の年休取得状況をみてきたが、これらの年休の消化率と前項でのべた年休持日数の間には密接な関連がみられ、持日数の少ない生産労働者、低所得層、若年層は概して消化率が高く、持日数が多いとみられる職員層、高所得層、高年齢層では持日数を伸ばし消化しきれないものが多い。但し規模別には、年休の持日数の少ない小企業で年休をほとんどとらなかつたものが多く、持日数の多い大企業では、年休をとる率が高いが、そのうちでは1部消化が最も多いという特徴がみられる。

(8) 年休をとつた理由

年休をとつた理由は、自分の用事でとつたものが最も多く43.3%、ついで自分の病気のためが33.0%で、家で休息やレクリエーションに出かけたものはそれぞれ24.4%、21.9%とやや頻度が低くなる。妻の病気・出産のために年休をとつたものが15.2%、その他の理由が16.3%である。（理由は複数の場合があるので合計は100%をこえる）

年休をとつた理由を規模別にみると、年休取得率の高い大規模ほど自分の用事や休息、レクリエーションなど種々の理由で年休をとる頻度が高いが、とくに休息やレクリエーションの理由でとるものは中・小規模にくらべて非常に多い。小規模では、どの理由についても年休を利用

第41表 規模別、職種別、世帯収入階級別、年齢別、地域別年休をとつた理由

		総 数		レクリエーションに出かけた	家で休 暇など	自分の 用 事	自分の 病 気	妻の 病 気 出 産	その他	不 明
		実 数	%							
計		2,792	100.0	21.9%	24.4%	43.3%	33.0%	15.2%	16.3%	18.4%
規 模	30～99人	936	100.0	14.3	18.9	32.1	24.0	12.2	12.2	29.2
	100～499人	969	100.0	18.1	20.5	44.7	36.4	14.9	17.1	17.6
	500人以上	887	100.0	34.0	34.3	53.8	38.7	18.8	19.7	7.8
職 業	生産労働者	1,244	100.0	18.2	25.8	49.8	33.9	16.5	17.1	19.0
	職 員 等	1,491	100.0	25.5	23.2	38.0	32.7	14.3	15.6	17.6
世帯 収 入 階 級	～2万円	77	100.0	10.4	16.9	48.1	26.0	20.8	15.6	27.3
	2～3万円	477	100.0	17.2	20.8	47.2	34.2	19.5	17.8	19.3
	3～4万円	796	100.0	19.5	27.6	45.4	33.5	17.3	16.0	13.3
	4～5万円	534	100.0	29.4	24.7	42.1	35.0	11.6	16.3	17.2
	5～6万円	304	100.0	26.6	33.2	42.4	36.5	11.5	15.5	18.4
	6～7万円	148	100.0	32.4	18.9	44.6	42.6	15.5	9.5	16.2
	7万円以上	189	100.0	28.0	27.5	43.9	37.0	11.6	21.7	18.0
年 令	20代	485	100.0	28.0	23.5	45.6	35.1	18.1	15.1	14.8
	30代	1,236	100.0	24.5	24.4	40.7	33.6	19.6	18.7	16.7
	40代	630	100.0	21.6	26.7	44.1	33.3	9.8	13.8	19.8
	50代以上	409	100.0	8.3	22.0	47.9	29.1	7.3	13.2	24.9
地 域	7大都市	1,039	100.0	28.6	24.7	36.6	36.3	16.9	13.5	19.3
	その他	1,753	100.0	17.9	24.1	47.3	31.0	14.2	18.0	17.8

する頻度が低くなつてゐる。

職種別にみると、年休消化率のよい生産労働者の年休をとる理由は、自分の用事が最も多く、休息や病気、妻の病気・出産などの理由も職員層より多いが、年休をとつてレクリエーションに出かけたものは職員層がかなり上まわつてゐる。

収入別にみると、どの所得階層でも最も多いのは自分の用事や病気であるが、概して低所得層に自分の用事、妻の病気・出産などが、高所得層に自分の病気を理由とするものが増える傾向がうかがわれ、レクリエーションに出かけたものは高所得層ほど、家で休息などは収入3～6万円の中間層で高まりをみせてゐる。

地域別にみると、7大都市以外の地域で自分の用事をあげるものが多いのに対して、レクリ

エーションに出かけたものも7大都市の方が大きく上まわっている。

(4) 年休をとらなかった理由

年休を持日数全部とらなかったもののうち、直接的な職場の条件として、忙がしくてとれなかつたものが約4割ともつとも多く、とらない人が多いから自分だけとるわけにいかないが約5%と比較的少ない。これらの理由の他に、とりたいと思わなかつたが約1割、とくに理由はないと答えたものが約4割で、その他が約1割ほどである。

規模別にみると、忙がしくてとれなかつたものは小規模に多く、とくに理由はないは大規模ほど多い。

第42表 規模別、職種別、世帯収入階級別、年令別、地域別
年休を全部とらなかった理由

		回答者総数		忙がしくてとれなかつた	とらない人が多いから自分だけとるわけにいかない	とりたいと思わなかつた	とくに理由はない	その他
		実数	%					
計		1,694	100	36.7	4.8	10.4	38.2	9.9
規模	30~99人	525	100	39.6	4.6	9.0	34.3	12.5
	100~499人	567	100	34.4	4.4	12.0	38.8	10.4
	500人以上	602	100	36.2	5.5	10.1	41.0	7.2
職種	生産労働者	624	100	26.1	3.8	10.7	48.4	11.0
	職員等	1,037	100	43.0	5.5	10.2	31.9	9.4
世帯収入階級	~2万円	43	100	16.3	4.7	7.0	60.5	11.5
	2~3万円	259	100	29.3	4.2	12.4	44.0	10.1
	3~4万円	457	100	35.9	4.8	9.4	38.7	11.2
	4~5万円	344	100	40.4	6.7	12.8	32.8	7.3
	5~6万円	202	100	42.6	4.5	6.9	33.2	12.8
	6~7万円	108	100	45.4	5.6	9.3	35.2	4.5
	7万円以上	139	100	41.7	5.8	12.9	29.5	10.1
年令	20代	271	100	35.0	3.3	8.5	41.7	11.5
	30代	739	100	39.1	6.8	8.5	37.8	7.8
	40代	419	100	36.8	3.3	14.9	37.2	10.5
	50代以上	242	100	30.2	3.3	15.3	34.8	14.0
地域	7大都市	625	100	40.6	5.9	10.1	34.6	8.8
	その他	1,069	100	34.3	4.2	10.6	40.3	10.6

職種別には職員層は忙がしくてとれなかつたものが最も多く、生産労働者はとくに理由がないものが最も多い。自分だけとるわけに行かないと周囲への気がねをあげるものは職員層が若干高い。

収入別にみると、忙がしくてとれなかつたものは高所得層ほど多く大体4万円より上の収入層で4割以上の高率を示めしており、とくに理由のないものは低所得層ほど多く、収入3万円未満で著しく増加している。

年令別にみると忙がしくてとれなかつたもの、周囲への気がねをあげるものは30代がやや高くなっている。とくに理由はないは20代に多く、とりたいと思わなかつたものは高年令層ほど高まる。

地域別には、7大都市には忙がしくてとれなかつたものが、7大都市以外の地域にはとくに理由のないものが多くなっている。

年休をとらなかった理由を年休消化率との関係においてみると、消化率の低い小企業、職員層、高所得層ほど忙がしくてとれなかつた理由にするものが多い。比較的消化率の高い大企業、生産労働者、低所得層にとくに理由のないものが多い。しかし年令別には、消化率のもつとも高い20代はとくに理由のないものが多いが、忙がしくてとれなかつたものは消化率のかなり高い30代に最も多くなっており、消化率の低下する40代、50代以上にはとりたいと思わなかつたものが高まっています。年令によつて夫の年休に対する欲求度の変化がみられる。周囲への気がねをあげるものはどの層も低率であつたが、大体多忙を理由とするものが多い層でいくぶん高まりをみせている。

(5) 年休のとり方

年休のとり方は、細かく分けてとる傾向が非常に強い。1年間の年休の持日数をほとんど全部とつたものについて、そのとり方をみると、1回にまとめてとつたもの5.6%、2回に分けたもの5.2%、3回6.7%、4回8.3%、5~10回32.9%、10回以上37.9%であつて、4回以下あるでいまとめてとつたものは非常に少なく、5回以上細かく分割してとつたものが7割と大部分をしめている。

年休を細かく分けてとる傾向は規模、職種、収入、年令、地域等全般にわたつて共通していることであり、どの階層をとつても年休をほとんど全部消化したものの約6割から8割近い大部分のものが、5回以上細かく分けて年休をとつている。ただし、小企業、職員層、高所得層、20代、7大都市では5~10回に分けて年休をとつたものが多いのに対し、大企業、生産労働者、低所得層、高年令層、7大都市以外の地域では、更に10回以上細かく分割したものが多という特徴があらわれている。

第43表 規模別、職種別、世帯収入階級別、年齢別、地域別、
年次有給休暇のとり方（年次有給休暇をほとんど全
部とつたものについて）

		年次有給休暇を ほとんど全部と つた人の総数		何回にわけてとつたか						
		実数	%	1回	2回	3回	4回	5~10回	10回以上	不明
計		803	100	% 5.6	% 5.2	% 6.7	% 8.3	% 32.9	% 37.9	% 3.4
規模	30~99人	246	100	8.1	9.7	7.3	11.8	33.7	24.4	4.9
	100~499人	305	100	5.2	2.3	9.5	7.8	34.4	38.0	2.8
	500人以上	252	100	3.6	4.4	2.8	5.6	30.1	50.8	2.8
職種	生産労働者	466	100	4.3	6.0	7.9	8.2	30.9	39.1	3.6
	職員等	324	100	7.7	4.0	4.9	8.6	35.2	36.4	3.1
世帯収入階級	~3万円	198	100	4.5	4.0	4.5	12.1	32.8	38.9	3.0
	3~4万円	249	100	4.8	7.6	4.8	5.6	32.5	40.6	4.0
	4~5万円	153	100	7.1	1.3	8.5	8.5	32.0	40.5	2.0
	5~6万円	75	100	5.3	2.7	12.0	8.0	37.3	29.3	5.3
	6万円以上	66	100	12.1	1.5	6.1	7.6	37.9	31.8	3.0
年齢	20代	170	100	3.5	8.2	6.5	8.2	39.4	29.4	4.7
	30代	378	100	4.8	4.2	5.3	10.3	33.6	39.4	2.4
	40代	140	100	10.7	5.0	7.1	3.6	27.9	40.7	5.0
	50代以上	107	100	5.6	3.7	11.2	8.4	26.2	42.0	2.8
地域	7大都市	296	100	6.7	4.4	9.8	10.8	35.8	26.7	5.7
	その他	507	100	4.9	5.7	4.9	6.9	31.2	44.0	2.0

(6) いちばん長く休んだとき

昨年中に（昭和38年1月~12月）自分の病気以外のことではいちばん長く続けて休んだとき（年休にかぎらない）をあげると、正月がもっとも多く約半数（50.4%）を占めており、残り半数は夏（19.2%）、おぼん（5.0%）、5月はじめのどひ石連休（6.8%）の間となっており、その他が18.5%である。

いちばん長く休んだときの事業所の就業状態は、いつせい休業であつたものが46.5%、平常どおり就業していたものが29.3%、いつせいではないが交替に休むようにいわれたものが6.5%である。

一番長く休んだ時期が正月というものの大部分は事業所の方もいつせい休業しており、おぼんや五月の連休の場合もほぼ半数が事業所のいつせい休業によるものであるが、夏やその他の時期の場合は、いつせい休業が少なく、平常就業が大部分である。いつせいではないが交替で休んだものはいずれの時期も少なかったが、正月と夏にそれぞれ2%ていどみられる。

規模別、職種別、年齢別、地域別に一番長くやすんだ時期を観察すると次表のとうりであるが、規模、職種、年齢、地域をとわず、全般に正月にいつせい休業で休んだものが4~5割の多数であつた。

第44表 規模別、職種別、年齢別、地域別いちばん長く休んだ時期
及び事業所の就業状態

		総数					正月				五月はじめの連休			
		実数	%	平常就業	交替で休んだ	いつせい休業	小計	平常就業	交替で休んだ	いつせい休業	小計	平常就業	交替で休んだ	いつせい休業
計		2792	100	% 29.3	% 6.5	% 48.5	% 15.7	% 50.4	% 3.2	% 2.2	% 44.2	% 3.8	% 1.5	% 0.4
規模	30~99人	936	100	24.3	5.3	51.4	19.0	54.7	2.2	2.2	49.0	2.2	1.1	0.2
	100~499人	969	100	28.4	5.6	49.0	17.0	50.3	4.0	1.9	43.4	4.6	1.7	0.3
	500人以上	887	100	35.6	8.8	44.8	10.8	46.1	3.4	2.5	40.0	4.5	1.8	0.8
職種	生産労働者	1244	100	25.3	6.5	53.5	16.7	53.2	2.5	2.1	47.8	4.3	1.3	0.6
	職員等	1491	100	32.7	7.2	44.9	15.2	48.4	3.9	2.1	41.6	3.4	1.6	0.2
年齢	20代	485	100	32.2	5.5	48.5	13.8	47.4	3.9	1.0	41.5	4.9	1.4	0.6
	30代	1236	100	30.5	7.6	48.0	13.9	49.7	2.8	2.4	44.0	3.6	1.5	0.4
	40代	630	100	26.0	6.9	51.6	16.5	55.1	3.0	2.5	48.0	3.2	1.8	0.6
	50代以上	409	100	28.6	5.9	44.0	21.5	48.2	3.9	2.4	41.4	3.7	1.2	—
地域	7大都市	1039	100	33.0	7.0	43.5	16.5	47.2	3.8	1.8	40.6	5.2	1.9	0.6
	その他	1753	100	27.1	6.2	51.4	15.3	52.4	2.9	2.4	46.3	3.0	1.3	0.3

		お ぼ ん				夏				そ の 他				不 明
		小 計	平 常 就 業	交 替 で 休 ん だ	い つ せ い 休 業	小 計	平 常 就 業	交 替 で 休 ん だ	い つ せ い 休 業	小 計	平 常 就 業	交 替 で 休 ん だ	い つ せ い 休 業	
計		5.0	1.5	2.1	0.9	10.2	7.1	2.1	0.9	18.5	15.5	1.3	0.5	15.4
規 模	30～99人	4.8	1.8	1.5	0.5	7.4	5.4	1.5	0.5	15.7	12.6	1.1	0.7	18.1
	100～499人	5.1	1.4	1.4	1.5	10.6	7.8	1.4	1.5	16.0	13.8	1.3	0.3	17.0
	500人以上	5.1	1.4	3.6	0.8	12.6	8.0	3.6	0.8	24.1	20.1	1.6	0.6	26.4
職 種	生産労働者	6.6	1.4	1.0	1.3	8.2	5.7	1.0	1.3	17.3	14.3	1.2	0.9	20.2
	職員等	3.7	1.6	3.1	0.7	11.8	8.0	3.1	0.7	19.7	16.5	1.4	0.3	14.7
年 令	20代	5.6	2.1	1.6	1.4	10.7	7.7	1.6	1.4	18.6	16.2	1.2	0.6	14.0
	30代	4.9	1.4	3.0	1.0	12.0	7.9	3.0	1.0	19.8	16.2	1.5	0.7	13.5
	40代	5.4	1.6	1.7	0.8	9.0	6.3	1.7	0.8	14.9	12.4	1.3	0.2	15.7
	50代以上	4.4	1.5	0.7	0.5	6.1	4.9	0.7	0.5	21.0	17.6	1.2	0.5	21.3
地 域	7大都市	3.3	1.8	3.6	1.1	12.5	7.9	3.6	1.1	18.2	16.0	0.6	0.4	16.5
	その他	6.0	1.4	1.3	1.0	8.8	6.6	1.3	1.0	18.7	15.1	1.8	0.6	14.6

事業所規模別にみると、対象者がいちばん長く休んだ時は小規模はどいつせい休業時が多く、大規模はど平常就業時が多いが、交替休みは大規模でやや高まっている。休んだ時期別にみると、小規模はど正月のいつせい休業時にあたるものが多く、大規模はど夏やその他の平常就業時にあたるものが増加している。五月の連休やおぼんは小規模にとくに少ないが、中・大規模でやや増えており、うち、いつせい休業がやや多い。交替で休んだは、大企業、夏、正月、4日立つ程度である。

職種別にみると、生産労働者の場合、一番長く休んだときの事業所の就業状態はいつせい休業というものが著しく高く、休んだ時期は正月というものが大半である。五月の連休、おぼんも生産労働者がやや上まわっており、いずれもいつせい休業が多い。これに対して職員層はいつせい休業の割合が減少して、平常就業が増加し、交替で休んだものもいくぶん生産労働者より高い。休んだ時期は正月がやや少なくなつて、夏やその他の時期が増え、五月連休やおぼんも少なから平常就業のものが多い。

年齢別に休んだ時期の事業所の就業状態をみると、いつせい休業は40代でもっとも多く、

平常就業は20代や30代が多い。

休んだ時期別には40代は正月のいつせい休業が多く、20代、30代は、夏やその他の時期の平常就業が多く、おぼんや連休のいつせい休業もわずかながら高まる。50代以上はその他の時期の平常就業が他の年齢層を上まわっている。

地域別には、7大都市に平常就業が高まり、7大都市以外の地域はいつせい休業が高率を示すが、時期別にみても、7大都市では夏の平常就業、7大都市以外では、正月のいつせい休業が上まわっている。五月連休は7大都市、おぼんは7大都市以外の地域で若干上まわりをみせ、どちらもいつせい休業の方が多い。

(7) いちばん長く休んだ日数

いちばん長く休んだときの平均日数は4.7日（年休にかぎらない）、日数別分布をみると4～6日が最も多い約4割、ついで3日が約2割で、1週間未満に約7割が含まれている。1週間以上というものは約1割であるが、2週間以上は1.3%でいとわずかである。（回答不明が2割弱とやや高かつた。）いちばん長いときで2日以下というものが約1割ある。

休んだ日数と事業所の就業状態との関連をみると、もつとも分布の多い日数4～6日ではいつせい休業が大部分であり、3日及び7～9日の範囲になると平常就業の割合が高まるが依然としていつせい休業の割合が上まわっている。2日以下及び10日以上は、件数は非常に少ないが、この場合は平常就業が大部分である。

勤労者のもつとも長い休暇は、正月に事業所がいつせい休業して4～6日ていと休むものが最も多いといえる。

もつとも長く休んだときの平均日数は小企業、生産労働者、年齢40代、7大都市ほど長く、大企業、職員層、年齢50代、7大都市以外の地域はやや短くなっているが、全般にその差は少なく、最長と最短で0.5日位の開きとなつている。日数別分布をみるとどの階層をとつても4～6日への分布が約4割ともつとも多いが、平均日数の長い小企業・生産労働者・7大都市はど分布がやや日数の多い方へ偏る傾向がみられる。ただし、年齢別には、高年齢ほど3日以下の分布が多く、若年層ほど4日以上分布が多い傾向を示している。

第45表 規模別、職種別、年令別、地域別いちばん長く休んだ日数
及び事業所の就業状態

		平均 日数	2 日					1 日				
			求 数	%	平 常 就 業	交 替 で 休 ん だ	い つ せ い 休 業	不 明	小 計	平 常 就 業	交 替 で 休 ん だ	い つ せ い 休 業
計		4.7	2,792	100	29.3	6.5	48.5	1.57	1.5	1.1	0.1	0.2
規 模	30～99人	5.0	936	100	24.3	5.3	51.4	1.90	1.6	1.3	0.1	—
	100～499人	4.7	969	100	28.4	5.6	49.0	1.70	1.1	0.7	0.1	—
	500人以上	4.4	887	100	35.6	8.8	44.8	1.08	1.6	1.2	0.1	—
職 種	生産労働者	5.1	1,244	100	25.3	5.5	53.5	1.57	0.6	0.3	0.2	0.1
	職 員 等	4.3	1,491	100	32.7	7.2	44.9	1.52	2.1	1.5	0.1	0.3
年 令	20 代	4.8	485	100	32.2	5.5	48.5	1.38	0.2	0.2	—	—
	30 代	4.6	1,236	100	30.5	7.6	48.0	1.39	1.4	1.2	—	—
	40 代	5.1	630	100	26.0	5.9	51.6	1.65	2.1	1.6	0.3	0.2
	50 代以上	4.5	409	100	28.6	5.9	44.0	2.15	2.4	1.0	0.2	1.0
地 域	7 大都市	4.8	1,039	100	33.0	7.0	43.5	1.65	1.0	0.3	—	0.4
	そ の 他	4.6	1,753	100	27.1	6.2	51.4	1.53	1.8	1.5	0.2	0.1

		2 日				3 日				4 ~ 6 日			
		小	平	交	い	小	平	交	い	小	平	交	い
		計	常 就 業	替 で 休 ん だ	つ せ い 休 業	計	常 就 業	替 で 休 ん だ	つ せ い 休 業	計	常 就 業	替 で 休 ん だ	つ せ い 休 業
計		% 9.0	% 5.8	% 1.6	% 1.5	% 19.5	% 7.2	% 2.3	% 9.7	% 40.3	% 8.0	% 1.5	% 3.8
規 模	30~99人	5.4	2.8	1.3	1.2	17.7	5.0	1.5	11.0	40.8	7.9	1.6	31.0
	100~499人	10.1	6.5	1.7	1.8	18.7	7.7	1.2	9.4	39.9	6.7	1.7	31.1
	500人以上	11.6	8.0	1.8	1.5	22.2	8.9	4.4	8.7	40.3	9.5	1.2	29.1
職 種	生産労働者	8.3	4.9	1.4	1.8	15.4	4.8	1.5	8.9	43.6	7.1	1.4	34.2
	職員等	9.7	6.7	1.7	1.1	23.3	9.3	3.1	10.6	38.3	8.7	1.4	27.9
年 令	20代	8.0	4.9	1.2	1.7	17.1	6.2	1.2	9.1	42.7	10.7	1.0	30.4
	30代	9.4	5.8	1.9	1.5	19.8	7.7	3.4	8.7	41.9	8.7	1.5	31.4
	40代	8.7	5.2	1.9	1.6	20.6	7.6	1.6	11.1	40.6	6.3	1.3	32.5
	50代以上	9.8	7.6	0.7	1.0	20.5	6.6	1.7	11.5	32.2	5.4	2.4	24.2
地 域	7大都市	8.3	6.0	1.3	0.9	18.4	8.4	3.3	6.2	40.3	10.3	1.4	28.5
	その他	9.8	5.6	1.8	1.8	20.1	6.5	1.8	11.6	40.3	6.6	1.5	31.6

		7 ~ 9日				10 ~ 13日				14日以上				不 明
		小 計	平 常 就 業	交 替 で 休 ん だ	い つ せ い 休 業	小 計	平 常 就 業	交 替 で 休 ん だ	い つ せ い 休 業	小 計	平 常 就 業	交 替 で 休 ん だ	い つ せ い 休 業	
計		% 8.7	% 3.0	% 0.4	% 5.1	% 2.0	% 1.3	% 0.1	% 0.6	% 1.3	% 1.0	% 0.1	% 0.2	% 17.7
規 模	30~99人	9.4	2.8	0.2	6.2	2.6	1.4	0.2	1.0	2.1	1.6	0.1	0.4	20.4
	100~499人	8.2	2.6	0.5	5.0	2.0	1.6	0.1	0.3	0.8	0.8	—	—	19.2
	500人以上	8.7	3.7	0.6	4.1	1.4	0.8	0.1	0.5	0.8	0.6	0.1	0.1	13.4
職 種	生産労働者	10.8	3.7	0.6	6.3	2.0	1.1	0.2	0.7	1.8	1.4	0.1	0.3	18.1
	職員等	6.9	2.3	0.3	4.1	2.0	1.4	0.1	0.5	0.8	0.6	0.1	0.1	16.9
年 令	20代	12.4	5.2	1.0	6.2	3.5	2.7	0.6	0.2	1.0	1.0	—	—	15.1
	30代	8.9	3.3	0.3	4.9	2.2	1.1	0.1	1.0	0.7	0.5	—	0.2	15.7
	40代	6.2	1.4	—	4.3	0.8	0.6	—	0.2	2.1	1.9	—	0.2	18.9
	50代以上	7.4	2.0	—	5.2	1.2	1.0	—	0.2	2.0	1.3	0.5	0.2	24.5
地 域	7大都市	11.1	4.1	0.6	6.3	1.7	1.0	0.1	0.6	1.0	1.0	—	—	18.2
	その他	7.4	2.3	0.3	4.5	2.1	1.4	0.2	0.5	1.4	1.0	0.1	0.3	17.4

(注1) 休んだ日数は年休に限らず休日や祝祭日も含む。

一番長く休んだ日数と事業所の就業状態を関連づけてみると、小企業、生産労働者、年令40代、7大都市以外の地域は4~6日のいつせい休業の割合が非常に高く、大企業、職員層、若年層、7大都市の場合は、4~6日のいつせい休業が減少して、全般に平常就業の割合が1週間未満の範囲で徐々に高まる。この動きは、前者に正月のいつせい休業が多く、後者に夏やその他の時期の平常就業が多い傾向と一致する。

(8) 希望する年休のとり方

希望する年休のとりかたとしては、少しずつとりたいたいものが多い。年休をあるていどまとめてとりたいたいと思うか、それとも必要なときに少しずつとりたいたいと思うか希望をとつたところ、あるていどまとめてとりたいたいと希望するものは34.9%（うち、まとめてとりたいたい14.3%、まとめてとるのと少しずつとるのと両方の組合せがよい20.6%）、少しずつとりたいたいと希望するものが42.2%であり、とくに希望はないと答えたものが14.7%である。

まとめてとる期間としては大体1週間程度を希望するものが大部分である。さきに見たとおり、年休以外の休日を含めて実際に1週間以上休んだものは1.2%にすぎないから、まとめてとることを希望するもの（34.9%）のうち実際にまとめて休暇をとっているものは少数である。

第46表 規模別、職種別、世帯収入階級別、年齢別、地域別
年次有給休暇の希望するとり方

		総 数		あるていどまとめてとりたい								少 し ず つ と り た い	と く に 希 望 は な い	不 明
				計	まとめてとりたい				両方の組み合わせがよい					
		実 数	%		小 計	1 週 間 ぐ ら い	2 週 間 ぐ ら い	3 週 間 ぐ ら い	小 計	まとめてと る時の日数				
										1 週 間 間 い	2 週 間 間 い			
	計	2,792	100	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
規 模	30~99人	936	100	3.2	1.6	12.8	1.3	1.4	15.4	11.1	0.4	3.8	1.4	7.0
	100~499人	969	100	3.4	1.3	10.9	1.3	0.4	21.4	15.6	0.5	4.2	1.5	7.0
	500人以上	887	100	3.8	1.3	11.2	0.9	0.3	25.4	19.2	0.5	4.5	1.4	2.3
職 種	生産労働者	1,244	100	23.0	10.6	8.0	1.0	0.6	12.4	7.7	0.2	5.0	1.6	10.2
	職員等	1,491	100	4.5	1.7	14.5	1.3	0.9	28.0	21.9	0.7	3.5	1.3	6.3
世 帯 収 入 階 級	~2万円	77	100	20.8	9.1	6.5	—	2.6	11.7	9.1	—	5.0	1.5	13.0
	2~3万円	477	100	29.9	13.8	10.3	1.7	0.6	16.1	10.5	0.4	4.8	1.3	8.3
	3~4万円	796	100	35.3	14.8	12.6	1.1	0.1	20.5	15.7	0.4	4.6	1.1	6.6
	4~5万円	534	100	36.9	14.4	12.0	2.0	0.2	22.5	18.2	0.4	3.9	1.7	6.0
	5~6万円	304	100	40.8	15.1	11.8	1.3	1.3	25.7	19.4	0.3	3.7	1.4	6.6
	6~7万円	148	100	47.9	24.3	23.0	—	1.3	23.6	22.3	—	2.7	1.8	6.1
	7万円以上	189	100	47.1	13.2	11.6	0.5	1.1	33.9	23.3	2.1	6.4	1.5	3.2
年 令	20代	485	100	41.0	15.0	12.0	1.2	0.8	26.0	20.2	0.8	3.6	1.5	7.0
	30代	1,236	100	39.7	16.7	13.4	1.8	0.8	23.0	17.4	0.5	3.8	1.4	7.1
	40代	630	100	29.5	11.1	9.1	0.6	0.3	18.4	13.3	—	4.7	1.4	—
	50代以上	409	100	22.5	11.2	10.0	0.2	1.0	11.3	6.4	0.7	5.1	1.4	—
地 域	7大都市	1,039	100	41.3	16.2	13.9	1.1	0.6	25.1	17.9	0.8	3.4	1.6	8.4
	その他	1,753	100	31.2	13.2	10.2	1.3	0.8	18.0	13.7	0.4	4.6	1.3	8.0

ることがうかがわれる。

あるていどまとめてとりたいものは職員層、高所得層、若年層、小企業、7大都市はと多く、
少しずつとりたいものは生産労働者、低所得層、高年層、大企業、7大都市以外の地域が多い。
とくに希望のないものは、生産労働者、7大都市にやや多くみられる。

あるていどまとめてとりたいと希望するものを、更に「まとめてとりたいもの」と、「まと

めてとるのと少しずつとるのと両方の組み合わせがよい」ものとに分けてみると、大まかにいつて、
まとめてとりたいもの約4割、両方の組み合わせがよいもの約6割の割合となつてゐるが、大
企業、職員層、高所得層、若年層、7大都市はと両方の組み合わせを希望するものの割合が高く、
まとめてとるとに強い欲求度を示めたものは小企業であつた。

2. 残業についての意識

残業についての夫の意識をとつたところ、残業はなるべくない方がよいと答えたものが57.3
%で、収入が増えるから残業は多い方がよいと答えたものが16.3%、ほどほどにあるくらいが
よいと答えたものが25.5%で、あわせて41.8%が何かしかの残業を希望している。どちらとも
もいえないというものが10.5%ある。ほどほどにある位がよいと思うもののうち、希望する日
数としては1カ月につき6~10日位が最も多く(約3.5割)、ついで1~5日(約2割)、
11~15日(約2割弱)の順で、15日以下が大部分である。

第47表 規模別、職種別、世帯収入階級別、年齢別、地域別
残業についての意識

		総 数		残業はなるべくない 方がよい	収入が増える から残業は 多い方がよい	ほどほどに残業があるくらいがよい		
		実 数	%			小 計	1~5日	6~10日
	計	2,792	100	%	%	%	%	%
規 模	30~99人	936	100	37.1	15.3	21.8	3.0	8.0
	100~499人	969	100	38.1	14.7	26.4	6.5	8.4
	500人以上	887	100	36.8	18.0	29.5	7.8	9.7
職 種	生産労働者	1,244	100	24.0	25.4	31.8	6.9	8.7
	職員等	1,491	100	48.5	7.8	21.1	4.8	8.6
世 帯 収 入 階 級	~2万円	77	100	18.2	35.1	24.7	7.8	10.4
	2~3万円	477	100	31.7	19.5	30.2	8.0	9.4
	3~4万円	796	100	36.3	19.5	26.8	5.8	8.7
	4~5万円	534	100	42.8	11.8	24.2	6.2	8.8
	5~6万円	304	100	36.8	12.8	28.3	6.6	8.9
	6~7万円	148	100	51.4	8.8	18.9	6.7	4.1
	7万円以上	189	100	50.8	5.3	21.7	6.5	10.1
年 令	20代	485	100	36.5	14.2	28.2	5.2	12.0
	30代	1,236	100	40.4	15.5	24.4	5.5	8.5
	40代	630	100	34.4	17.3	25.9	5.6	7.6
	50代以上	409	100	34.7	16.6	26.7	7.3	7.1
地 域	7大都市	1,039	100	41.3	12.7	23.0	2.4	9.0
	その他	1,753	100	35.0	17.9	27.6	7.7	8.6

		ほどほどに残業があるくらいがよい				どちらとも いえない	その他	不明
		11～15日	16～20日	21日以上	不明			
計		%	%	%	%	%	%	%
規模	30～99人	3.5	1.7	—	5.6	12.2	5.7	7.9
	100～499人	5.0	1.7	0.6	5.2	11.0	5.1	4.7
	500人以上	5.9	1.2	1.0	3.9	8.1	4.2	3.4
職種	生産労働者	6.9	1.6	1.2	6.5	10.5	3.4	4.9
	職員等	2.8	0.9	0.3	3.7	10.7	6.4	5.5
世帯収入階級	～2万円	1.3	2.6	—	2.6	6.5	2.6	12.9
	2～3万円	5.9	0.6	0.4	5.9	10.3	4.4	3.9
	3～4万円	5.0	1.6	0.5	5.2	9.4	4.6	3.4
	4～5万円	4.9	0.6	0.4	3.3	10.3	5.8	5.1
	5～6万円	4.3	2.3	—	6.2	9.5	6.6	6.0
	6～7万円	2.0	0.7	1.3	4.1	12.8	6.8	1.3
	7万円以上	5.3	2.1	1.1	2.6	12.2	5.8	4.2
年齢	20代	5.4	1.6	0.2	3.8	9.3	8.0	3.8
	30代	4.7	1.1	0.4	4.2	11.0	4.1	4.6
	40代	4.8	0.6	1.0	6.3	10.6	5.7	6.1
	50代以上	3.7	2.3	0.2	6.1	10.5	2.9	8.6
地域	7大都市	5.0	0.7	1.1	4.8	11.5	5.8	5.7
	その他	4.5	1.5	0.2	5.1	9.9	4.5	5.1

残業はない方がよいというものは職員層、高所得層、30代、7大都市に多く、収入が増えるから多い方がよいというものは生産労働者、低所得層、40代、7大都市以外の地域に多い。ほどほどにある位がよいというものは大企業、生産労働者、低所得層、20代、7大都市以外の地域に多い。これらのうち、職種別、所得別の残業に対する意識はきわだつた対照を示めして、残業はない方がよいと希望するものは職員層約5割、生産労働者約2.5割、残業が多い方がよいと希望するものは職員層約8割、生産労働者約2.5割、ほどほどにある位がよいと希望するものは職員層約2割、生産労働者約3割と各々差が開いている。所得別にも職種別同様明らかな格差がみられるが、とくに収入2万円未満の残業は多いほうがよいと希望するものが約3.5割と高率を示めしているが目立っている。

V 住居の主要設備、耐久消費財及び教養娯楽関係消費財

住居の主要設備としての水道・電気モーター式井戸の設備状況、炊事用ガス・石油コンロ・電熱器や暖房用ガス・石油・電気ストーブ及び電気こたつなど熱器具の設備状況、その他耐久消費財の保有状況及び各種ゲーム類やスポーツ用具などの教養・娯楽関係消費財の保有状況を職種別にみると次表のとおりである。また家庭管理者としての妻が最低どの程度を必要としているか保有希望状況もあわせかかげた。

第48表 職種別住居の主要設備及び耐久消費財、
教養娯楽関係消費財の保有状況

	あ る 世 帯			ぜ ひ ほ し い 世 帯 (妻)		
	計	生産労働者	職員等	計	生産労働者	職員等
	%	%	%	%	%	%
1～2に○ある世帯	85.4	80.3	90.1			
1 水 道	74.4	70.7	77.9	5.1	5.5	4.9
2 モーター井戸	14.1	12.8	15.2	3.5	3.4	3.5
3～5に○ある世帯	95.9	93.3	98.4			
炊 3 ガ ス	84.0	75.2	83.9	7.3	9.5	5.7
事 4 石 油 コ ン ロ	25.0	28.1	22.7	1.9	1.2	0.6
用 5 電 熱 器	36.9	32.4	41.2	3.3	3.6	3.1
6～9に○ある世帯	83.8	75.9	90.5			
暖 6 ガ ス ス ト ー ブ	13.3	6.6	19.2	5.7	5.2	6.3
房 7 石 油 ス ト ー ブ	33.2	27.0	38.2	8.9	10.1	7.8
用 8 電 気 ス ト ー ブ	9.4	3.6	14.5	6.1	7.8	4.8
9 電 気 こ た つ	73.9	67.6	79.2	6.4	8.0	5.2
10 電 気 洗 濯 機	73.2	66.7	78.8	16.4	20.7	13.1
11 電 気 (ガ ス) 冷 蔵 庫	57.9	45.6	68.3	27.7	33.3	23.2
12 電 気 (ガ ス) が ま	71.5	65.4	77.4	7.3	9.5	5.6
13 テ レ ビ	94.9	94.2	95.9	3.1	3.0	3.3
14 ラ ジ オ	84.3	78.6	89.4	1.7	2.2	1.3
15 蓄音機・ステレオ プレーヤー	35.2	23.7	45.0	22.0	20.3	23.8
16 カ メ ラ	60.1	48.6	71.3	18.1	21.7	15.0
17 撮 影 機	3.1	1.4	4.6	12.3	8.7	15.7
18 ビ ア ノ	2.9	0.2	5.2	13.8	10.2	16.8
19 オ ル ガ ン	11.1	7.8	13.8	10.1	10.7	9.6
20 パ イ オ リ ン	2.0	1.0	3.0	0.9	1.1	0.8
21 ギ タ ー	8.6	6.6	10.1	3.0	3.8	2.5
22 ウ ゴ レ レ	4.1	3.4	4.8	0.9	0.9	1.0
23 その他の楽器	13.6	10.7	15.7	1.4	1.4	1.4
24 妻の本箱(棚)	23.0	17.4	27.6	10.6	9.5	11.7
25 夫の本箱(棚)	44.3	30.2	56.0	10.2	8.8	11.6

				あ る 世 帯			ぜ ひ ほ し い 世 帯 (表)		
				計	生産労働者	職員等	計	生産労働者	職員等
				%	%	%	%	%	%
26	自	転	車	63.4	68.6	58.8	5.4	4.8	6.1
27	オート	バイ		21.3	27.8	15.9	7.5	10.1	5.3
28	スクーター	自	動	6.2	4.0	7.9	23.8	17.9	28.9
29		自	動	21.7	13.8	28.5	1.5	1.3	1.7
30	し	よ	う	34.2	33.6	34.9	1.1	1.6	0.7
31	チ	エ	ス	2.7	0.9	4.2	0.6	0.6	0.7
32	マ	ー	ジ	13.9	7.2	19.7	2.0	2.0	1.9
33	ト	ラ	ン	59.5	50.8	67.1	1.2	1.7	0.8
34	花		札	24.4	21.7	26.9	0.4	0.7	0.1
35	か	る	た	32.4	30.0	34.4	1.2	1.6	1.0
36	ダイヤモンド	グ	ラ	10.4	7.7	12.3	0.8	1.4	0.3
37	園	芸	用	26.0	21.2	29.9	6.4	5.4	7.4
38	パ	ト	ミ	24.9	22.3	27.2	2.4	2.7	2.1
39	ボ	ー	ル	33.7	32.8	35.1	0.5	0.7	0.3
40	野	球	用	28.2	27.4	29.3	1.4	2.0	0.9
41	テ	ニ	ス	8.7	6.0	11.1	1.3	1.3	1.4
42	ビ	ン	ボ	13.2	13.0	13.6	2.9	3.0	2.9
43	ス	キ	ー	12.1	8.2	15.4	3.2	2.8	3.7
44	ス	ケ	ー	8.9	5.7	11.6	1.9	1.6	2.2
45	つ		り	35.4	38.7	33.0	2.3	2.4	2.4
46	ゴ	ル	フ	5.0	0.4	8.8	2.3	1.6	2.9
47	餃			1.8	1.7	1.8	2.0	2.6	1.4

注) 回答総数(計2751、生産労働者世帯1221、職員等1469)÷100

1. 水道及び電気モーター式井戸の設備状況

住居の主要設備としての水道及び電気モーター式井戸の設備状況は、水道のある世帯74.4%、電気モーター式井戸のある世帯14.1%で、水道か電気モーター式井戸のどちらかがある世帯は全体の85.4%である。職種別にみれば、水道か電気モーター式井戸のどちらかがあるものは生産労働者世帯80.3%(うち水道70.7%、モーター井戸12.8%)、職員等世帯90.1%(うち水道77.9%、モーター井戸15.2%)で、職員等世帯が約1割ほど上まわっている。

水道やモーター井戸の設備をぜひ欲しい世帯は水道5.1%、モーター井戸3.5%で、生産労働者世帯にやや多い。

2. 炊事用ガス、石油コンロ、電熱器の設備状況

炊事用のガスや石油コンロ、電熱器の設備のある世帯はそれぞれ80.0%、25.0%、36.9%であり、このうちどれかひとつそなわっている世帯は95.9%である。職員等世帯のガス普及率が高く(生産労働者70.7%、職員等86.9%)、石油コンロの保有率は生産労働者世帯に高い(生産労働者28.1%、職員等22.7%)。電熱器の保有率は職員等世帯が約1割ほど上まわる(生産労働者32.4%、職員等41.2%)。

これら炊事用諸設備について、ぜひ欲しい世帯は全体の約1割ほどであるが、未保有世帯のうちぜひ欲しいと要望の高いのはガス(約4割)で、生産労働者世帯に多い。

3. 暖房用ガス・石油・電気ストーブ及び電気こたつの設備状況

各種暖房器具のうちもつとも保有率の高いのは電気こたつの73.9%で、(今回調査の耐久消費財中第3位の保有率を示す)、これに比してストーブ類の設備は概して低く、石油ストーブ33.2%、ガスストーブ13.3%、電気ストーブ9.4%の順となつている。これらの暖房器具のうちどれか一つある世帯は全体の83.8%である。炊事用の熱器具に比べると、暖房用熱器具の設備状況はやや分つており、とくに生産労働者世帯の低さが目立ち、(炊事用——生産労働者93%、職員等98%、暖房用——生産労働者76%、職員等91%)、種類別にみても、どの種類の保有率も職員等世帯を大幅に下まわっている。

ぜひ欲しい世帯は、どの種類についても全世帯の6~8%ほどであるが、未保有世帯のうちもつとも妻が必要と感じているものは電気こたつ(約2.5割)で、ストーブ類を希望するものは割合少ない。ストーブのうちでは石油ストーブをぜひ欲しいというものが多く(約1.5割)、生産労働者世帯に強い希望が示されている。

4. 耐久消費財の保有状況

耐久消費財の保有率は一般に全国平均を上回っているが(昭和39年8月経済企画庁「消費動向予測調査——家庭電化製品等の品目の点で全国平均を上まわる」)職種別にかなり大きな格差があらわれている。

保有率の高い順にあげると①テレビ94.9% ②ラジオ84.3% ③電気こたつ73.9% ④電気洗濯機73.2% ⑤電気(ガス)がま71.5% ⑥自転車63.4% ⑦カメラ60.1% ⑧電気(ガス)冷蔵庫57.9% ⑨夫の本箱44.3% ⑩ステレオ・蓄音機35.4%となつている。

保有世帯が過半数に達している品目は、テレビ、ラジオ以下電気(ガス)冷蔵庫までの上記8品目であるが、生産労働者世帯にあつては電気(ガス)冷蔵庫、カメラを除く6品目、職員等世帯にあつては夫の本箱を加えた9品目である。両職種とも最も保有率の高いのはテレビで、ほとんど大部分の世帯(約9.5割)が保有しているが、ラジオ以下の品目になると職員等世帯の保有

率がかかなり高い。ただし自転車、オートバイ・スクーターは生産労働者世帯がかかなり高い水準を示している。

ピアノ、オルガンなど楽器類の耐久消費財は、家庭電化製品などの耐久消費財にくらべてかなり保有率が低く、最も保有率の高いものでもオルガン1.1%、ギター8.6%にとどまり、ピアノ、バイオリンは各々2.9%、2.0%と低率であるが、職種別にみると生産労働者世帯の保有率は更に低減している。生活必需品にくらべて、文化教養面の耐久消費財の保有率はかなり低いのが現状であろう。

夫と妻の本箱の保有状況は、妻は夫より、生産労働者世帯は職員等世帯より大幅に保有率が低い。

過去3年間(37～39年)の本調査結果にみられる耐久消費財保有率の動きをみると次表のとおりである。(各年度によつて調査品目が若干異なるので、一致する主なものをかかげた)

	37年	38年			39年		
		小計	生産労働者	職員等	小計	生産労働者	職員等
	%	%	%	%	%	%	%
テレビ	8.1	9.2	8.8	9.5	9.5	9.4	9.6
電気釜	6.1	6.9	6.2	7.6	7.2	6.5	7.7
電気洗濯機	5.8	7.0	6.0	8.1	7.3	6.7	7.9
電気・ガス冷蔵庫	3.1	5.3	4.0	6.6	5.8	4.6	6.8
自転車	7.7	7.1	7.9	6.5	6.3	6.9	5.9
カメラ	4.8	5.9	4.6	7.1	6.0	4.9	7.1
ストーブ(ガス)	—	1.3	7	1.8	1.3	7	1.9
“(電気)		1.0	5	1.5	9	4	1.5
“(石油)		2.5	8	3.0	3.3	2.7	4.0
電気こたつ	—	2.0	6.3	7.6	2.4	6.7	8.0
ピアノ		2	3	1	3	—	5
オルガン		8	1.2	8	1.1	8	1.4
乗用車	2	4	2	6	6	4	8

注) 39年の電気釜にはガス釜を含み、乗用車には乗用車以外の自動車も含む。

耐久消費財の保有率は毎年高まっているが、とくにその増勢は38～39年よりも37～38年にかけて著しい。しかし38～39年の伸びが前年に比べやや鈍くなつたとはいえ、依然としてほとんどの品目について増加傾向が保たれており、その内容も生産労働者世帯の伸びが大きくわずかながら職種別格差の改善のあとがみられる。例外的に保有率が年々減少しているものとして、自転車あげられる。

ぜひほしい耐久消費財として電気(ガス)冷蔵庫、電気洗濯機、カメラ等をあげる妻が多く、未保有世帯の各々約6.5割、6割、4.5割の妻がぜひ欲しいものとしてあげている。95%の保有率を示すテレビについても未だ全体の3%がぜひほしいと望んでおり、未保有世帯の希望程度でみれば、とくに職員等世帯に約8割と強い欲求が示されている。その他職員等世帯では自動車、ステレオを求めるものが多く、生産労働者世帯ではオートバイ・スクーターへの希望が職員層を上まわり、電気釜のない世帯の電気釜への希望もかなり強いものがある。

楽器類のうちではピアノ、オルガンをぜひほしいという妻が全体の1～1.5割でいどであるが、職員層にピアノ、生産労働者層にオルガンをあげる率が高い。

夫と妻の本箱については、どちらも全世帯の約1割がぜひほしいと望んでおり、職員層の方がやや高い割合を示しているが、未保有世帯の本箱への希望をみると、妻が自分の本箱よりも夫の本箱をぜひほしいと望む傾向が強くなり、とくに職員層の妻に希望するものが多いことが注目される。(職員層 — 妻の本箱17.0%、夫の本箱26.5%)。

5 教養娯楽関係消費財の保有状況

ゲーム類やスポーツ用具など19品目(第49表中29～47まで)のうち、保有率の高いのは①トランプ5.9.5% ②つり具3.5.4% ③しょうぎ3.4.2% ④ボール3.3.7% ⑤かるた3.2.4% ⑥園芸用具2.6.0% ⑦バドミントン2.4.9% ⑧花札2.4.4% ⑨碁2.1.7% ⑩マージャン1.3.9%等であり、つり具の他は職員等世帯の保有率が高い(但し子供の有無や家族構成に関係なく並べた)。

ぜひほしいものとして園芸用具、スキー、バドミントン、つり具、ゴルフなどをあげる妻が多いが、その割合は2～6%でいと統して低率である。娯楽用具の希望は家族構成によつてかなり異なるものと思われ、又、妻の意識ではなく夫の意識を問えば大分相違した結果がでるものと予想されるが、今回の調査は妻の平均的な保有希望を掲げている。

Ⅱ 家庭及び消費生活各面における文化、教養面の充足感

1. 家庭についての充足感

家庭が家族の(自分自身を含めて)いどの場としてこのまじい状態にあるかどうか、家庭に対する満足感をみると、夫、妻とも約2割が非常に満足と答え(夫19.0%, 妻18.0%), 過半数がだいたい満足しており(夫56.3%, 妻55.8%), どちらともいえないは約1割(夫11.5%, 妻10.9%)で、やや不満(夫6.8%, 妻7.9%), 非常に不満は(夫2.9%, 妻2.9%)非常に低い。大ざっぱにみると、約 $\frac{3}{4}$ が一応の満足感を示し、約2割が満足感を保留又は否定していることになる。このように家庭に対する満足感は夫も妻もかなり高い結果があらわれているが、妻は夫にくらべてやや不満に傾いているといえよう。

第49表 職種別、世帯収入階級別、年齢別、夫と妻の家庭についての満足感

		総 数		非常に満足	だいたい満足	どちらともいえない	やや不満	非常に不満	不明
		実 数	%						
夫	計	2,792	100	19.0%	56.3%	11.5%	8.8%	2.9%	3.5%
	職種								
	生産労働者	1,244	100	18.4	52.8	13.5	7.8	2.9	4.6
	職員等	1,491	100	19.5	59.8	9.6	5.8	3.0	2.3
	世帯収入階級								
	～2万円	77	100	16.9	44.1	19.5	10.4	3.9	5.2
	2～3万円	477	100	17.0	54.9	12.6	7.1	4.4	4.0
	3～4万円	796	100	18.1	60.1	10.0	6.7	2.6	2.5
	4～5万円	534	100	18.2	57.5	9.2	10.3	3.9	0.9
	5～6万円	304	100	21.7	58.6	14.8	2.3	1.3	1.3
	6～7万円	148	100	20.9	66.2	6.8	3.4	0.7	2.0
	7万円以上	189	100	28.6	52.4	10.1	7.9	0.5	0.5
	年齢								
妻	20代	485	100	20.4	52.2	13.4	7.4	4.1	2.5
	30代	1,236	100	17.9	56.0	11.8	8.1	3.1	3.1
	40代	630	100	18.1	58.4	11.3	5.9	3.0	3.3
	50代以上	409	100	21.8	59.9	7.8	3.4	1.2	5.9
	計	2,792	100	18.0	55.8	10.9	7.9	2.9	4.5
	職種								
	生産労働者	1,244	100	18.1	51.8	13.0	8.8	2.6	5.7
	職員等	1,491	100	17.9	59.8	9.1	7.0	3.1	3.1
	世帯収入階級								
	～2万円	77	100	13.0	55.8	11.7	10.4	7.8	1.3
	2～3万円	477	100	16.4	53.9	12.8	10.2	3.8	2.9
	3～4万円	796	100	18.4	57.3	11.9	7.9	2.5	2.0
	4～5万円	534	100	18.5	59.4	9.4	9.2	2.2	1.3
	5～6万円	304	100	19.1	60.2	11.2	5.6	2.6	1.3
	6～7万円	148	100	25.7	62.2	4.7	4.7	0.7	2.0
	7万円以上	189	100	19.0	59.9	6.3	7.9	6.4	0.5
	年齢								
	20代	952	100	20.5	53.5	8.2	8.2	2.7	3.2
	30代	1,060	100	17.0	54.5	9.1	9.1	2.7	4.6
	40代	593	100	15.5	61.1	6.4	6.4	3.4	5.2
	50代以上	168	100	20.2	60.6	4.2	4.2	3.0	6.0

家庭に対する満足感は、職種、収入、年齢どれをとっても満足度はかなり高いが、更に細部にわたって観察するといくぶん変化がみられる。

職種別にみると、夫、妻とも職員層の満足度がやや高く、生産労働者層はどちらともいえないものや、やや不満を表わすものがいくぶん多い。しかし非常に不満というものは職種別に大差なく、むしろ職員層が多い気味である。

収入別にみると、高所得層ほど満足感が強く、収入が低減するにつれて満足感は弱まり、不満満足をもつものが増えている。夫、妻とも非常に満足と答えたものは、所得が高まるにつれて徐々に増加しており、だいたい満足と答えたものとあわせて高所得層では満足感を示すものが8割をこえるのに対して、低所得層では満足感を示すものが7割を下り、どちらともいえない、やや不満、非常に不満と回答したものが約3割となっている。

年齢が高まるにつれて満足感をもちものは多くなるが、満足感の強弱に若干変化がみられる。非常に満足は、夫、妻とも20代及び50代以上の年齢層に多く、だいたい満足は20代を最低として年齢が高い層ほど多い(妻は40代がもっとも多い)。どちらともいえないは若年層ほど(妻は30代がもっとも多い)多く、やや不満も30代を中心に若年層ほど多い。

2. 家庭のいどいを妨げるもの

夫の約5割、妻の約5.5割が家庭が家族のいどいの場であることを妨げる何らかの原因があると答えている。

いどいを妨げるものが家の外の環境(騒音、ほこり、殺風景、臭気など)にあると答えた夫約3割、妻約4割、家のなかの居住条件(狭い、日当たり風通しがわるい、殺風景など)に問題があると答えた夫と妻が各々約2.5割、家族の人間関係に苦勞があると答えた夫5%, 妻7%で、その他が夫、妻とも約4%ずつある。

家の外の居住条件として、最も回答数の多いのは「やかましい」(夫17%, 妻19%)「ほこりが多い」(夫11%, 妻17%)の2点で、とくに妻にこれらをおげるものが多い。「殺風景」「くさい」をおげるものは夫、妻約3～6%でいどいである。

家の中の居住条件としては、「せますぎてくつろげない」(夫20%, 妻18%)をおげるものが夫多数で、「日当たり、風通しが非常にわるい」(夫5%, 妻6%)「殺風景」(夫、妻とも2%でいどい)が若干となっている。

全般に妻の方にいどいを妨げるものがあると強く感じているようであり、家の内外の居住条件や人間関係の苦勞をおげるものも多く、夫は家のなかの狭さの点で妻を上まわっている。

家庭のいどいを妨げる原因を、職種、事業所所在地、住宅の種類、収入、親との同居等の角度からみると以下のとおりである。

第58表 職種別、地域別、住宅の種類別、世帯収入階級別、親との同居有無別、家庭のいこいを妨げるもの。

		総 数		家 の そ と					
		実 数	%	小計	やかま しい	くさい	ほとりが ひどい	殺風景	その他
夫	計	2,792	100	31.2%	1.68%	2.9%	13.9%	5.8%	1.3%
	職種								
	生産労働者	1,244	100	36.2	1.91	3.9	14.1	5.9	1.2
	職 員 等	1,491	100	27.4	1.50	2.2	8.4	5.8	1.3
	地域								
	7 大 都 市	1,039	100	30.8	1.92	3.5	9.9	5.4	1.6
	そ の 他	1,753	100	31.4	1.54	2.6	11.5	6.0	1.1
	住宅の種類								
	鉄筋アパート	212	100	33.0	1.51	6.1	11.3	9.9	1.4
	木造アパート	291	100	36.4	2.20	2.7	9.6	10.7	1.7
	1 戸 だ て	1,446	100	28.6	1.58	1.6	10.2	3.6	1.2
	2 戸 だ て 以 上	609	100	32.7	1.63	4.4	11.7	6.9	1.0
	そ の 他	147	100	42.2	2.38	5.4	16.3	10.2	2.0
	世帯収入階級								
	～2万円	77	100	35.1	1.43	2.6	15.6	9.1	1.3
	2～3万円	477	100	37.9	1.78	5.7	13.4	8.0	0.4
妻	3～4万円	796	100	30.5	1.93	1.9	10.8	5.9	1.5
	4～5万円	534	100	29.6	1.67	3.0	10.1	6.2	1.7
	5～6万円	304	100	33.2	1.45	2.6	12.8	3.0	0.7
	6～7万円	148	100	26.4	1.69	3.4	6.8	3.4	1.4
	7万円以上	189	100	23.8	1.53	1.0	9.0	3.2	0.5
	親同と居								
	している	740	100	29.3	1.65	1.2	10.5	4.6	1.2
	していない	1,907	100	32.2	1.71	3.5	11.2	6.4	1.4
	計	2,792	100	37.7	1.86	4.1	16.9	5.0	1.4
	職種								
	生産労働者	1,244	100	40.4	2.03	4.8	19.9	5.1	0.9
	職 員 等	1,491	100	35.9	1.73	3.6	14.6	5.0	1.8
	地域								
	7 大 都 市	1,039	100	39.0	1.95	5.0	16.6	5.3	1.7
	そ の 他	1,753	100	37.0	1.80	3.5	17.1	4.8	1.1
	住宅の種類								
	鉄筋アパート	212	100	41.5	1.60	9.0	19.3	9.0	0.9
	木造アパート	291	100	40.9	2.68	1.7	15.8	8.9	1.0
	1 戸 だ て	1,446	100	33.8	1.65	3.2	15.1	3.0	1.0
	2 戸 だ て 以 上	609	100	42.0	1.90	5.4	17.6	5.9	1.8
	そ の 他	147	100	61.0	2.59	5.4	23.8	7.5	4.6
	世帯収入階級								
	～2万円	77	100	39.0	1.30	5.2	22.1	6.5	1.3
	2～3万円	477	100	41.1	2.20	5.5	19.1	7.5	1.5
	3～4万円	796	100	42.3	2.07	3.1	17.1	5.9	2.1
	4～5万円	534	100	36.9	1.76	4.3	18.0	6.4	1.1
	5～6万円	304	100	39.8	1.81	4.3	15.8	4.3	0.8
	6～7万円	148	100	31.8	1.42	8.1	13.5	1.4	2.0
	7万円以上	189	100	23.3	1.75	1.1	11.6	1.1	—
	親同と居								
	している	740	100	33.5	1.70	1.6	13.1	3.4	0.7
	していない	1,907	100	39.2	1.92	5.0	18.4	5.7	1.7

		家 の な か					家族の 人間関係に 苦みがある	その他	回答なし
		小 計	日あたりや 通勤が非常に わるい	せめて よくつづ げない	殺風景	その他			
計		25.4%	4.7%	19.6%	2.1%	1.3%	5.0%	4.1%	50.0%
夫	職種								
	生産労働者	26.9	5.9	21.3	2.6	1.1	5.4	3.9	46.2
	職 員 等	24.2	3.9	18.2	1.7	1.5	4.7	4.3	53.8
	地域								
	7 大 都 市	29.1	4.4	24.2	1.1	0.7	4.6	4.3	45.8
	そ の 他	23.1	4.8	16.9	2.7	1.7	5.2	3.9	52.5
	住宅の種類								
	鉄筋アパート	22.6	0.9	20.3	1.4	0.9	1.9	5.7	48.2
	木造アパート	56.0	10.0	48.8	1.0	1.4	1.7	2.1	34.6
	1 戸 だ て	16.6	4.1	10.4	2.4	1.0	6.3	4.4	58.6
	2 戸 だ て 以 上	29.4	3.6	24.5	2.0	1.3	4.8	3.6	42.9
	そ の 他	41.5	8.2	34.0	2.7	3.4	4.8	4.8	32.0
	世帯収入階級								
	～2万円	26.0	6.5	19.5	2.6	1.3	5.2	2.6	48.1
	2～3万円	28.4	5.9	22.6	4.2	1.0	4.2	3.4	46.5
	3～4万円	26.5	5.0	19.3	2.5	1.4	5.4	3.9	50.4
	4～5万円	31.3	5.1	26.0	0.9	1.5	5.1	4.9	43.4
	5～6万円	21.7	3.6	14.5	1.3	2.3	6.6	3.6	50.7
	6～7万円	17.6	0.7	17.6	0.7	—	3.4	4.1	56.1
	7万円以上	18.5	4.2	14.3	1.6	0.5	6.9	4.2	60.3
	親同と居								
	している	19.6	4.1	13.5	2.0	1.1	10.0	4.7	61.2
	していない	27.9	4.7	22.0	2.1	1.5	3.1	3.7	49.4
妻	計	25.2	5.7	18.0	2.3	1.6	6.9	4.2	44.5
	職種								
	生産労働者	28.2	6.7	20.9	2.9	1.4	7.4	2.7	40.2
	職 員 等	22.9	4.9	16.0	1.7	1.6	6.6	5.4	47.7
	地域								
	7 大 都 市	26.3	5.3	20.1	2.6	1.1	5.9	4.8	41.3
	そ の 他	24.5	5.9	16.8	2.1	1.9	7.5	3.8	46.4
	住宅の種類								
	鉄筋アパート	21.2	1.4	16.5	2.8	0.9	2.8	5.7	44.8
	木造アパート	51.9	11.3	42.6	3.1	0.7	2.4	3.1	27.1
	1 戸 だ て	16.5	5.4	8.9	2.0	1.4	9.3	4.8	50.8
	2 戸 だ て 以 上	30.5	4.3	25.1	2.1	2.6	5.7	2.8	40.1
	そ の 他	40.8	8.8	31.3	2.7	3.4	3.4	6.1	30.6
	世帯収入階級								
	～2万円	31.2	10.4	20.8	3.9	1.3	5.2	3.9	41.6
	2～3万円	29.6	6.5	22.2	4.0	1.3	6.1	4.2	38.4
	3～4万円	28.0	6.7	19.6	2.4	1.9	8.0	3.8	41.6
	4～5万円	30.3	5.8	22.7	1.9	2.1	6.0	5.2	39.5
	5～6万円	21.4	3.6	13.8	2.0	2.3	9.5	3.9	45.1
	6～7万円	12.8	0.7	11.5	1.4	—	3.4	4.1	56.8
	7万円以上	14.3	5.8	9.5	1.1	1.1	11.1	7.4	53.4
	親同と居								
	している	18.2	4.3	11.9	2.2	1.4	16.9	4.1	44.6
	していない	28.2	6.1	20.5	2.4	1.8	3.0	4.4	44.0

(職種別にみた場合)

夫も妻も、生産労働者世帯に家庭のいこいが妨げられていると感じるものが多く、とくに家のなかの狭さや家の外の騒音、ほとりは切実に感じられているようであり、人間関係をあげるものを妨げるもの。

もやや多い。

(事業所々在地別にみた場合)

住居の狭さや家の外の騒音が家庭のいこいを妨げていると感ずるものは、7大都市に非常に多く(前者は夫の1/4、妻の1/5、後者は夫と妻の各々1/5)。その他の地域では、狭さや騒音の問題は減少するがほこりをあげるものがやや多く、人間関係の点でも7大都市を上まわっている。

(住宅の種類別にみた場合)

5種類の住宅のうちもっとも様々な妨害原因の多いのは木造アパートで、とくに住宅の狭さをあげるものが夫約5割、妻の約4割と非常に高率で、騒音、日当たり通風の悪さをあげるものもこの種類の住宅を大幅に上まわる。これに次いで、その他(住込みや同居など)の住宅はほぼ木造アパートと同じような傾向で条件の悪さをあらわし、2戸だても、やはり家が狭い、騒音、ほこりの点をあげるものが多い。鉄筋アパートは木造アパート、その他、2戸だての住宅にくらべてやや恵まれてはいるが、家の狭さ(夫)、ほこり(妻)をあげるものが多く、臭気、殺風景をあげるものもわずかながら目立つ。1戸だては5種の住宅の中ではもっとも恵まれた条件にあり、他の住宅に切実な住宅の狭さに対する不満も1戸だてには少ない。しかし、人間関係の苦勞は1戸だてが最も多く、ついで2戸だて以上、その他となっており、アパート形式の住宅にはこの種の不満は概して少ない。

(世帯収入別にみた場合)

総じて、収入の低い層ほど家の内外の環境に問題のある世帯が多く、収入が高まるにつれて問題が排除される傾向がうかがわれるが、人間関係については収入による有意の差はみうけられない。家の外の悪条件は夫収入5万円未満層、妻収入4万円未満層でとくに高率であり、騒音やほこりをはじめとして臭気、殺風景などを指摘するものが多い。家のなかの悪条件については、夫、妻の収入5万円未満層で高まり、狭さを不満とするものが著しく多く、日当たりや通風、殺風景の指摘も高まる。

(親との同居の有無別にみた場合)

親と同居している世帯の夫の1/10、妻の1/6は人間関係に苦勞があると答え、同居していない世帯のそれぞれ倍、5倍の高率を示している。しかし、一方、家の内外の環境に問題のあるものは同居していない世帯に多く、狭い、騒音、ほこりの三大妨害原因をあげるものが多い。

3. 家の外のはこり、騒音等の原因及び公害に抗議の有無(妻)

(1) 家の外のはこり、騒音等の原因

家の外のはこりや騒音などの原因について、家庭のいこいがほこりや騒音などによって妨げら

れると答えた妻たちのうち約5割のものが交通、約2割のものが工場をあげており、公害問題の存在が推察される。この他、人声約1割強、商店や駅のスピーカー2%、その他が1.5割強である。

事業所々在地別にみると7大都市の工場、その他の地域の交通の割合が高く、人声がうるさいとするものも7大都市に高い。

第51表 地域別家の外のはこり、騒音等の原因

	総 数		交 通	工 場	商店や駅 のスピー カー	人 声	そ の 他
	実 数	%					
計	1,053	100	49.4%	21.1%	1.8%	12.9%	17.3%
7 大 都 市	405	100	42.4	25.7	2.5	17.3	18.8
そ の 他	648	100	53.7	18.2	1.4	10.2	16.4

注) 家庭のいこいが家の外のはこり、騒音等によって妨げられると回答したものを総数とする。

(2) 公害に抗議の有無

家庭のいこいを妨げる工場や交通などの騒音やはこりなどについて、相手方や役所、町内会、婦人会などに抗議や相談をしたことがあるかどうか、そしてその結果よくなったかどうか妻にたずねたところ、約9割の妻が回答を寄せてきたが、うち約3割が抗議や相談を行なったことがあると答えている。しかし、その結果よくなったもの約1割、いくらかよくなったもの約3割弱で、よくならなかったものの方が約6割強と多い。

第52表 妻の年齢別、公害について抗議、相談の経験の有無及びその結果改善の程度

	回 答 者 総 数		あ る				% い
	実 数	%	小 計	よくなった	いくらかよくなった	よくなかった	
計	932	100	340%	3.1%	8.5%	19.4%	69.0%
妻の年齢							
20代	324	100	243	1.9	3.7	15.7	78.7
30代	351	100	38.2	3.4	11.4	23.4	61.8
40代	202	100	33.2	3.4	10.9	18.8	66.8
50代以上	50	100	34.0	8.0	10.0	16.0	66.0

4. 消費生活各面における文化、教養面の充足感(妻)

消費生活の各面について妻の充足感をみると、食生活については栄養面からみても、おいしいものを食べるという面からみても、一応過半数は満足感を表わしており、非常に満足する程度

だいたい満足が栄養面で6割、美味感の面で5割となっている。衣生活については、食生活にくらべてやや満足度が低くなるが、ふだん着の点では一応過半数が満足感を示めし、よそいき着の点では約4割が満足感を示めている。住の問題については、更に食・衣にくらべて満足度はひくくなり、広さや設備の点では4割弱、美化の点ではる割が満足感をあらわすにとどまり、その反面強い不満感をもつものが消費生活の各面のうちもっとも多いのが注目される。

総じて、衣は食より、住は食・衣より満足度が低く、衣・食・住のうちでも、栄養と美味感、ふだん着とよそいき着、住居の広さや設備と美化の2面からみると、消費生活の基礎的な面の充足感にくらべて文化的要求の充足感はまだかなり低いといえよう。

教養、娯楽の面では積極的に満足感を示すものは1/4で他の消費生活面に比べて少なく、どちらともいえないものやや不満が各々1/4ずつあり、不満感をもつものの方が多い。すなわち、教養娯楽という項目の性格からいって、住居ほど痛切な不満感をもつものは多くないかわりに、一応の満足感に達するものは他の項目よりかなり少ないという傾向が示されている。

町の住みごとちや美しさの面でも、満足感をもつものは1/4で、教養娯楽面同様に不満感をもつものが多くなっている。

第53表 職種別消費生活各面についての妻の満足感

	非常に満足			だいたい満足			どちらともいえない		
	計	生産労働者	職員等	計	生産労働者	職員等	計	生産労働者	職員等
食 栄 養	6.2%	5.6%	6.7%	58.7%	55.1%	62.2%	17.9%	19.6%	16.8%
事 おいしいものをたべる	6.3	5.5	7.1	47.6	45.3	49.8	18.1	18.3	18.0
衣 ふだん着	4.3	4.3	4.2	50.4	47.0	53.7	19.7	21.2	18.4
服 よそいき着	3.3	3.6	3.0	34.0	32.1	36.0	19.9	19.4	20.7
住 広さや設備	4.5	3.3	5.4	32.4	29.0	35.8	9.8	10.4	9.1
居 住居の美化	3.3	2.7	3.8	29.2	25.1	34.6	17.7	19.1	16.7
教 養 娯 楽	0.9	0.6	1.1	25.8	22.3	29.0	26.1	27.9	24.9
町の住みごとちや美しさ	2.6	2.2	3.0	27.4	25.6	29.0	24.8	25.2	24.7

	やや不満			非常に不満			不明		
	計	生産労働者	職員等	計	生産労働者	職員等	計	生産労働者	職員等
食 栄 養	6.1%	6.7%	5.5%	0.7%	6.9%	0.5%	10.4%	12.1%	8.3%
事 おいしいものをたべる	8.3	9.4	7.4	0.8	1.2	0.5	18.9	20.3	17.2
衣 ふだん着	12.6	13.7	11.9	1.3	1.5	1.1	11.7	12.3	10.7
服 よそいき着	23.2	21.7	24.4	5.3	5.9	4.8	14.3	17.3	11.1
住 広さや設備	29.9	30.1	30.3	10.8	12.0	9.8	12.6	15.2	9.6
居 住居の美化	25.5	27.3	24.2	8.9	9.0	8.8	15.4	18.8	11.9
教 養 娯 楽	24.1	20.8	27.1	4.9	5.2	4.7	18.2	23.2	13.2
町の住みごとちや美しさ	23.0	21.9	24.6	8.1	8.4	7.8	14.1	16.7	11.0

注) 総数(計2,792、生産労働者1,244、職員等1,491) = 100

消費生活全般にわたって、生産労働者世帯ほど満足度は低く(ただし、衣のよそいき着については職員等世帯のやや不満・どちらともいえないが多い。)、教養・娯楽面、町の住みごとちや美化の点についても概して生産労働者世帯の満足度は低い。

収入別には、次表にみるとおり低所得層ほどあらゆる面で不満感を表す世帯が多くなる。

過半数の世帯が一応満足感を表すようになる所得階層をみると、食の栄養面についてはどの所得階層も一応過半数は満足感を示めしており、食の美味感については収入4万円以上衣のみだん着については収入3万円以上、よそいき着については収入5万円以上で過半数に達するが住の場合はどの所得階層をとっても過半数の満足には達せず、収入5万円以上層になってようやく約4割の世帯が満足感を表すにとどまる。これらの収入階層を下まわるところでは過半数の世帯はどちらともいえないや不満という気持ちを抱いており、とくに住居の広さや設備の点ではどちらともいえないというよりはっきり不満と答えるものが他の面にくらべて非常に多く、うち非常に不満と強い不満感をあらわすものも多い。

第54表 世帯収入階級別、消費生活各面についての妻の満足感

		非常に満足							だいたい満足							
		計	万円 ~3	万円 3~4	万円 4~5	万円 5~6	万円 6~7	万円 7以上	計	万円 ~3	万円 3~4	万円 4~5	万円 5~6	万円 6~7	万円 7以上	
食	栄	養	6.2	4.0	4.8	8.8	4.6	17.6	7.9	58.7	52.3	62.3	66.3	69.4	66.2	49.2
事	おいしいものをたべる		6.3	2.9	6.4	9.2	7.2	13.5	3.7	47.6	43.5	41.8	59.9	59.9	60.8	47.6
衣	ふだん着		4.3	2.5	4.5	5.1	3.6	6.8	5.3	50.4	46.8	50.1	59.4	60.2	58.1	44.5
服	よそいき着		3.3	2.0	4.4	3.2	2.3	6.1	4.2	34.0	26.0	33.4	37.6	47.4	44.6	30.7
住	広さや設備		4.5	3.8	4.5	4.1	5.9	9.5	4.8	32.4	30.8	34.3	33.1	40.5	31.1	34.4
居	住居の美化		3.3	2.9	4.0	3.4	2.3	4.7	3.2	29.2	24.2	28.3	33.5	37.5	37.2	30.7
教	養 娯 楽		0.9	0.7	1.0	0.9	1.0	—	2.6	25.8	19.0	25.4	29.6	33.2	31.5	27.5
	住みごとちや美しさ		2.6	1.8	2.9	3.9	1.3	2.0	4.8	27.4	24.0	30.0	29.2	34.9	31.1	21.7

		どちらともいえない						やや不満							
		計	万円 ～3	万円 3～4	万円 4～5	万円 5～6	万円 6～7	万円 7以上	計	万円 ～3	万円 3～4	万円 4～5	万円 5～6	万円 6～7	万円 7以上
食 養	養	1.9	28.3	17.3	14.8	17.1	7.4	12.7	6.1	8.1	8.3	6.2	3.0	2.0	1.1
事 おい	もの	18.1	25.5	19.5	16.5	14.1	10.8	11.7	8.3	10.5	11.1	7.5	5.3	4.1	2.6
衣 ふだ	ん着	19.7	22.6	23.7	17.6	14.1	16.2	13.2	12.6	17.0	14.2	13.1	12.2	10.1	6.3
服 よそ	いき着	19.9	22.4	22.7	22.1	17.4	19.6	9.5	23.2	26.4	25.5	26.2	21.1	21.6	19.1
住 広さ	や設備	9.8	12.6	11.1	8.2	5.6	10.1	7.9	29.9	29.8	31.8	36.0	29.9	35.1	15.9
居 住居	の美化	17.7	23.6	19.6	15.9	15.8	18.2	10.6	25.5	26.0	28.4	29.2	29.3	22.3	14.8
教 養 娯	楽	26.1	27.4	27.3	30.9	27.3	27.7	18.5	24.1	27.1	26.9	25.1	26.7	22.3	17.5
町 の住	みごとちや美	24.8	27.8	27.3	27.5	24.0	22.3	12.7	23.0	22.9	22.6	24.9	21.4	31.6	25.4

注) 総数(計2,792、～3万円554、3～4万円796、4～5万円634、5～6万円304、6～7万円148、7万円以上189)=100

風 名	番 号	座席面風向	座席面所在場所
		1 24~30人	1 7大都市
		2 100~200	
		3 200人以上	2 中・小都市

陽和三年 5 月

夫の部一この調査票は御主人が書いてください

1. () のなかから空をふまけてください。
 2. 表の裏に番号のついているものは、すべて異なる番。
 ○でかこんでください。

問 けずきんは何人ですか？ (3) 人
 問 この1年間に読書を読みましたか？ 何冊読みましたか？
 ① みた (1 冊) ② 2冊 (3冊以上) をふない

問1 仕事について次の要に書き入れてください。

本会士の姓名	()才	職 司	1. 工員 2. 船員 3. 労働者 4. 中核職員 5. 技術員 研究員 6. 販売員 7. その他	運動時間 (片道)	()時間 ()分	本会との関係	1. 本会 2. 他
--------	------	-----	--	--------------	------------	--------	---------------

問2 あなたが希望になっていることのうち、おもなものを次の表から選
らんで(1)の欄に○をつけてください。
つぎに、あなたがもっとやりたいと思うのが十分にできないでいる
こととすれば(2)の欄に○をつけてください。
(1) (2) の両方とも○をつけてください。

	(イ) た す る	(ロ) た か り な い	(イ) た す る	(ロ) た か り な い
テレビを見る	3	1	読、写	14
ラジオをきく	3	1	読、電通	17
休、息	3	1	新聞、雑誌の読む	18
健康服、着て歩く	4	1	日曜大工	19
新聞をよむ	5	1	つ、り	20
読、書	6	1	旅行、ハイキング、ライ ブなど	21
自分の洗濯	7	1	コレクション (読書)	22
おまものを作る	8	1	お茶、お湯	23
スヌーズをみる	9	1	手芸、彫物、絵画	24
スヌーズを遊ぶ	10	1	料理研究	25
健康服、着て歩く など、いろいろ	11	1	外での飲食	26
健康服、着て歩く など、いろいろ	12	1	家で飲む、	27
健康服、着て歩く など、いろいろ	13	1	関係のない (社会的な) 活動	28
健康服、着て歩く など、いろいろ	14	1	デパートなどでの買い物	29
健康服、着て歩く など、いろいろ	15	1	その他 ()	30

問 2 問 1 の (c) の結果からわかるように、

思ふように願ひや聖油がでないのはなぜですか？
(あではあるものにみな〇をつけてください)

1. ひまがない	4. 家がいなくて場所がない
2. 休暇がとれない	5. 手近かな施設がない
3. 費用がかかる	6. その他 ()

●4 あなたはふたつ、目にサレビを何時まで6いるますか

LEF () 時間 () 金 ()

問6 あなたは己の1年間に経験した次の事柄のうち2つくらいを選びましたか。

1. 1~3 3つ	3. 11きつ以上
2. 6~10 3つ	4. 5きつ以上

(主人公)

どんな本をよみましたか？

(あてはまるものにみな口をつけてください)

1. 小堀 剛	5. 田村 幸雄
2. 高木 正典	6. 田村 幸雄
3. 田村 幸雄	7. 田村 幸雄
4. 田村 幸雄	

[illegible]

《まんなかへ》

上記の本の入手方法は、

(あてはまるものになか回をつけてください)

1. 買った
2. 借りた (イ、国語辞典、ロ、辞書屋で
(ハ、友人などから、ニ、図書館から、ホ、その他)

問 3 図表に図示のある本をよむとき、最初から揃えつづのものを選び
ることが出来ますか？

1. 聞えつけがあり張り出せる
2. 聞えつけがあるが日中の必要なものばかりだ
3. 聞えつけがあり夜更しくもかきまわれない
4. 聞えつけがない
5. どのようになっていないかわからない

問 7 この1年間に限りおける以下の事件に就いたこととなりますか？
 大れと何程くらい度々お付き合いが？(名づいしと色は明瞭しましたか？)
 (仕事での出立は幾度ある？) (家族や友人と関係事件に便知したと
 色は「関係でせうに〇をつけて下さい」

1. あき
何回? () 回
兄だと [1. 一人で へ、部屋で
 [2. 友達と ふ、自分の友人と
1 時間いときれ () 前

2. なし

● あなたは団体野合にはいつていますか？

1. いえ
 二 町内会、自治会、若、労働組合、PTA
 三 家族や地域の会、その他

2. いなか

その団体の集まりに出たり、仕事をしたりするため、1ヵ月平均何時間くらい費いますか？

1. 月に【 】時間くらい
2. 月に何時間というほど使わない

問 8 あなたは自分や異性の友だちを家にまねくことが好きなのですか？

1. 好き 2. 好きでない 3. どちらともいえない

問10: 次の能動のうろ、あなたがこの1年間に1度でも利用したことのあるものには(イ)のらんに入をつけてください。また、あなたがもっと利用したいと思う施設があれば(ロ)のらんに入をつけてください。

	(イ) 利用 したものの	(ロ) もともと持 っていたもの	(イ) 利用 したものの	(ロ) もともと持 っていたもの
全国・道県別			農畜産会	0
福岡県・福岡市			農研会・福岡市	0
福岡県	3	0	学生会	0
福岡市	4	0	東一工務院	0
大牟田市	6	0	国民教育	1

○ 〇 〇 〇

問11 あなたは年次有給休暇として1年間に何日の休暇をもつていますか？
（実際に休養をとった日数でいい。今年1年間に含まれていない日数もいれてください）

1. () 日もっていない
2. 7日以下
3. 8日以上14日以下
4. 15日以上20日以下
5. 21日以上25日以下
6. 26日以上30日以下
7. 31日以上

問12 昨年中（昭和39年1月～12月）に、あなたは有給休暇をどのくらいとりましたか？

1. ほとんど全部とった
2. 一大部分とった（イ、半分以上、ロ、前半分、ハ、半分以上）
3. ほとんどとらなかった
4. その他（ ）

有給休暇全部をとらなかったのはなぜですか？

1. とりたいと思わなかった
2. 忙しくてとれなかった
3. 休みたい人が多いため自分だけとるわけにはいかない
4. 休む暇はない
5. その他（ ）

問13 昨年中（昭和39年1月～12月）の有給休暇は同回かかわけてとりましたか？

1. ほとんど1回にわたって 2. 2回 3. 3回 4. 4回
5. 5回以上10回以下 6. 10回以上20回以下 7. 20回以上

問14 昨年中（昭和39年1月～12月）の有給休暇はどんなことのためにとりましたか？（あてはまるものにのみ○をつけてください）

1. レジャー・リゾートに出かけた 2. 子供の病気
3. 家族の病気など 4. 家の修理・模様替え
5. 自分自身の用事 6. その他（ ）

問15 昨年中（昭和39年1月～12月）に自分の病気以外のことではいかに多くつづけて休んだのか？

1. 1回 2. 2回 3. 3回 4. 4回 5. 5回以上
6. 6回以上 7. 7回以上 8. 8回以上 9. 9回以上 10. 10回以上

その時休んで何月分を休ましたか？

- () 日

その期間に仕事関係以外に休養をされましたか？

1. いっせいに休養した
2. いっせいにではないが、交替で休むように休めた
3. 休暇中は休養しなかった
4. その他（ ）

問16 あなたは年次有給休暇を1週間とか、2週間とかまとめてとりたいと思いませんか？それとも必要なときに少しづつとりたいと思いませんか？

1. まとめてとりたい 2. 少しずつとりたい
3. 両方のくみあわせがよい
4. その他（ ）

問17 あなたは家族についてどう考えますか？
（簡単にあなたの家族についていいもの一つを○をつけてください）

1. 家族がそろって生活が楽しい
2. 家族はそろって生活が楽しいが、
3. 家族がそろって生活が楽しいが、
4. 家族がそろって生活が楽しいが、
5. その他（ ）

問18 家族が家族のいかに仲良くしてこの新しい世帯に暮らすと満足していますか？

1. 非常に満足 2. 満足
3. どちらでもない 4. 不満
5. 非常に不満

家族がいかに仲良くしてこの新しい世帯に暮らすと満足していますか？

1. 家のことが 2. 家のことが 3. 家のことが 4. その他（ ）

職業	年齢	性別	世帯収入	世帯人数
1	30～39	1	100～199	1
2	40～49	2	200～299	2
3	50～59	3	300～399	3
4	60～69	4	400～499	4
5	70～79	5	500～599	5
6	80～89	6	600～699	6
7	90～99	7	700～799	7
8	100以上	8	800以上	8

勤労者家庭の消費生活水準に関する意識調査(B票)

妻の部—この調査票は奥様が書いてください

労働者家庭調査局
昭和39年5月

1. () のなかには名前を書いてください。 2. どのくらい収入がありますか？ 3. どのくらい支出がありますか？

問1 家族構成について次の表に書き込んでください

家族の構成	人数	年齢	性別	職業	収入	支出
あなた						
ご主人						
ご主人の収入						
ご主人の支出						
ご主人の収入						
ご主人の支出						

問2 あなたは仕事をして、休んだり、食べたりする以外に、つづいたり、自由にできる時間、つまり「ひま」とか「余暇」がありますか？

1. ほとんどない 2. ほとんどない 3. ほとんどない 4. ほとんどない 5. ほとんどない 6. ほとんどない 7. ほとんどない 8. ほとんどない 9. ほとんどない 10. ほとんどない

問3 もしもう少し余暇があれば、どんなことに使いたいですか？

1. 読書 2. 旅行 3. 旅行 4. 旅行 5. 旅行 6. 旅行 7. 旅行 8. 旅行 9. 旅行 10. 旅行

問4 あなたが余暇になさっていることのうち、おもしろいと思うものは？

1. 読書 2. 旅行 3. 旅行 4. 旅行 5. 旅行 6. 旅行 7. 旅行 8. 旅行 9. 旅行 10. 旅行

問5 もしもう少し余暇があれば、どんなことに使いたいですか？

1. 読書 2. 旅行 3. 旅行 4. 旅行 5. 旅行 6. 旅行 7. 旅行 8. 旅行 9. 旅行 10. 旅行

問6 もしもう少し余暇があれば、どんなことに使いたいですか？

1. 読書 2. 旅行 3. 旅行 4. 旅行 5. 旅行 6. 旅行 7. 旅行 8. 旅行 9. 旅行 10. 旅行

問7 もしもう少し余暇があれば、どんなことに使いたいですか？

1. 読書 2. 旅行 3. 旅行 4. 旅行 5. 旅行 6. 旅行 7. 旅行 8. 旅行 9. 旅行 10. 旅行

問8 もしもう少し余暇があれば、どんなことに使いたいですか？

1. 読書 2. 旅行 3. 旅行 4. 旅行 5. 旅行 6. 旅行 7. 旅行 8. 旅行 9. 旅行 10. 旅行

問9 もしもう少し余暇があれば、どんなことに使いたいですか？

1. 読書 2. 旅行 3. 旅行 4. 旅行 5. 旅行 6. 旅行 7. 旅行 8. 旅行 9. 旅行 10. 旅行

問10 もしもう少し余暇があれば、どんなことに使いたいですか？

1. 読書 2. 旅行 3. 旅行 4. 旅行 5. 旅行 6. 旅行 7. 旅行 8. 旅行 9. 旅行 10. 旅行

うらへつづ

問 10 あなたはこの1年間に知り合いで遊びや旅行に出かけたことがありますか？ 映画、映画、だれといきましたか？ いちばん多いと言はれ何泊しましたか？ (仕事での関係を除きます。家族や友人と団体旅行に参加したと言は「団体」に○をつけてください)

【例題】—— () 国

1. 名 詞 だれと? 4. 人々で 1. 隣で
2. 家と 2. 自分の人々と
3. いくら取るときね () 法

問 11 あなたは同好会に入っていますか？

1 入っている	①、婦人団体 ②、町内会・自前会 ③、PTA ④、趣味や娯楽の会	⑤、労働組合 ⑥、会社の家庭会 ⑦、労組の光栄会 ⑧、その他
2 入っていない		

その両者の差に出たり、仕事をしたりするために、1ヵ月半角毎時間
くわい費いますか？

1 月に () 時間くらい
2 月に日特別というはど使わない

問 12 おたくで家族全員の暮らしをして外出することがありますか？

- 1 お寺まで行って自由に参詣する
- 2 なまこをくすにしないが、お寺に長時間をすごすることも
ある
- 3 加賀藩のおつかいの時だけ
- 4 るすにすることは無い

問18 あなたは結婚ア・パートと上戸だての家（家つぎ）と、どちらに入りたい
と聞きますか？

1. 映画アート 2. 1月だけ 3. どのおともいない

問 14 この1年間にあなたのご主人の女たちを車座にまわったことがありますか。

1 あ る (イ、ち、や、わ、い、 π 、た、ま) 2 な い

あなたは家族や仕事に支えられていることが好きな理由ですか？

1 母音 2 母音の位置 3 エッジと母音の位置

問 15 下記の年中行事のうち、家庭で行事や、祝賀とするものに○をつけてください。

1. 正月	5. 花びら	9. 家族のふしじま
2. ひなまつり	6. おひん	10. 結婚記念日
3. 5月のせう	7. 月見	11. そのほか ()
4. おひがん	8. クリスマス	

同18 次の数量のうち、あなたがこの1年間に1度でも利用したことのあるものには(イ)の欄に○をつけてください。

またあなたがもつと利用したいと思う施設があれば（口）のうちに

問 17 車庫が収容（おなた自身をふくめて）のいいこの量としてこのまじい状況にあると判断していますか？

2. 非常に満足 3. ほしい満足 4. どちらともいえない
5. やや不満 6. 非常に不満

東座が正しい場であることをさまたげる次のようなものがありますか？

1. 家のまどが、
 2. 家のなかで、
 3. 左側の人民路橋に苦悶がある
 4. その船

イ、おかしだい 一、船風
 ウ、くさい 二、その船
 エ、ほろろがしだい
 オ、日本たけな海風が常になわい
 カ、オオサキでくつろげない
 キ、船風
 ク、その船

(上の図で「1. 家のそばが……」に○を○はたす方へ)

1. 文通 2. 工場 3. 病院や駅の大ビーカー
4. 入声 5. その他()

車のそとの音、臭気、ほこり等について相手方や役所、町内会、商工会などに抗議や相談をしたことがありますか？ その結果よくくなりましたか？

1. 答は、
 1. よく食べた
 2. いちがきよく食べた
 3. よく食べてない
 4. ない

問 18 家族全員の収入を合わせると、おたくの1カ月の収入はいくらになりますか？（給料、由置票収入、内職収入、不労所得収入などをみな含めてください。ただし、税金、社会保険料、ボーナスはふくみません。）ご主人の給料以外に収入がありますか？

1カ月の国庫収入合計()円()千円

地主人の給付以外の収入

1	あり
2	なし

現在のおたこの収入で暮計が十分にまかなえていますか？

1. 十分 2. なんとか重にあっていゝ 3. 不思議も

問 19 おたくでは商業手帳は「1月」にだいたいどのくらい刷りますか。（商業手帳は年と月別に、年別に、半別に、3カ月に1回、1カ月に1回の月別、細算は、6カ月に1回、旅行費用又はその他立金、取戻品と運送品との購入費、その他旅費と雑費のたまり金等、先き受取の小切金の合計の計と算定してください。ただし、半切、3カ月の切、商業手帳と旅行の切は別で、3カ月に1回、6カ月に1回の半切の切は別で算定してください。）

1. 年月()月

映画観劇費は半額おやしますか！ それともへちした！と聞きますか！

1. 土砂 2. へちま 3. 今更にでる

問 20 おたくの食・食・住・教育関係の圖について、また町の組み立ての仕組みについて、あなたはどのように感じていますか？
 この圖のあとではより詳しくおまづけてください。

		お母に贈	お父に贈	お兄に贈	お姉に贈	お友に贈
全 年	家族の画	1				
	おいしいものを たべた	2				
水 原	ふんわり	3				
	よそいき着	4				
1年 用	皮ふや数種	5				
	法朗の舞を	6				
音楽通事の紙		7				
画の注みとにほひ笑した		8				

	(イ) 利用した 台数	(ロ) 利用した 台数	(イ) 利用した 台数	(ロ) 利用した 台数
全国、道庁級	1	1	1	1
県庁級、市町村級	2	2	2	2
町、市、区	3	3	3	3
町、市、区	4	4	4	4
町、市、区	5	5	5	5

県名	青 島	事業所規模	事業所所在
1. 30～99人	1. 7大都市		
2. 100～499	2. その他		
3. 500人以上			

姓名						
----	--	--	--	--	--	--

勤労者家庭の消費生活水準に関する意識調査(C票)

妻の部 — この調査票は奥様が書いてください。

昭和39年5月

問21 つぎのもののうち、現在あるものには(イ)のらんには○をつけてください。
また現在はないが、今後ぜひほしいと思っているものがあれば(ロ)のらん
に○をつけてください。

		(イ) おたくに あるもの	(ロ) ぜひほし いもの		(イ) おたくに あるもの	(ロ) ぜひほし いもの
水	1			自 転 車	26	
電気モーター式洗戸	2			オートバイ・スクーター	27	
ガス	3			自 動 車	28	
石油ストーブ	4			蓄	29	
電 熱 釜	5			し ょ う ぎ	30	
ガスストーブ	6			サ ー ビ ス	31	
石油ストーブ	7			マ ー ク シ ャ ン	32	
電気ストーブ	8			ト ラ ン プ	33	
電気こたゝ	9			花 丸	34	
電気せんたく機	10			か ら た	35	
電気(ガス)冷蔵庫	11			ダイヤモンドゲーム	36	
電気(ガス)がま	12			闘 争 用 兵	37	
ラ レ ビ	13			バドミントン	38	
ラ レ ー	14			ボ ー ル	39	
音響機・ステレオ プレーヤー	15			野 球 用 兵	40	
カ ン	16			テ ニ ス	41	
まつえい盛(8ミリ等)	17			ビ ン ゴ ン	42	
ビ ア	18			ス ケ ー	43	
オ ー ガ ン	19			ス ケ ー ト	44	
バ ル ー ヴ ィ ン	20			つ り 具	45	
オ ー ー	21			フ ル フ	46	
カ ン レ レ	22			競	47	
その他の商品	23			犬の種()		
あなたの本棚(題)	24			〃 ()		
ご主人の本棚(題)	25			〃 ()		

